



AVVENTAGE
AVレシーバー
RX-A880
取扱説明書

MusicCast

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、ご家庭で映像や音声を楽しむための製品です。
 - 本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。
 - 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
 - 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。
- この製品には、本書のほかに「スタートアップガイド」が付属しています。はじめに「スタートアップガイド」をご覧ください。

目次

ご使用になる前に

本説明書について.....	9
本説明書について.....	9
付属品を確認する.....	9
付属品を確認する.....	9
リモコンで操作するには.....	9
リモコンに電池を入れる.....	9
リモコンの操作範囲.....	9

本機の特長

本機でできること.....	10
関連アプリ.....	12
AV SETUP GUIDE.....	12
AV CONTROLLER.....	12
MusicCast CONTROLLER.....	12
各部の名称.....	13
本体前面の各部の名称と機能.....	13
本体前面ディスプレイの各部の名称と機能.....	15
本体背面の各部の名称と機能.....	17
リモコンの各部の名称と機能.....	19

9

準備する

1 スピーカーを接続する.....	21
スピーカーの名称と機能.....	21
スピーカーシステムと接続するスピーカー.....	22
スピーカーの準備.....	22
スピーカーインピーダンスを設定する.....	22
スピーカーケーブルの準備.....	23
スピーカーの接続のしかた.....	23
スピーカーの配置（スピーカーシステム基本編）.....	25
スピーカーの配置（スピーカーシステム応用編）.....	31
2 テレビを接続する.....	34
テレビを HDMI 接続する.....	34
複数のテレビやプロジェクターを HDMI 接続する.....	34
3 AV 機器を接続する.....	35
BD/DVD プレーヤーなどを HDMI 接続する.....	35
AV 機器を HDMI 以外で接続する.....	35
4 FM/AM アンテナを接続する.....	38
FM/AM アンテナを接続する.....	38
5 ネットワーク接続の準備をする.....	39
ネットワーク接続するには.....	39
ネットワークケーブルを接続する（有線接続）.....	39
無線アンテナを準備する（無線接続）.....	40
6 その他の機器を接続する.....	41
外部パワーアンプを接続する.....	41
トリガー機能対応の機器を接続する.....	42

7 電源コードを接続する	42	圧縮音源を楽しむ	56
電源コードを接続する	42	圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ（ミュージックエンハンサー）	56
8 スピーカー設定を行う	43	Dolby Atmos®や DTS:X™を楽しむ	57
スピーカー構成を設定する	43	Dolby Atmos®や DTS:X™を楽しむ	57
スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）	44	複数の部屋で音楽を楽しむ	58
複数の視聴位置で YPAO 測定する（マルチ測定）	46	複数の部屋で音楽を再生する（マルチゾーン）	58
YPAO の測定結果を確認する	47	ゾーン 2 スピーカーを接続する	59
最後に保存した YPAO 補正値に戻す	48	ゾーン 2 から本機を操作する（リモート接続）	61
YPAO のエラーメッセージについて	49	ゾーン 2 を操作する	62
YPAO の警告メッセージについて	50	すべての部屋で同じ音楽を聞く（パーティーモード）	63
9 MusicCast を設定する	51		
MusicCast について	51		
MusicCast CONTROLLER について	51		
MusicCast ネットワークに登録する	51		
音を楽しむ	52	再生する	64
音場効果を楽しむ	52	基本操作	64
お好みのサウンドを選ぶ	52	再生の基本操作	64
立体的な音場効果を楽しむ（シネマ DSP 3D）	52	HDMI 出力端子を切り替える	64
コンテンツに適した音場効果を楽しむ	53	本体前面ディスプレイの表示を切り替える	65
サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）	53	再生画面の各部の名称と機能	66
前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ（バーチャルシネマ フロント）	53	ブラウズ画面の各部の名称と機能	67
ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ（サイレントシネマ）	53	FM/AM ラジオを聞く	68
音場効果をかけずに楽しむ	54	周波数を指定してラジオ局を選ぶ	68
オリジナルの音声を楽しむ（ストレートデコード）	54	登録したラジオ局を選ぶ	69
音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）	54	FM ラジオ局を自動で登録する（FM オートプリセット）	69
原音に忠実な音質を楽しむ（ピュアダイレクト）	55	ラジオ局を手動で登録する	70
より豊かな低音を楽しむ	55	ラジオ局の登録を解除する	70
低音を楽しむ（エクストラベース）	55	ラジオ局の登録をすべて解除する	71

USB 機器の曲を再生する.....	75	再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）	86
USB 機器の曲を再生する.....	75	オプションメニューの基本操作.....	86
メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する.....	76	オプションメニュー一覧.....	87
メディアサーバー（パソコン/NAS）の共有設定を行う.....	76	音声のトーンを調整する.....	88
メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する.....	76	YPAO 測定結果をもとに音量を自動調節する.....	88
インターネットラジオを聞く.....	78	中央に定位する音（セリフなど）を調整する.....	89
インターネットラジオ局を選ぶ.....	78	リップシンクの補正值を調整する.....	90
インターネットラジオ局をお気に入りに登録する.....	78	ミュージックエンハンサーを設定する.....	90
radiko.jp でラジオを聞く.....	79	再生時の音量差を調整する.....	91
radiko.jp でラジオ局を選ぶ.....	79	エクストラベースを設定する.....	91
Spotify サービスを利用する.....	80	映像の信号処理を設定する.....	91
Spotify Connect で高音質の音楽を聞く.....	80	音声と同時に出力する映像を設定する.....	92
Deezer サービスを利用する.....	80	モノラル多重音声入力時の出力音声を設定する.....	92
Deezer サービスを利用する.....	80	シャッフル/リピート再生を設定する.....	92
便利な再生機能.....	81	FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する.....	93
シーン機能.....	81	テレビ画面でステータス情報を確認する.....	93
ショートカット機能.....	84		
		設定する	94
		機能設定を変更する（設定メニュー）	94
		設定メニューの基本操作.....	94
		設定メニュー一覧.....	95

スピーカー設定	100	音声設定	107
スピーカーシステムの構成を設定する.....	100	音声信号の情報を確認する.....	107
フロントスピーカーのサイズを設定する.....	100	リップシンク補正を設定する.....	107
センタースピーカーの有無やサイズを設定する.....	101	リップシンクの調整方法を設定する.....	108
サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する.....	101	リップシンクの補正值を調整する.....	108
サラウンドスピーカーの配置を設定する.....	102	音場プログラムを選択する.....	108
サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを設定する.....	102	音場プログラムの効果量を調節する.....	109
プレゼンススピーカーの有無やサイズを設定する.....	103	直接音が再生されてからプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節する.....	109
プレゼンススピーカーの配置を設定する.....	103	プレゼンス音場の広がり感を調節する.....	110
低音クロスオーバーの周波数を設定する.....	104	プレゼンス音場の減衰量を調節する.....	110
サブウーファーの有無を設定する.....	104	残響の余韻の長さを調節する.....	110
サブウーファーの位相を設定する.....	104	直接音が再生されてから残響音が生じるまでの時間を調節する.....	110
スピーカーの距離を個別に設定する.....	104	残響の余韻の強さを調節する.....	110
スピーカーの音量を個別に調整する.....	105	直接音が再生されてからサラウンド音場が生じるまでの時間を調節する.....	111
イコライザーを設定する.....	105	サラウンド音場の広がり感を調節する.....	111
テストトーンを出力する.....	106	サラウンド音場の減衰量を調節する.....	111
前回の YPAO 測定結果を呼び出す.....	106	直接音が再生されてからサラウンドバックスピーカー音場が生じるまでの時間を調節する.....	111
		サラウンドバックスピーカー音場の広がり感を調節する.....	111
		サラウンドバックスピーカー音場の減衰量を調節する.....	111
		サラウンドデコードで使用するデコーダーを選択する.....	112
		センタースプレッドを設定する.....	113
		センター定位の強さ（広がり感）を調節する.....	113
		全体の音量を調節する.....	113
		前後の音量バランスを調節する.....	113
		左右の音量バランスを調節する.....	113
		プレゼンススピーカー使用時に音声の高さバランスを調節する.....	114
		モノラルミックスを設定する.....	114
		ダイナミックレンジの調節方法を設定する.....	114
		音量の上限を設定する.....	114
		電源を入れたときの音量を設定する.....	115
		音場プログラムのエフェクト量を自動調節する.....	115

バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を設定する	115	マルチゾーン設定	127
シーン設定	116	ゾーン 2 の情報を確認する	127
シーン機能で呼び出す項目を設定する	116	ゾーン 2 の音量調節を設定する	127
シーン名を変更する	117	ゾーン 2 の音量の上限を設定する	127
ビデオ/HDMI 設定	118	ゾーン 2 の電源投入時の音量を設定する	127
ビデオ/HDMI 信号の情報を確認する	118	ゾーン 2 とメインゾーンとの時間差を調整する	128
映像の信号処理を設定する	118	ゾーン 2 の音声をモノラルに変換する	128
HDMI 映像信号の出力解像度を設定する	118	ゾーン 2 の音声にミュージックエンハンサーを設定する	128
HDMI 映像信号の出力アスペクト比を設定する	119	ゾーン 2 の音声のトーンを調整する	128
HDMI コントロールを設定する	119	ゾーン 2 の音声にエクストラベースを設定する	128
テレビからの音声を入力する端子を設定する	119	ゾーン 2 の音声のバランスを調整する	128
ARC を設定する	120	ゾーン名を変更する	129
本機とテレビのスタンバイ連動を設定する	120	ゾーン 2 のパーティーモード切り替えを設定する	129
HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する	120		
HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定する	120		
HDMI スタンバイスルーを設定する	121		
ネットワーク設定	122		
ネットワーク情報を確認する	122		
ネットワークへの接続方法（有線/無線）を設定する	122		
ネットワーク情報を自動設定する（DHCP 機能）	122		
ネットワーク情報を手動設定する	123		
ネットワークスタンバイを設定する	123		
MAC アドレスフィルターを設定する	124		
MAC アドレスを設定する	124		
デジタルメディアコントローラーからの操作を設定する	124		
AirPlay で再生する機器と本機との音量連動を設定する	125		
本機のネットワーク名を設定する	125		
本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定する	125		
Bluetooth 設定	126		
Bluetooth を設定する	126		
Bluetooth スタンバイを設定する	126		

システム設定.....	130	アドバンスト設定を変更する(アドバンストセットアップメニュー).....	138
システム情報を確認する.....	130	アドバンストセットアップメニューの基本操作.....	138
メニュー言語を設定する.....	130	アドバンストセットアップメニュー一覧.....	138
映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する.....	131	スピーカーインピーダンス設定を変更する(SP IMP.).....	138
入力スキップを設定する.....	132	リモコンIDを設定する(REMOTE ID).....	139
本体前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する.....	132	ビデオ信号方式を設定する(TV FORMAT).....	139
本体前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する.....	133	HDMI映像出力の制限を解除する(MON.CHK).....	139
自動再生を設定する.....	133	HDMI4K信号のフォーマットを設定する(4K MODE).....	140
PROGRAMキー操作でスキップする音場プログラムを設定する.....	133	DTSフォーマットの通知を設定する(DTS MODE).....	140
リモコンのPROGRAMキーの機能を設定する.....	134	設定を保存/復元する(BKUP/RSTR).....	141
リモコンのカラーキーの機能を設定する.....	134	設定を初期化する(INIT).....	142
本体前面ディスプレイの明るさを設定する.....	135	ファームウェアを更新する(UPDATE).....	142
音量表示の単位を設定する.....	135	ファームウェアバージョンを確認する(VERSION).....	142
テレビ画面のショートメッセージ機能を設定する.....	135		
テレビ画面の背景画像を設定する.....	135		
TRIGGER OUT端子に接続した機器との連動を設定する.....	135		
トリガー機能による電気信号出力を入力ごとに設定する.....	136		
電気信号出力を手動で制御する.....	136		
トリガー機能により連動するゾーンを設定する.....	136		
自動スタンバイまでの時間を設定する.....	136		
エコモードを設定する.....	137		
設定を保護する.....	137		
ファームウェアを更新する.....	137		
		困ったときは	143
		故障かな?と思ったら.....	143
		故障かな?と思ったら最初にご確認ください.....	143
		電源/システム/リモコンのトラブル.....	143
		音声のトラブル.....	145
		映像のトラブル.....	147
		FM/AMラジオのトラブル.....	148
		USBのトラブル.....	148
		ネットワークのトラブル.....	149
		Bluetooth®のトラブル.....	151
		本体前面ディスプレイのエラー表示.....	153
		本体前面ディスプレイのエラー表示.....	153

付録

155

ファームウェアを更新する.....	155
ファームウェアの更新について.....	155
ネットワーク経由でファームウェアを更新する.....	156
ワイヤレスサラウンドスピーカーを使う（MusicCast サラウンド機能）.....	157
ワイヤレスサラウンドスピーカーを使う（MusicCast サラウンド機能）.....	157
無線接続する.....	159
無線ネットワークの接続方法を選ぶ.....	159
WPS ボタンを使って無線接続する.....	159
iOS デバイスを使って無線接続する.....	160
アクセスポイントの一覧から無線接続する.....	161
手動で無線接続する.....	162
PIN コード式の WPS で無線接続する.....	163
入出力端子とケーブル.....	164
映像/音声を入出力する端子.....	164
映像を入出力する端子.....	164
音声を入出力する端子.....	164
プレゼンススピーカーの設置について.....	165
プレゼンススピーカーの設置.....	165
プレゼンススピーカーをフロントハイイトに設置する.....	165
プレゼンススピーカーをオーバーヘッドに設置する.....	165
プレゼンススピーカーにドルビーネーブルド SP を使用する.....	166
用語/技術解説.....	167
音声に関する用語.....	167
HDMI/映像に関する用語.....	169
ネットワークに関する用語.....	169
ヤマハテクノロジーに関する用語.....	170

対応している機器とフォーマット.....	171
対応している Bluetooth 機器.....	171
対応している USB 機器.....	171
対応している AirPlay 機器.....	171
対応しているファイルフォーマット.....	171
映像信号の流れ.....	172
映像信号の流れ.....	172
映像信号変換表.....	172
HDMI について.....	173
HDMI コントロールと連動機能.....	173
オーディオリターンチャンネル（ARC）.....	174
対応している HDMI 信号.....	175
商標.....	176
商標.....	176
主な仕様.....	178
主な仕様.....	178
初期値一覧.....	183
オプションメニュー初期値一覧.....	183
設定メニュー初期値一覧.....	183
アドバンストセットアップメニュー初期値一覧.....	186

ご使用になる前に

本説明書について

本説明書について

本説明書をお読みになる時は、次の項目にご注意ください。

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本説明書では、テレビ画面を見ながらの操作を主として説明しています。テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。
- 本説明書では、付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本説明書では、iPhone、iPad、iPod touch を総称して「iPhone」と表記します。説明文に限定する記載がない場合、「iPhone」という表記は iPhone、iPad および iPod touch を意味します。
- 本説明書内で使用されているマーク
 - 「 警告」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報が記載されています。
 - 「 注意」は、傷害を負う可能性が想定される情報が記載されています。
 - 「注意」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報が記載されています。
 - 「お知らせ」は、知っておくと便利な補足情報が記載されています。

付属品を確認する

付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

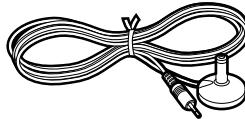
□ AM アンテナ



□ FM アンテナ



□ YPAO 用マイク



□ 電源コード

□ リモコン

□ 単4乾電池（2本）

□ 取扱説明書

□ スタートアップガイド

お知らせ

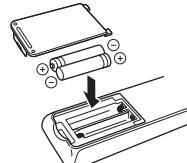
最新の取扱説明書とスタートアップガイドは次のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>

リモコンで操作するには

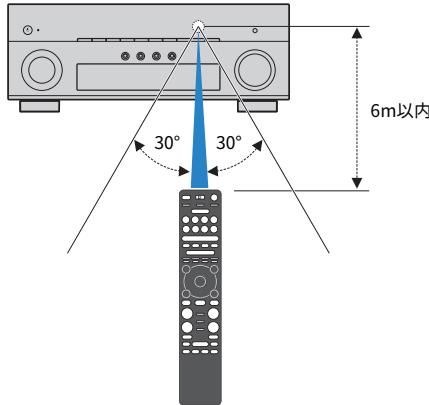
リモコンに電池を入れる

付属の乾電池を、正しい向き（+ヒー）でリモコンに入れてください。



リモコンの操作範囲

リモコンを本体のリモコン信号受光部に向かって、次の範囲内で操作してください。



本機の特長

本機でできること

2~7.1 チャンネルのスピーカー システムに対応

使用するスピーカーの本数に応じて、さまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫できます。

- ・「7.1/5.1.2 システムで使用する」(25 ページ)
- ・「5.1.2 システムで使用する」(26 ページ)
- ・「7.1 システムで使用する」(27 ページ)
- ・「5.1 システムで使用する」(28 ページ)
- ・「3.1.2 システムで使用する」(29 ページ)
- ・「バーチャルシネマフロントで使用する」
(30 ページ)
- ・「複数の部屋で音楽を再生する（マルチゾーン）」
(58 ページ)

スピーカー設定を簡単に自動調整 (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します
(YPAO : Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。

- ・「スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）」
(44 ページ)

臨場感豊かな音の空間を再現

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

- ・「立体的な音場効果を楽しむ（シネマ DSP 3D）」
(52 ページ)
- ・「コンテンツに適した音場効果を楽しむ」
(53 ページ)
- ・「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）」(53 ページ)
- ・「ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ（サイレントシネマ）」(53 ページ)
- ・「オリジナルの音声を楽しむ（ストレートデコード）」(54 ページ)
- ・「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」
(54 ページ)
- ・「原音に忠実な音質を楽しむ（ピュアダイレクト）」(55 ページ)
- ・「低音を楽しむ（エクストラベース）」
(55 ページ)
- ・「圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ（ミュージックエンハンサー）」(56 ページ)
- ・「Dolby Atmos®や DTS:X™を楽しむ」
(57 ページ)

ネットワーク経由でさまざまなコ ンテンツに対応

本機をネットワークに接続すると、ネットワーク経由で幅広いコンテンツを楽しめます。

- ・「AirPlay で iTunes/iPhone の音楽を再生する」
(74 ページ)
- ・「メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する」(76 ページ)
- ・「インターネットラジオ局を選ぶ」
(78 ページ)
- ・「radiko.jp でラジオ局を選ぶ」(79 ページ)
- ・「Spotify Connect で高音質の音楽を聞く」
(80 ページ)
- ・「Deezer サービスを利用する」(80 ページ)

さまざまなコンテンツを再生

本機は、複数の HDMI 端子に加え、各種の入力/出力端子を装備しています。BD/DVD プレーヤーなどのビデオ機器や、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、スマートフォンなどの Bluetooth 機器、ゲーム機や USB 機器などさまざまなコンテンツを再生できます。

- ・「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」
(68 ページ)
- ・「Bluetooth® 機器の音声を本機で再生する」
(72 ページ)
- ・「USB 機器の曲を再生する」(75 ページ)

便利な機能

入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効/無効など）をワンタッチで切り替えられるシーン機能や、HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できる連動機能などが搭載されています。

- ・「入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)」(81 ページ)
- ・「お好みのコンテンツをショートカットに登録する」(84 ページ)
- ・「HDMI コントロールと連動機能」
(173 ページ)
- ・「オーディオリターンチャンネル (ARC)」
(174 ページ)

機能追加のお知らせ

本機は、ワイヤレスでスピーカーと接続する機能を装備しています。本機で再生しているコンテンツを Bluetooth 機器（スピーカー／ヘッドホンなど）に送信できます。また、MusicCast サラウンド（子機）機能に対応した機器を使用すれば、サラウンドスピーカーやサブウーファーもワイヤレス化できます。

- ・「本機の音声を Bluetooth® 対応スピーカー/ヘッドホンで再生する」(73 ページ)
- ・「ワイヤレスサラウンドスピーカーを使う (MusicCast サラウンド機能)」(157 ページ)

関連アプリ

AV SETUP GUIDE



「AV SETUP GUIDE」は、AV レシーバーとプレーヤーなどの AV 機器とのケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に行えるアプリです。スピーカー接続やテレビ・AV 機器の接続、スピーカーシステムの選択などのさまざまな設定をガイドしながら進めます。

詳しくは App Store または Google Play™で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

AV CONTROLLER



「AV CONTROLLER」は、AV レシーバーの電源の ON/OFF、ボリューム調節などの基本操作をはじめ、入力ソースの切り替え、曲の再生・ストップなど、さまざまな操作が行えるアプリです。

詳しくは App Store または Google Play™で「AV CONTROLLER」を検索してください。

MusicCast CONTROLLER



「MusicCast CONTROLLER」は、MusicCast 対応機器を操作するアプリです。別々の部屋に設置した複数の MusicCast 対応機器で音楽を共有することができます。

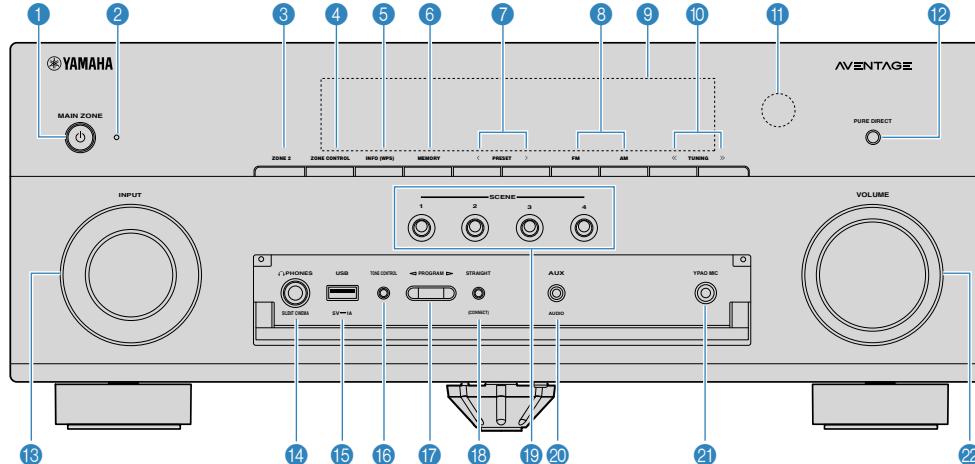
スマートフォンなどのモバイル機器をリモコンとして、MusicCast 対応機器の選曲や設定が簡単にできます。

詳しくは App Store または Google Play™で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。

各部の名称

本体前面の各部の名称と機能

本体前面の各部の名称と機能について説明します。



① MAIN ZONE (メインゾーン電源) キー

本機の電源を入/切（スタンバイ）します。

② スタンバイ表示

本機がスタンバイ時、次のいずれかの状態で点灯します。

- HDMI コントロールが有効（119 ページ）
- スタンバイスルーが有効（121 ページ）
- ネットワークスタンバイが有効（123 ページ）
- Bluetooth スタンバイが有効（126 ページ）

③ ZONE2 (ゾーン 2) キー

ゾーン 2 出力を有効/無効にします（62 ページ）。

④ ZONE CONTROL (ゾーンコントロール) キー

ゾーン 2 出力が有効なときに、本体前面のキーやつまみで操作するゾーン（メインゾーン、ゾーン 2）を切り替え、再生操作ができます（62 ページ）。

⑤ INFO (WPS) (インフォ [WPS]) キー

本体前面ディスプレイの表示を切り替えます（65 ページ）。

数秒間押し続けると、無線 LAN ルーターの WPS ボタンを使って、無線ネットワーク接続の設定ができます（159 ページ）。

⑥ MEMORY (メモリー) キー

FM/AM ラジオ局をプリセットします（70 ページ）。数秒間押し続けると、Bluetooth 機器や USB 機器の曲、ネットワークコンテンツをショートカットに登録できます（84 ページ）。

⑦ PRESET (プリセット) キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（69 ページ）。

ショートカットに登録した Bluetooth 機器や USB 機器の曲、ネットワークコンテンツを選びます（85 ページ）。

⑧ FM/AM キー

FM/AM を切り替えます（68 ページ）。

⑨ 本体前面ディスプレイ

各種情報が表示されます（15 ページ）。

⑩ TUNING（チューニング）キー

ラジオ周波数を切り替えます（68 ページ）。

⑪ リモコン信号受光部

リモコンの信号を受信します（9 ページ）。

⑫ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）キー

ピュアダイレクトを有効/無効にします（55 ページ）。

⑬ INPUT（インプット）つまみ

入力を切り替えます。

⑭ PHONES（フォーンズ）端子

ヘッドホンを接続します。

⑮ USB 端子

USB 機器を接続します（75 ページ）。

⑯ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー

出力される音声の高音域音量と低音域音量を、それぞれ調節します（88 ページ）。

⑰ PROGRAM（プログラム）キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます（52 ページ）。

⑱ STRAIGHT（CONNECT）（ストレート【コネクト】）キー

ストレートコードを有効/無効にします（54 ページ）。

5 秒間押し続けると、MusicCast CONTROLLER を使って、ネットワークの設定ができます（51 ページ）。

⑲ SCENE（シーン）キー

シーン機能で設定した複数の項目をワンタッチで切り替えます（81 ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

㉐ AUX 端子

携帯音楽プレーヤーなどの機器を接続します（37 ページ）。

㉑ YPAO MIC（YPAO マイク）端子

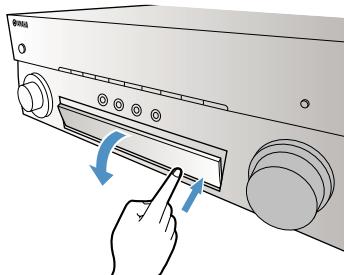
付属の YPAO 用マイクを接続します（44 ページ）。

㉒ VOLUME（ボリューム）つまみ

音量を調節します。

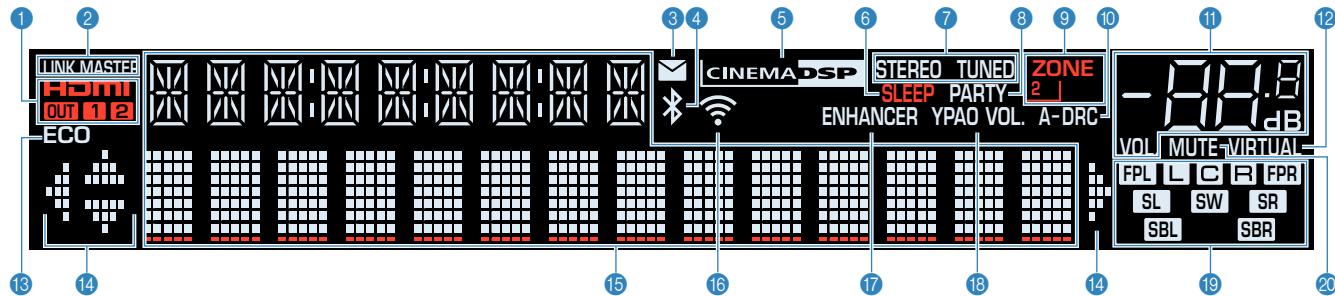
お知らせ

前面カバー内部のキーや端子を使うときは、カバーの下側をそっと押してカバーを開いてください。使わないときは閉じてください。（指をはさまないようご注意ください。）



本体前面ディスプレイの各部の名称と機能

本体前面のディスプレイの各部の名称と機能について説明します。



① HDMI
HDMI 信号入力/出力時に点灯します。
OUT1/OUT2 (アウト 1/アウト 2)

HDMI 信号を出力中の HDMI OUT 端子を表示します。

② LINK MASTER (リンクマスター)

MusicCast ネットワークの親機として動作しているときに点灯します。

③ ファームウェア更新表示

ファームウェアの更新 (155 ページ) があるときに点灯します。

④ BLUETOOTH (ブルートゥース)

Bluetooth 機器が接続されているとき (72 ページ) に点灯します。

⑤ CINEMA DSP (シネマ DSP)

シネマ DSP 3D (52 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑥ SLEEP (スリープ)

スリープタイマー設定時に点灯します。

⑦ STEREO (ステレオ)
ステレオ放送受信時に点灯します。
TUNED (チューンド)
FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

⑧ PARTY (パーティー)
パーティーモード中 (63 ページ) に点灯します。
⑨ ZONE 2 (ゾーン 2)
ゾーン 2 出力が有効なときに点灯します (62 ページ)。

⑩ A-DRC (アダプティブ DRC)
アダプティブ DRC (89 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑪ 音量表示
音量を表示します。

⑫ VIRTUAL (バーチャル)
バーチャル処理をしているときに点灯します (52 ページ)。

⑬ ECO (エコ)
エコモード有効時 (137 ページ) に点灯します。

⑭ カーソル表示
操作可能なりモコンのカーソルキーを表示します。

⑮ 情報ディスプレイ
選択中の入力や音場プログラムなどの情報を表示します。INFO キーで、表示する情報を切り替えられます (65 ページ)。

⑯ 無線 LAN 表示
無線接続時 (39 ページ) に点灯します。

お知らせ
本機を MusicCast ネットワークに登録すると点灯する場合があります (51 ページ)。

⑰ ENHANCER (エンハンサー)
ミュージックエンハンサー (56 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑱ YPAO VOL. (YPAO ボリューム)
YPAO ボリューム (88 ページ) が有効なときに点灯します。

⑯ スピーカー表示

音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

L フロントスピーカー（左）

R フロントスピーカー（右）

C センタースピーカー

SL サラウンドスピーカー（左）

SR サラウンドスピーカー（右）

SBL サラウンドバックスピーカー（左）

SBR サラウンドバックスピーカー（右）

FPL プレゼンススピーカー（左）

FPR プレゼンススピーカー（右）

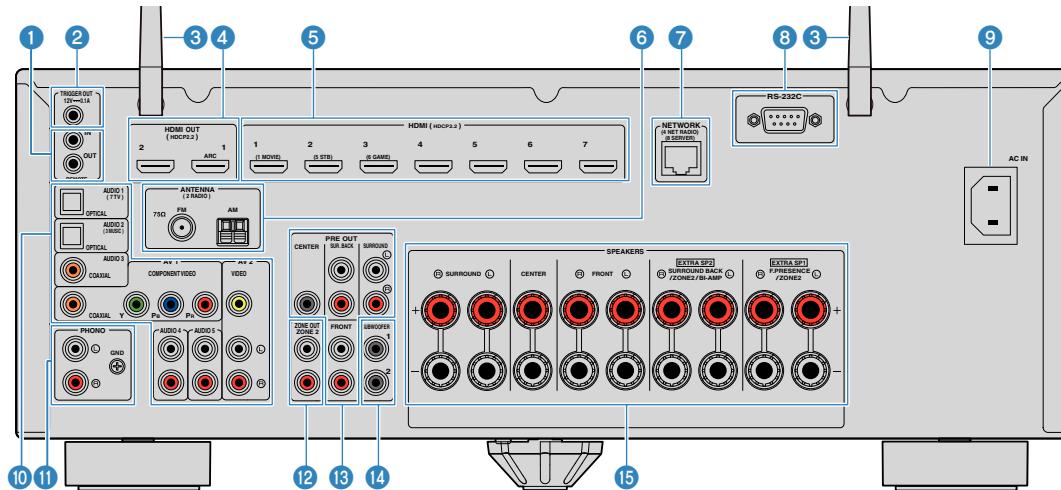
SW サブウーファー

㉐ MUTE（ミュート）

ミュートが機能しているときに点滅します。

本体背面の各部の名称と機能

本体背面の各部の名称と機能について説明します。



- 実際の製品では、誤接続を防ぐために映像/音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

① REMOTE IN/OUT (リモートイン/アウト) 端子

赤外線受信機/送信機を接続して、別の部屋から本機や外部機器を操作できます (61 ページ)。

② TRIGGER OUT (トリガーアウト) 端子

トリガー機能対応の機器を接続します (42 ページ)。

③ ワイヤレスアンテナ

本機をネットワークに無線 (Wi-Fi) 接続する場合に使用します (39 ページ)。Bluetooth 接続にも使用します (72 ページ)。

④ HDMI OUT1~2 (HDMI アウト 1~2) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像/音声を出力します (34 ページ)。ARC 使用時は、HDMI OUT1 端子でテレビ音声の入力も可能です。

⑤ HDMI1~7 端子

HDMI 出力対応の AV 機器を接続し、映像/音声を入力します (35 ページ)。

⑥ ANTENNA (アンテナ) 端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します (38 ページ)。

⑦ NETWORK (ネットワーク) 端子

本機をネットワークに有線接続する場合に、ネットワークケーブルを接続します (39 ページ)。

⑧ RS-232C 端子

サービス用の端子です。通常は使用しません。

⑨ AC IN (AC イン) 端子

電源コードを接続します (42 ページ)。

⑩ AUDIO1~5 端子、AV1~2 端子

映像/音声出力を持つ AV 機器を接続し、映像/音声を入力します (35 ページ)。

⑪ PHONO (フォノ) 端子

レコードプレーヤーを接続します (36 ページ)。

⑫ ZONE OUT (ゾーンアウト) 端子

別の部屋 (ゾーン 2) に設置した外部アンプに音声を出力します (60 ページ)。

⑬ PRE OUT (プリアウト) 端子

外部パワーアンプを接続します (41 ページ)。

14 SUBWOOFER（サブウーファー）端子

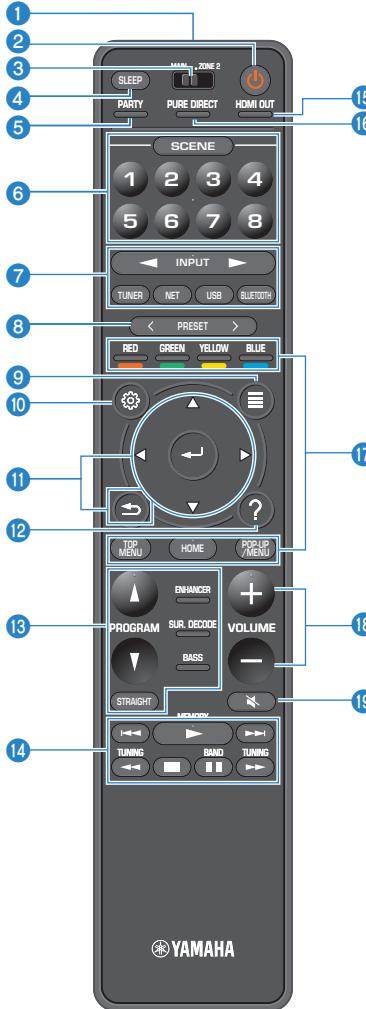
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します
(24 ページ)。

15 SPEAKERS（スピーカー）端子

スピーカーを接続します (21 ページ)。

リモコンの各部の名称と機能

リモコンの各部の名称と機能について説明します。



① リモコン信号送信部

赤外線を送信します。

② ⓧ (レシーバー電源) キー

本機の電源を入/切（スタンバイ）します。

③ MAIN/ZONE2（メイン/ゾーン2）スイッチ

リモコンで操作するゾーン（メインゾーン、ゾーン2）を切り替えます（62ページ）。

④ SLEEP（スリープ）キー

繰り返し押してスリープタイマーの時間（120分、90分、60分、30分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は、本体前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると、本機がスタンバイになります。

⑤ PARTY（パーティー）キー

パーティーモードを入/切します（63ページ）。

⑥ SCENE（シーン）キー

シーン機能で設定した複数の項目をワンタッチで切り替えます（81ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

⑦ 入力選択キー

再生する入力を選びます。

お知らせ

NETキーを繰り返し押して、ネットワークソースを切り替えます。

⑧ PRESET（プリセット）キー

プリセットしたFM/AMラジオ局を選びます（69ページ）。

ショートカットに登録したBluetooth機器やUSB機器の曲、ネットワークコンテンツを選びます（85ページ）。

⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ 外部機器操作キー

HDMIコントロールに対応しているAV機器の再生操作を行います。また、USB機器やメディアサーバー（パソコン/NAS）などの再生操作を行います。

お知らせ

HDMIコントロールに対応しているAV機器が対象です。ただし、すべてのHDMIコントロール対応機器の動作を保証するものではありません。

⑨ OPTION（オプション）キー

オプションメニューを表示します（86ページ）。

⑩ SETUP（セットアップ）キー

設定メニューを表示します（94ページ）。

⑪ ENTER/Cursor（エンター/カーソル）、RETURN（リターン）キー

メニュー操作を行います。

⑫ HELP（ヘルプ）キー

オンスクリーンメニューで、カーソルがある項目の解説をテレビ画面に表示します。メニュー画面に「？」アイコンが表示されているときに有効です。

⑬ サウンド選択キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます（52ページ）。

⑭ 再生操作キー

外部機器の再生操作を行います。

⑮ HDMI OUT（HDMI アウト）キー

信号を出力するHDMI出力端子を切り替えます（64ページ）。

⑯ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）キー

ピュアダイレクトを有効/無効にします（55ページ）。

18 VOLUME (ボリューム) キー

音量を調節します。

19 MUTE (ミュート) キー

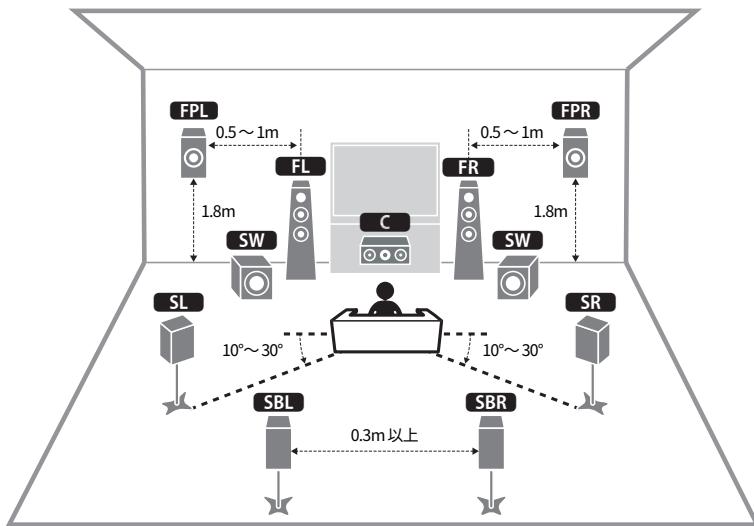
消音します。

準備する

1 スピーカーを接続する

スピーカーの名称と機能

本機に接続する各スピーカーの名称と機能について説明します。



お知らせ

この配置が本機の理想的なスピーカー配置です。ただし、図に正確に合わせる必要はありません。自動測定（YPAO）を実行することで、配置に合わせてスピーカー設定（距離など）を補正できます。

スピーカーの種類	略称	機能
フロント左/右	FL / FR	フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ/ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド左/右	SL / SR	サラウンドチャンネルの音声を出力します。サラウンドバックを使用していない場合は、サラウンドバックチャンネルの音声も出力します。
サラウンドバック左/右	SBL / SBR	サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
プレゼンス左/右	FPL / FPR	シネマ DSP 3D の効果音や、Dolby Atmos および DTS:X コンテンツの上方チャンネルの音声を出力します。
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。

お知らせ

- プrezensスピーカーの配置方法は次の3種類あります。視聴環境に合わせていずれかを選んでください。どの配置方法でも Dolby Atmos、DTS:X およびシネマ DSP 3D をお楽しみいただけます。
 - フロントハイト
 - オーバーヘッド
 - ドルビーネーブルド SP
- プrezensスピーカーの配置について、詳しくは次をご覧ください。
 - 「プレゼンススピーカーの設置」(165 ページ)

スピーカーシステムと接続するスピーカー

使用するスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファーを部屋に配置します。

スピーカーの種類	スピーカーシステム（チャンネル数）		
	7.1/5.1.2	5.1	2.1
フロント（左/右） FL / FR	●	●	●
センター C	●	●	
サラウンド（左/右） SL / SR	●	○*3	
サラウンドバック（左/右） SBL / SBR	○*1		
プレゼンス（左/右） FPL / FPR	○*2	○*4	
サブウーファー SW	●	●	●

9本のスピーカーを使う場合は、サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーを両方とも接続できます。この場合、入力信号や選択したシネマDSPにより、音声を出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

7本のスピーカーを使う場合は、そのうち2本をサラウンドバックスピーカー(*1) またはプレゼンススピーカー(*2) として使用します。

5本のスピーカーを使う場合は、そのうち2本をサラウンドスピーカー(*3) またはプレゼンススピーカー(*4) として使用します。

お知らせ

- 例えば、「5.1.2」は従来の5.1チャンネルに加え、上方のスピーカー用チャンネルが2チャンネル分存在することを表します。
- サラウンドバックスピーカー使用時は、必ず左右2台のスピーカーを接続してください。サラウンドバックスピーカーは1台のみでは使用できません。
- 本機には最大2台のサブウーファーを接続できます。
- これらのスピーカーシステムを使用する場合は、設定メニューの「パワーアンプ割り当てる」を「Basic」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。
-「スピーカーシステムの構成を設定する」(100ページ)

スピーカーの準備

本機に接続するスピーカーとサブウーファーは、次の条件に合うものを準備してください。

- スピーカーはインピーダンスが6Ω以上のもの
- サブウーファーはアンプ内蔵のもの

お知らせ

- スピーカーは使用するシステムに応じた数を準備してください。
- フロントスピーカー（左/右）は必ず接続してください。
- 初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは8Ωに設定されています。いずれかのチャンネルに6Ωのスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスの設定を変更します。詳しくは次をご覧ください。
-「スピーカーインピーダンスを設定する」(22ページ)

スピーカーインピーダンスを設定する

初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは8Ωに設定されています。いずれかのチャンネルに6Ωのスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスを「6ΩMIN」に設定してください。この場合、フロントスピーカーは4Ωのスピーカーも使用できます。

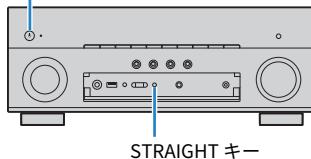
1 スピーカーを接続する前に、本機の電源コードをコンセントに接続する。

お知らせ

- 詳しくは次をご覧ください。
- 「電源コードを接続する」(42ページ)

- 2 前面の STRAIGHT キーを押しながら MAIN ZONE (電源) キーを押す。

MAIN ZONE (電源) キー



- 3 前面ディスプレイに「SP IMP.」と表示されていることを確認する。

SP IMP...80MIN

- 4 STRAIGHT キーで「6ΩMIN」を選ぶ。

- 5 MAIN ZONE (電源) キーで電源をスタンバイにしてから、電源コードをコンセントから外す。

これでスピーカーを接続する準備は完了です。

スピーカーケーブルの準備

本機とスピーカーを接続するために、次のケーブル（市販品）を準備してください。

- スピーカーケーブル（スピーカー接続用）



- モノラルピンケーブル（サブウーファー接続用）



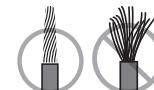
スピーカーの接続のしかた

■ スピーカーを接続する

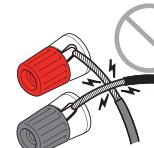
本機とスピーカーの一（マイナス）端子どうし、+（プラス）端子どうしをスピーカーケーブルで接続してください。

注意

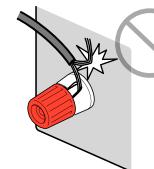
- スピーカーケーブルを加工・接続するときは、次に注意してください。
- スピーカーケーブルを加工するときは、本機から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線が本機内部に入りショートするなど、故障の原因となります。
- 誤った方法でスピーカーケーブルを接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本機やスピーカーが故障する原因となります。
 - 芯線の先端をしっかりとよじってください。
 - 芯線どうしを接触させないでください。
 - 芯線を本機の金属部（背面パネル、ネジなど）に接触させないでください。



- 芯線どうしを接触させないでください。



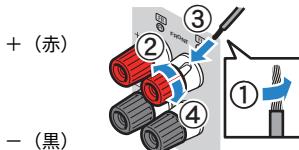
- 芯線を本機の金属部（背面パネル、ネジなど）に接触させないでください。



お知らせ

- 接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- フロントスピーカー（左/右）は必ず接続してください。
- 初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは8Ωに設定されています。いずれかのチャンネルに6Ωのスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスの設定を変更します。詳しくは次をご覧ください。
-「スピーカーインピーダンスを設定する」(22ページ)

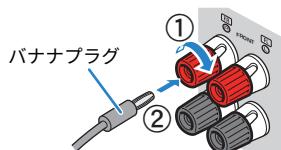
- スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約10mmはがし、芯線をしっかりととよじる。
- スピーカー端子をゆるめる。
- 端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
- 端子を締め付ける。



これでスピーカーの接続は完了です。

お知らせ

- 電源を入れて本体前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。
- バナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子をゆるめずに、バナナプラグを端子に差し込んでください。

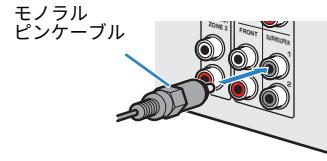


■ サブウーファーを接続する

本機とサブウーファーをモノラルピンケーブルで接続してください。

お知らせ

- 接続する前に、本機とサブウーファーの電源プラグをコンセントから外してください。



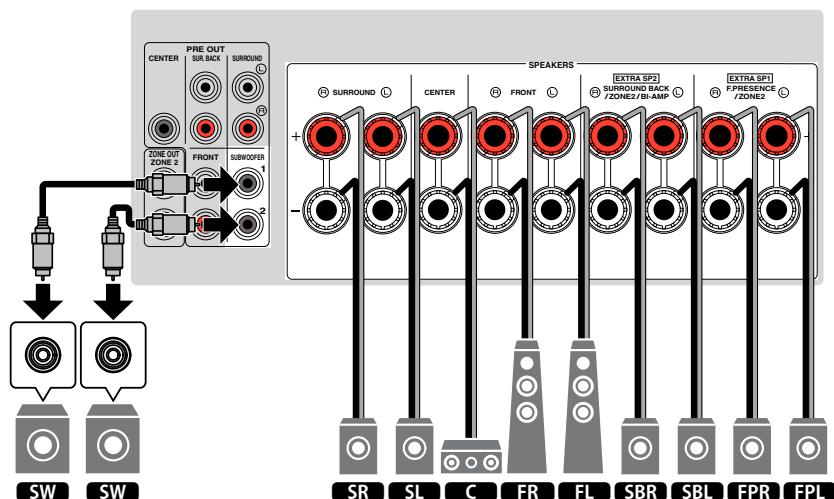
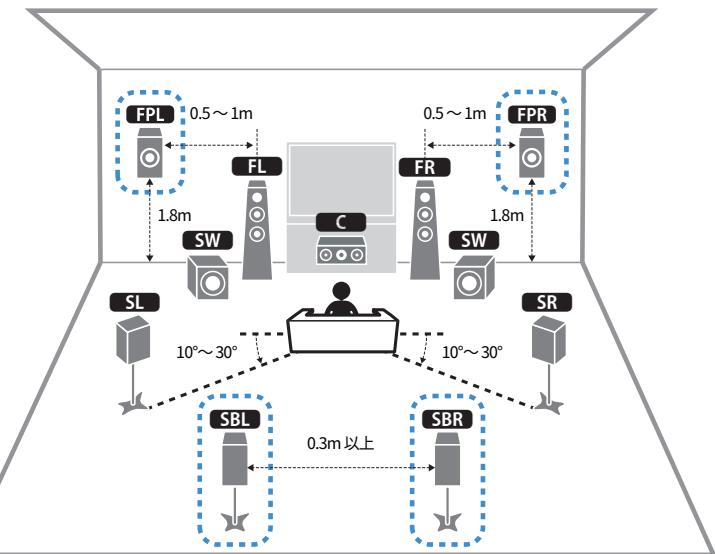
スピーカーの配置（スピーカーシステム基本編）

7.1/5.1.2 システムで使用する

本機の性能をフルに活用できるシステムです。ごく自然で立体的な視聴空間であらゆるコンテンツをお楽しみいただけます。Dolby Atmos や DTS:X にもおすすめです。

お知らせ

- サラウンドバックスピーカーとプレゼンススピーカーから同時に音声を出力することはできません。
入力信号や選択したシネマ DSP 3D により、音声を出力するスピーカーが自動的に切り替わります。
- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーアトモススピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。
-「プレゼンススピーカーの配置を設定する」(103 ページ)



■ 5.1.2 システムで使用する

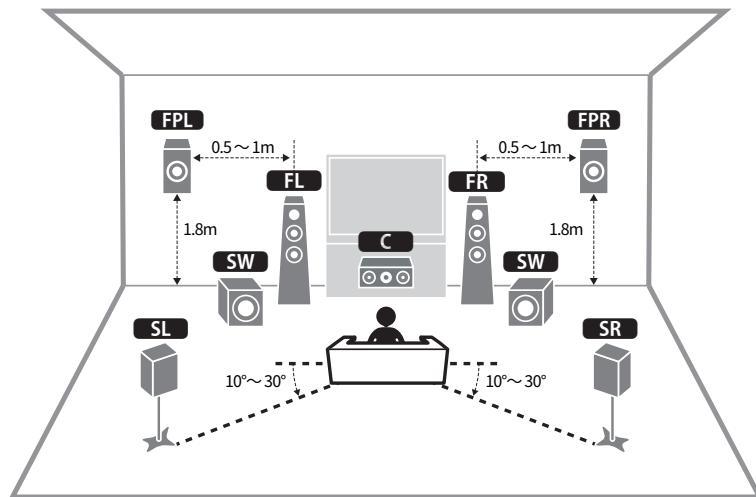
Dolby Atmos や DTS:X におすすめのスピーカーシステムです。プレゼンススピーカーにより、頭上方向のサウンド効果もお楽しみいただけます。

お知らせ

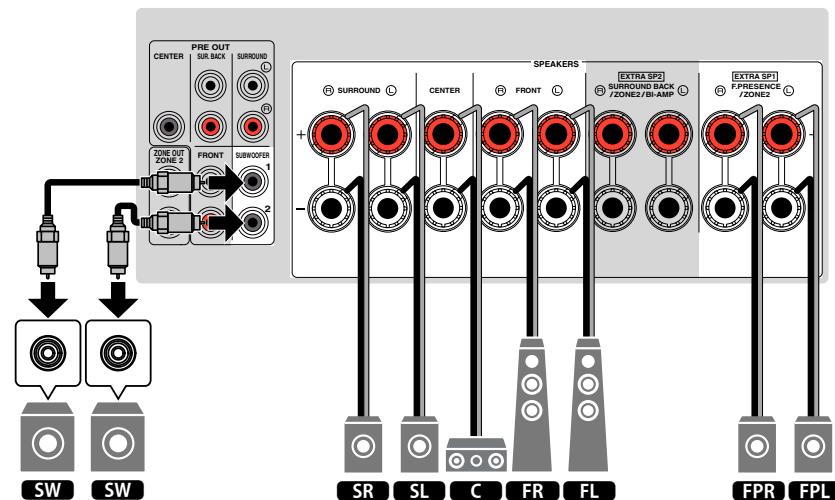
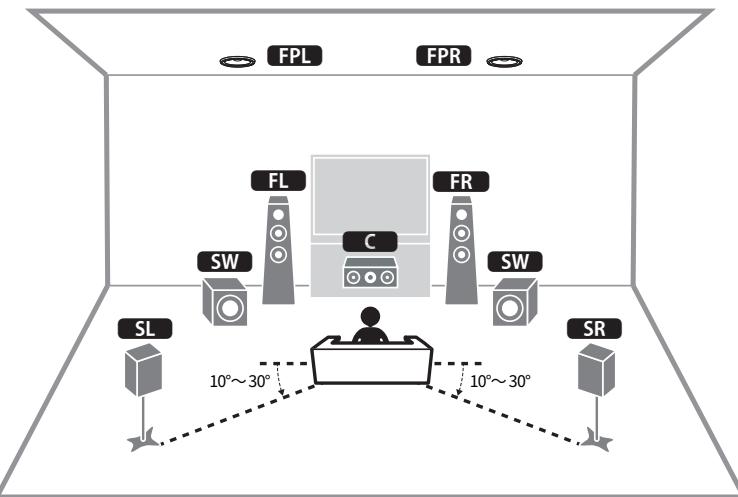
プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーアトモススピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「プレゼンススピーカーの配置を設定する」(103 ページ)

■ プrezensスピーカーがフロントハイトの場合

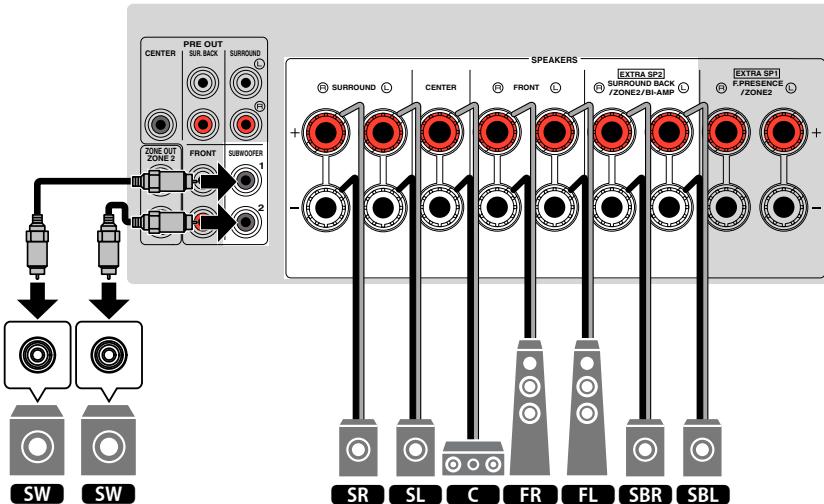
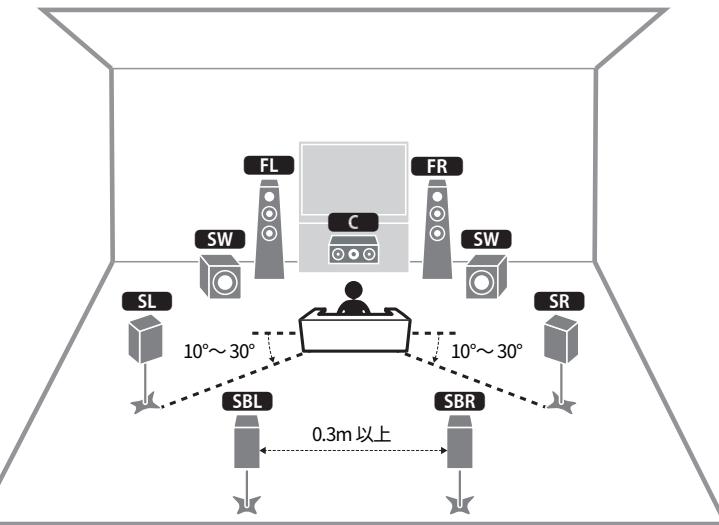


■ プrezensスピーカーがオーバーヘッドの場合



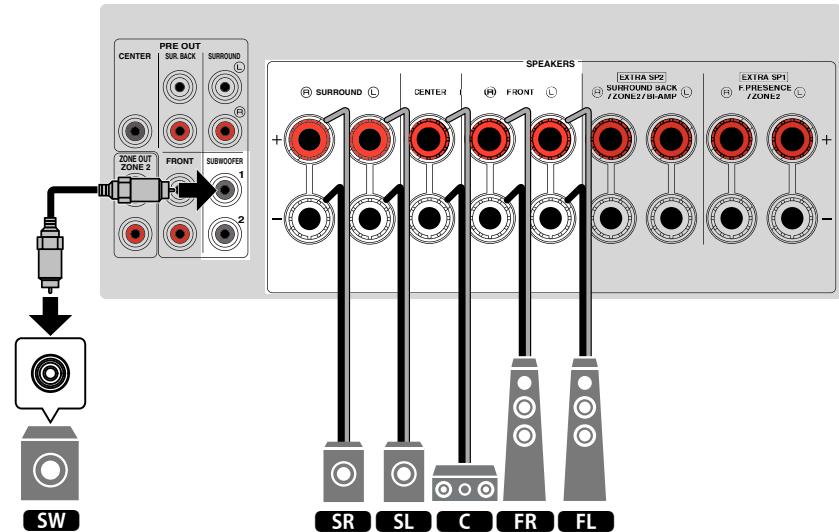
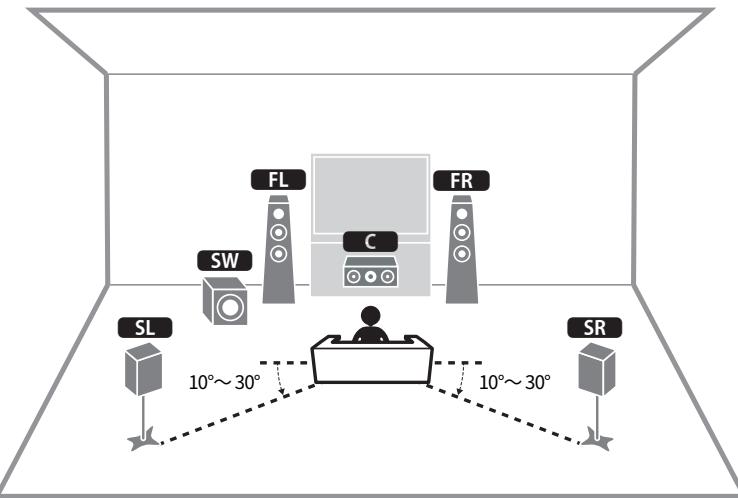
■ 7.1 システムで使用する

サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。



■ 5.1 システムで使用する

サラウンド再生を楽しむ基本的な配置です。



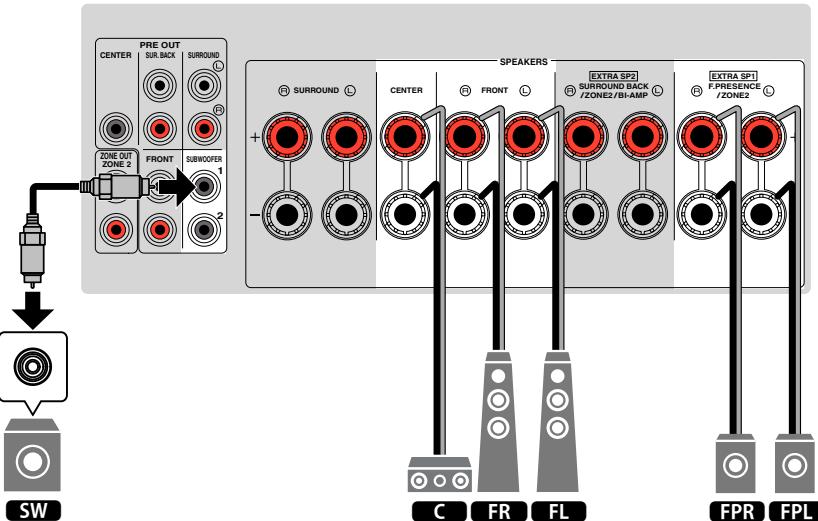
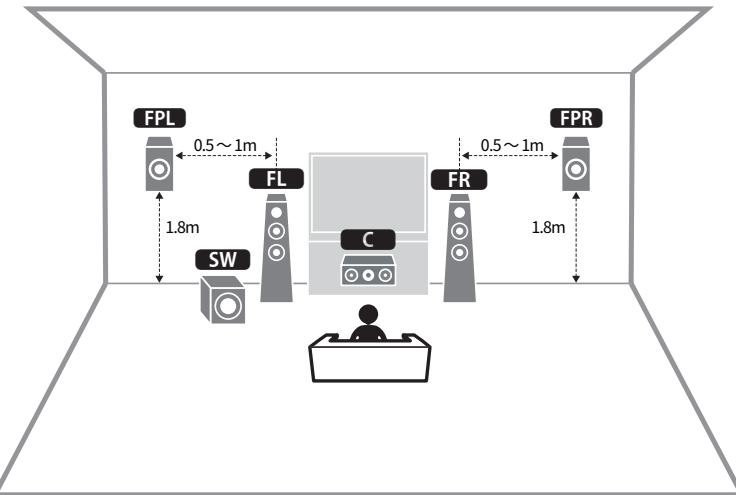
3.1.2 システムで使用する

部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。このスピーカーシステムでも、Dolby Atmos や DTS:X をお楽しみいただけます。

お知らせ

プレゼンスピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーアトモススピーカーをプレゼンスピーカーとして使用する場合は、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「プレゼンスピーカーの配置を設定する」(103 ページ)



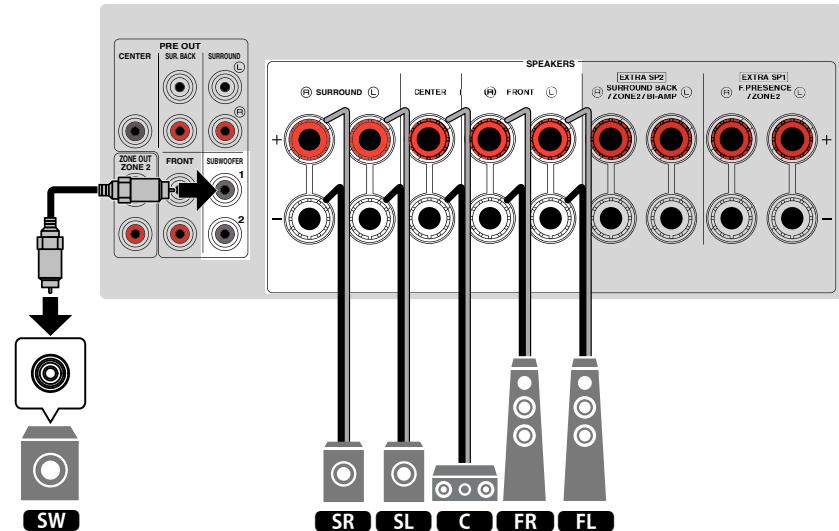
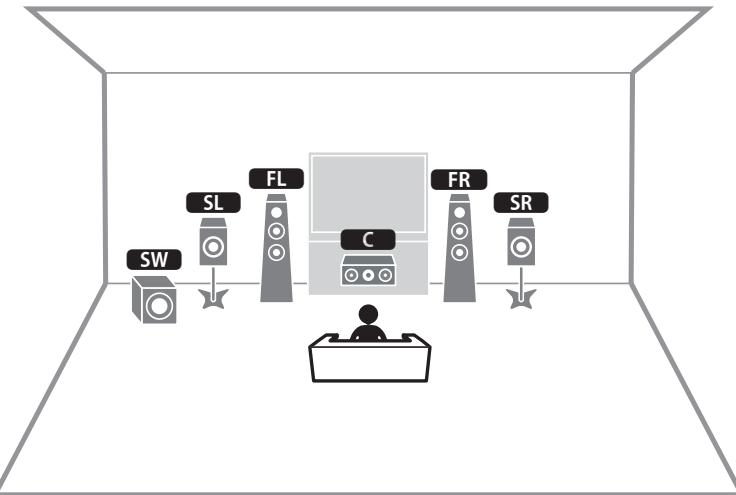
■ バーチャルシネマフロントで使用する

部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。

お知らせ

バーチャルシネマフロントを使用するには、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカー構成を設定する」(43 ページ)
- 「サラウンドスピーカーの配置を設定する」(102 ページ)



スピーカーの配置（スピーカーシステム応用編）

■ 内蔵アンプを利用したスピーカーシステム

本機は、基本的なスピーカーシステム以外に、次のシステムにも対応しています。

- フロントスピーカーに4つの内蔵アンプを適用してさらに音質を高める(バイアンプ接続)
- 余った内蔵アンプを利用して別の部屋でステレオ音声を楽しむ(マルチゾーン接続)

これらのシステムを適用するには、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で正しい設定を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカーシステムの構成を設定する」(100 ページ)

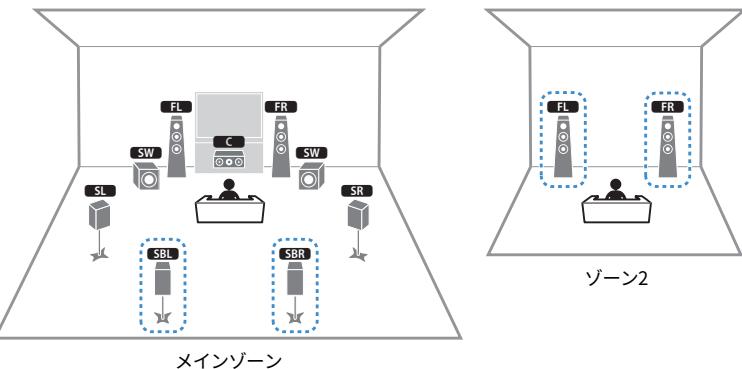
emainゾーン			マルチゾーン	パワーアンプ 割り当て
最大 チャンネル数	バイアンプ 接続	サラウンドバック/ プレゼンス		
7		サラウンドバック	+1(ゾーン2)	7.1+1Zone
7		プレゼンス	+1(ゾーン2)	5.1.2+1Zone
5	○			5.1 BI-Amp

お知らせ

別の部屋でステレオ音楽を楽しむ場合については、次をご覧ください。

- 「本機の内蔵アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する」(59 ページ)

7.1+1Zone



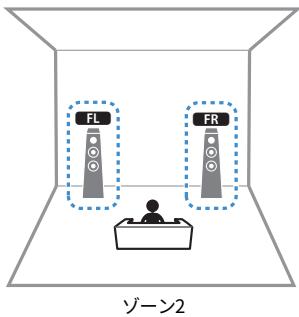
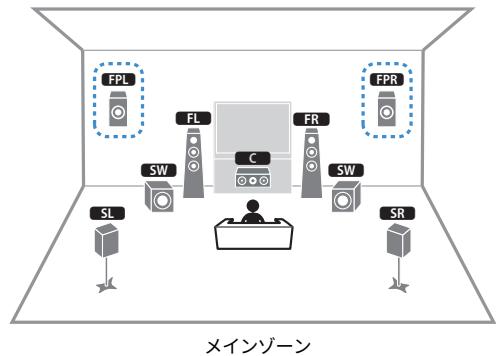
スピーカー	スピーカー接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	EXTRA SP2
FPL FPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1~2
ゾーン2スピーカー	EXTRA SP1

お知らせ

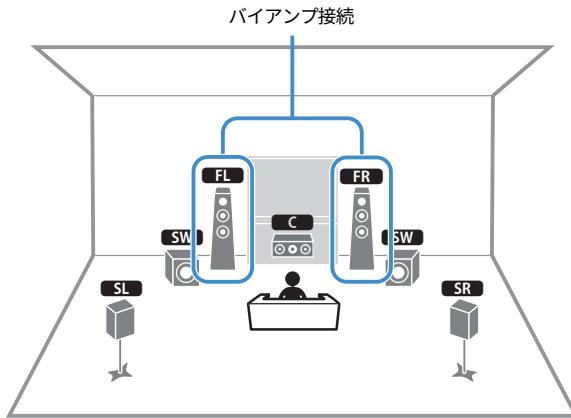
ゾーン2出力が有効なときは、メインゾーンのサラウンドバックスピーカーから音が出ません。詳しくは次をご覧ください。

- 「ゾーン2を操作する」(62 ページ)

5.1.2 + 1Zone



5.1 BI-Amp



スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	(使用しない)
FPL FPR	EXTRA SP1
SW	SUBWOOFER 1~2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP2

スピーカー	スピーカー接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP2 (バイアンプ接続)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	(使用しない)
FPL FPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2

お知らせ

ゾーン 2 出力が有効なときは、メインゾーンのプレゼンスピーカーから音が出ません。詳しくは次をご覧ください。

- 「ゾーン 2 を操作する」(62 ページ)

■ バイアンプ接続する

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続します。

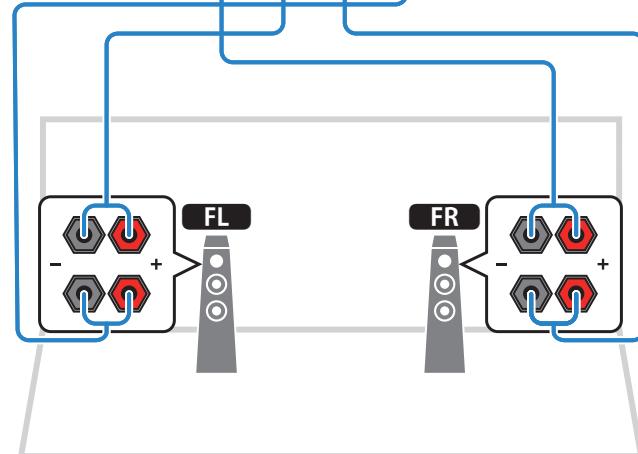
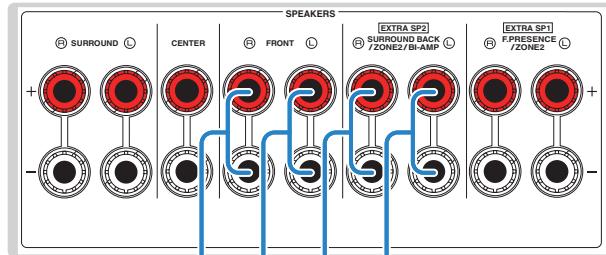
バイアンプ機能を有効にするには、設定の変更が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- ・「スピーカー構成を設定する」(43 ページ)
- ・「スピーカーシステムの構成を設定する」(100 ページ)

注意

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具（またはケーブル）を取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

本機（背面）



お知らせ

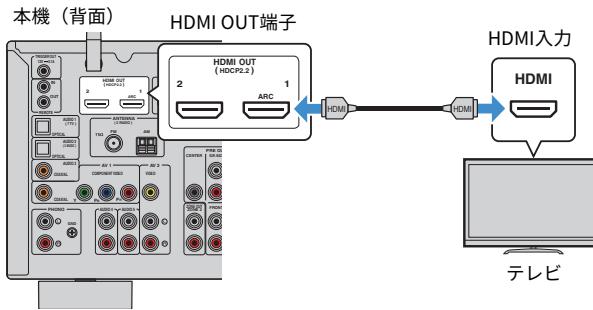
次の接続は同時に使用できません。

- サラウンドバックスピーカー
- バイアンプ接続

2 テレビを接続する

テレビを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機にテレビを接続します。テレビの ARC 対応の HDMI 端子に本機を接続した場合、本機からテレビに映像を伝送する HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。



オーディオリターンチャンネル (ARC) とは

1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルで本機とテレビを接続してください。

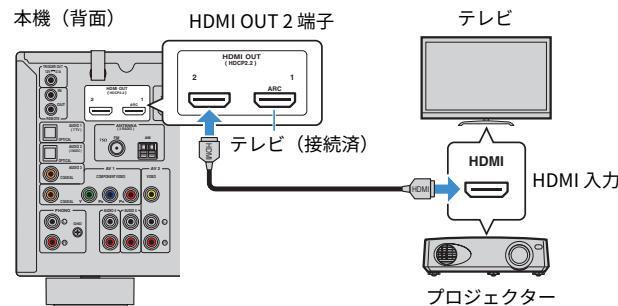
お知らせ

- テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。
- HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。
 - 「HDMI コントロールと連動機能」(173 ページ)
 - 「オーディオリターンチャンネル (ARC)」(174 ページ)
- テレビが ARC 対応でない場合、テレビの音を本機で再生するときは光デジタルケーブル接続が必要です。

複数のテレビやプロジェクターを HDMI 接続する

本機には 2 つの HDMI 出力端子があります。HDMI ケーブルを使って、2 台目のテレビやプロジェクターを本機に接続しておけば、使用するテレビ/ プロジェクターをリモコンで選べます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「HDMI 出力端子を切り替える」(64 ページ)



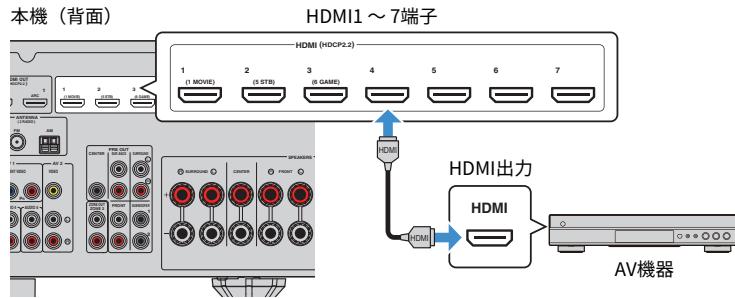
お知らせ

HDMI OUT2 端子は HDMI コントロールには対応していません。

3 AV 機器を接続する

BD/DVD プレーヤーなどを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機に AV 機器を接続します。

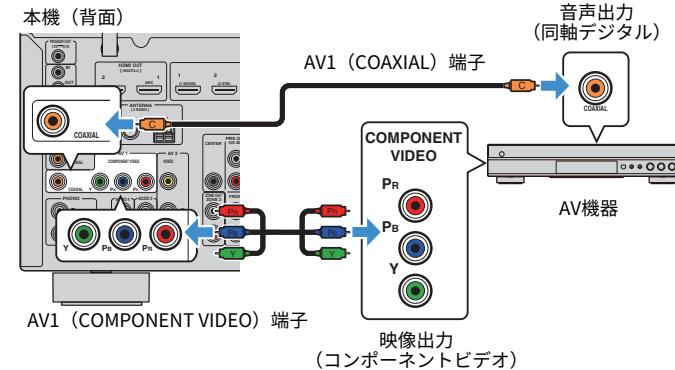


AV 機器を HDMI 以外で接続する

■ AV 機器をビデオ（コンポーネント）接続する

コンポーネントケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。

ビデオ機器の出力端子	本機の入力端子	
	映像	音声
コンポーネントビデオ	同軸デジタル	AV1



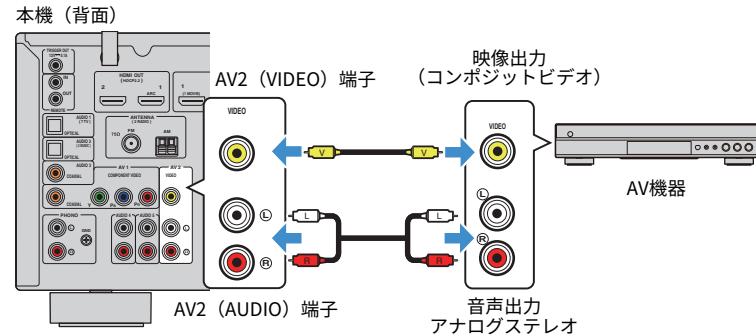
お知らせ

- 本機は解像度 480i/576i のビデオ信号に対応します。
- 本機の入力端子（映像/音声）の組み合わせが AV 機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、AV 機器の出力端子にあわせて変更します。変更方法については次をご覧ください。
-「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する」(131 ページ)

■ AV 機器をビデオ（コンポジット）接続する

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（ステレオピンケーブル）を使って、本機にAV機器を接続します。

AV 機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	アナログステレオ	AV2



お知らせ

本機の入力端子（映像/音声）の組み合わせがAV機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、AV機器の出力端子にあわせて変更します。変更方法については次をご覧ください。

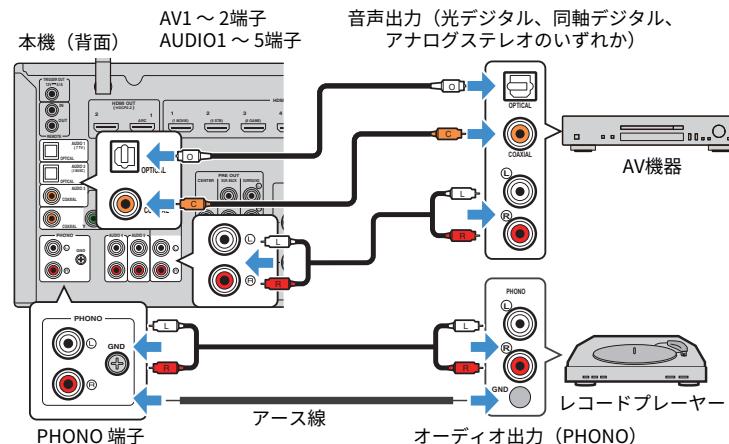
- 「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する」(131 ページ)

■ CD プレーヤーなどを接続する

本機にCDプレーヤー、MDプレーヤーなどのAV機器を接続します。

接続するAV機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

AV 機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AUDIO1～2
同軸デジタル	AUDIO3、AV1
アナログステレオ	AUDIO4～5、AV2
レコードプレーヤー (PHONO)	PHONO



お知らせ

- 本機の PHONO 端子は MM 型カートリッジに対応しています。MC 型（低出力型）のカートリッジを搭載したレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランジスタなどを使用してください。
- お使いのレコードプレーヤーによっては、本機の GND 端子と接続することでノイズを低減できます。
- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能を使う場合は、SCENE (7) キーの入力設定もあわせて変更してください。詳しくは次をご覧ください。
 - 「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(119 ページ)
 - 「SCENE キーの登録内容を変更する」(83 ページ)

■ 本体前面の端子に AV 機器を接続する

携帯音楽プレーヤーなどの AV 機器を一時的に本機へ接続する場合は、前面の AUX 端子を利用すると便利です。

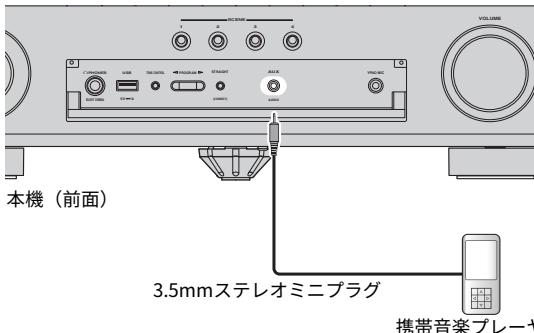


注意

- 接続する前に、AV 機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

お知らせ

AV 機器の音声出力端子に応じて、適切なケーブルをご用意ください。



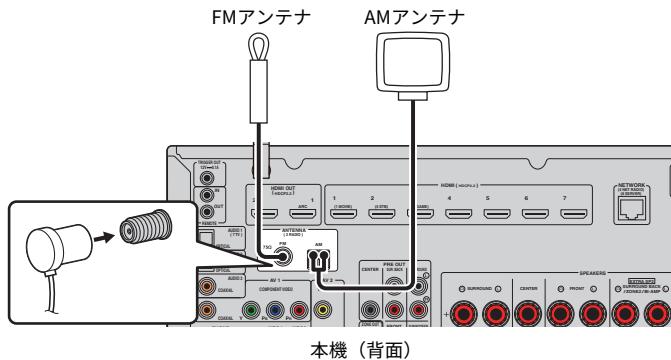
INPUT キーを押して入力を「AUX」に切り替えると、接続した機器の音声が本機から出力されます。

4 FM/AM アンテナを接続する

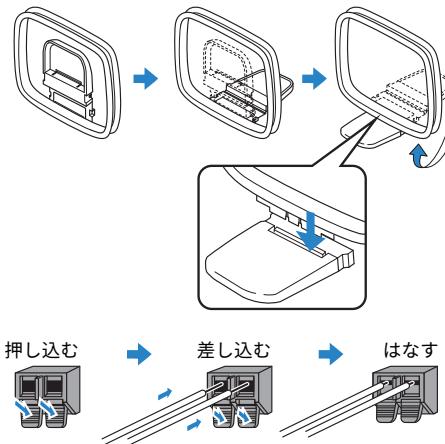
FM/AM アンテナを接続する

本機に付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、FM アンテナは壁に固定し、AM アンテナは水平な場所に置いてください。



AM アンテナの組立と接続



お知らせ

- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

5 ネットワーク接続の準備をする

ネットワーク接続するには

本機は有線接続と無線接続に対応しています。

お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選んでください。

有線接続する場合は、ルーターが DHCP サーバー対応のとき、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。

お知らせ

ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定が必要になります。必要な設定については次をご覧ください。

- 「ネットワーク情報を手動設定する」(123 ページ)

無線接続する場合は、次から無線接続設定の方法を選んでください。

● MusicCast から設定する

本機を MusicCast ネットワークに登録するときに、ネットワーク設定も行えます。MusicCast を利用する場合は、この方法をおすすめします。

詳しくは次をご覧ください。

- 「MusicCast ネットワークに登録する」(51 ページ)

● その他の接続方法

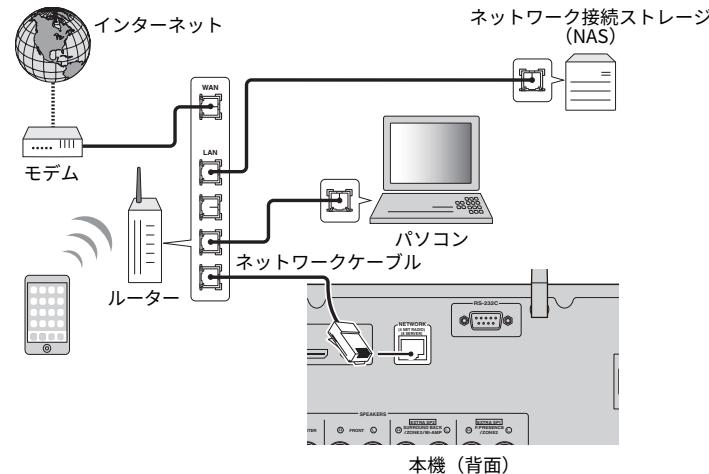
詳しくは次をご覧ください。

- 「無線ネットワークの接続方法を選ぶ」(159 ページ)

ネットワークケーブルを接続する（有線接続）

市販の STP ネットワークケーブル (CAT-5 以上のストレートケーブル) を使って、本機をルーターに接続します。

ネットワークに接続することで、インターネットラジオやパソコン、ネットワーク接続ストレージ (NAS) などのメディアサーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。



お知らせ

▪ DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。ネットワーク情報 (IP アドレスなど) が自動で割り当てられます。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定が必要になります。詳しくは次をご覧ください。

- 「ネットワーク情報を手動設定する」(123 ページ)

▪ ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されていることを確認できます。確認方法については次をご覧ください。

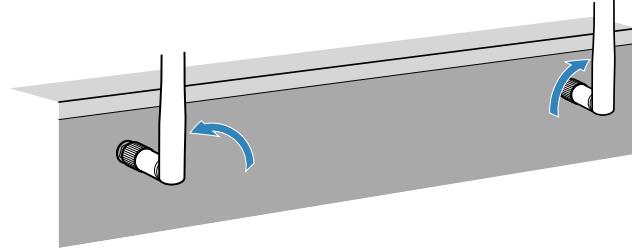
- 「ネットワーク情報を確認する」(122 ページ)

無線アンテナを準備する（無線接続）

無線接続や Bluetooth 接続を使用する場合は、無線アンテナを立ててご使用ください。

ネットワークへの無線接続方法については次をご覧ください。

- ・「ネットワーク接続するには」（39 ページ）



注意

- 無線アンテナに極端な力を加えたりしないでください。破損するおそれがあります。

6 その他の機器を接続する

外部パワーアンプを接続する

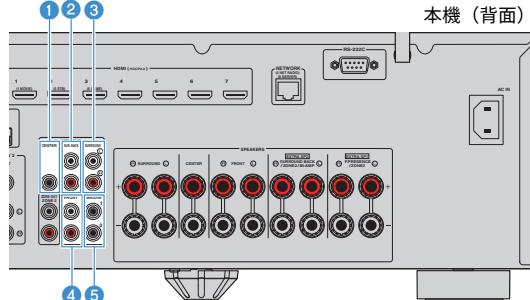
スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を使う場合は、外部パワーアンプの入力端子を本機のPRE OUT端子に接続します。

PRE OUT端子からは、SPEAKERS端子と同様に各チャンネルの音声が outputされます。

注意

大音量や異音の発生を防ぐため、次の点を必ず守ってください。

- 外部パワーアンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、外部パワーアンプの電源を切ってください。
- PRE OUT端子を使う場合は、該当するチャンネルのスピーカーをSPEAKERS端子に接続しないでください。
- 音量調整バイパス機能に対応していないプリメインアンプを接続する場合は、ボリュームは適切な位置に固定してください。その場合、本機以外の機器をプリメインアンプに接続しないでください。



① CENTER端子

センターチャンネルの音声を出力します。

② SUR.BACK端子

サラウンドバック左/右チャンネルの音声を出力します。

③ SURROUND端子

サラウンド左/右チャンネルの音声を出力します。

④ FRONT端子

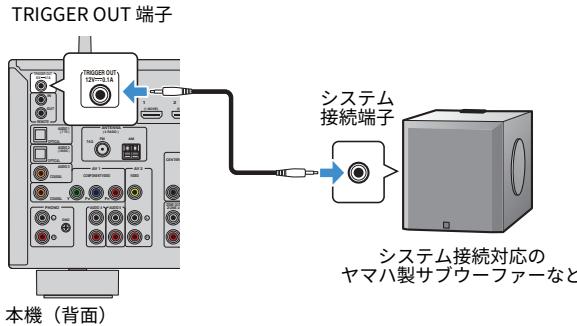
フロント左/右チャンネルの音声を出力します。

⑤ SUBWOOFER1~2端子

アンプ内蔵サブウーファーを接続します。

トリガー機能対応の機器を接続する

トリガー機能とは、本機の操作（電源入/切、入力選択など）に連動して外部機器を制御できる機能です。システム接続に対応しているヤマハ製サブウーファーや、トリガー入力端子がある機器をお使いの場合は、モノラルミニプラグケーブルを使って本機のTRIGGER OUT 端子に接続すれば、トリガー機能を利用できます。

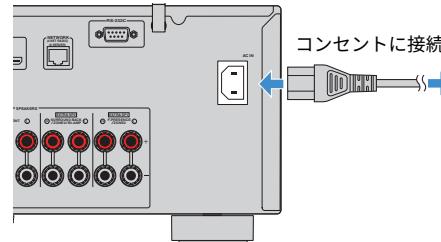


7 電源コードを接続する

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、本機の電源プラグをコンセントに接続します。

本機（背面）



お知らせ

トリガー機能使用時の外部機器の制御について設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「TRIGGER OUT 端子に接続した機器との連動を設定する」(135 ページ)

8 スピーカー設定を行う

スピーカー構成を設定する

次のスピーカーシステムを使用する場合は、スピーカー設定の構成を変更してください。

- ・バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを使ったシステム
- ・ゾーン2スピーカーを使ったシステム
- ・サラウンドスピーカーを使ったフロント5.1チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）
- ・プレゼンススピーカーを使って Dolby Atmos/DTS:X コンテンツを再生するシステム

お知らせ

スピーカーシステムについて詳しくは、次をご覧ください。

- ・「バイアンプ接続する」(33 ページ)
- ・「複数の部屋で音楽を再生する（マルチゾーン）」(58 ページ)
- ・「サラウンドスピーカーの配置を設定する」(102 ページ)
- ・「プレゼンススピーカーの設置」(165 ページ)

1 ⓧ（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

お知らせ

本機の電源を初めて入れると、ネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。ここでは RETURN キーを押し、手順 3 に進んでください。

3 SETUP キーを押す。

4 カーソルキーで「スピーカー設定」を選び、ENTER キーを押す。

5 必要なスピーカー設定を変更する。

- ・バイアンプ接続、ゾーン2スピーカーの場合は、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で該当するスピーカーシステムを選ぶ。詳しくは次をご覧ください。
- 「スピーカーシステムの構成を設定する」(100 ページ)
- ・フロント5.1チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）の場合は、設定メニューの「サラウンド」でサラウンドスピーカーの配置を選ぶ。詳しくは次をご覧ください。
- 「サラウンドスピーカーの配置を設定する」(102 ページ)
- ・プレゼンススピーカーを使って Dolby Atmos/DTS:X コンテンツを再生する場合は、設定メニューの「フロントプレゼンス」で該当するプレゼンススピーカーの配置を選ぶ。詳しくは次をご覧ください。
- 「プレゼンススピーカーの配置を設定する」(103 ページ)

6 SETUP キーを押す。

これでスピーカー構成の設定は完了です。

スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO : Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。

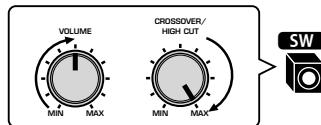
お知らせ

- テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
- YPAO の実行前に、スピーカー構成の設定をしてください。設定方法については次をご覧ください。
-「スピーカー構成を設定する」(43 ページ)
- 測定中は大きな音を出力します。音量は調節できません。
- 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、大きな音を出さないでください。スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮ったり、大きな音を出したりすると正しく測定することができません。
- ヘッドホンは接続しないでください。

1 Ⓛ (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。

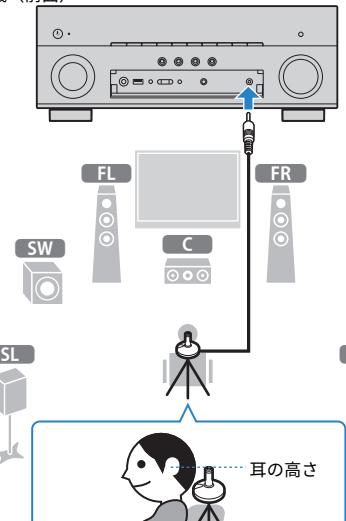
3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。
クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



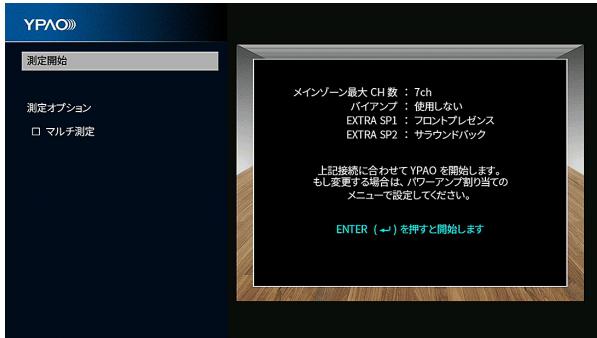
4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

三脚などをマイクスタンドとして使用し、YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置いてください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。

本機 (前面)



テレビに次の画面が表示されます。



お知らせ

- 操作を中止するには、測定開始前に YPAO 用マイクを取り外します。
- パワーアンプの割り当てを変更する場合は、RETURN キーを押して YPAO 画面を閉じ、設定メニューの「スピーカー設定」を選択してください。詳しくは次をご覧ください。
-「スピーカーシステムの構成を設定する」(100 ページ)

5 測定オプションを設定する場合は、カーソルキーで「マルチ測定」を選び、ENTER キーを押してチェックを入れる。

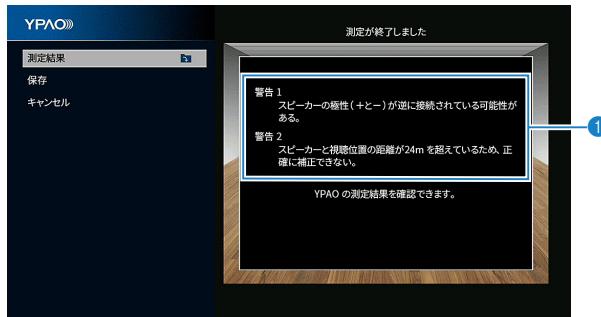
お知らせ

- ・ 視聴位置が複数ある場合、マルチ測定を実行すれば最適に補正されたサラウンド音を広いエリアでお楽しみいただけます。
- ・ マルチ測定について詳しくは次をご覧ください。
-「複数の視聴位置で YPAO 測定する（マルチ測定）」(46 ページ)

6 測定を始めるには、「測定開始」を選択した状態で ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、ENTER キーを押します。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



① 警告メッセージ（発生時のみ）

お知らせ

- ・ 測定を一時中断するには、RETURN キーを押します。
- ・ エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は、次をご覧ください。
-「YPAO のエラーメッセージについて」(49 ページ)
-「YPAO の警告メッセージについて」(50 ページ)

7 測定結果を確認する。

お知らせ

測定結果を確認するには、カーソルキーで「測定結果」を選び、ENTER キーを押します。詳しくは次をご覧ください。

- ・「YPAO の測定結果を確認する」(47 ページ)

8 測定結果をスピーカー設定に反映するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。

補正されたスピーカー設定が反映されます。

お知らせ

測定結果を反映せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

9 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- ・ YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

お知らせ

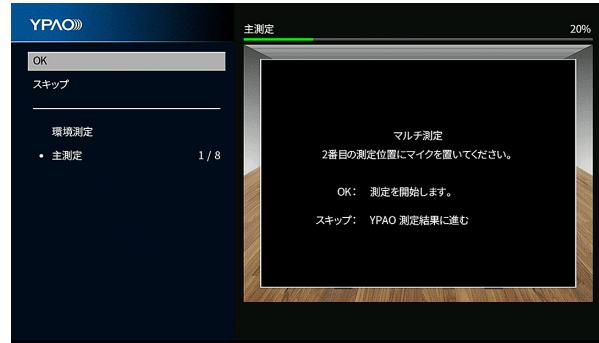
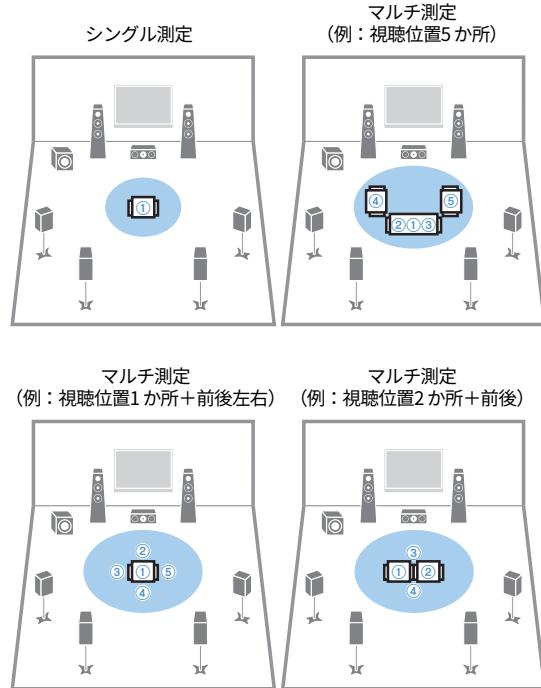
YPAO を実行すると「YPAO ボリューム」が自動的に有効になり、音量に連動して低音域/高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。「YPAO ボリューム」について詳しくは次をご覧ください。

- ・「音量に連動して低音域/高音域のバランスを自動調節する」(88 ページ)

複数の視聴位置で YPAO 測定する（マルチ測定）

視聴位置が複数ある場合や異なるサウンド音を楽しみたい場合は、「マルチ測定」オプションを選択します。最大 8 か所で測定を行い、そのエリアに対して最適なスピーカー設定を適用します。

最初に、もっとも使用する視聴位置に YPAO マイクを置いて測定を開始してください。



YPAO 用マイクを次の視聴位置に移動し、ENTER キーを押します。すべての視聴位置（最大 8 か所）で測定するまで、これを繰り返してください。すべての視聴位置で測定したら、カーソルキーで「スキップ」を選び、ENTER キーを押します。

最初の位置での測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。

YPAO の測定結果を確認する

YPAO による測定結果を確認します。

- 1 測定終了後に、カーソルキーで「測定結果」を選び、ENTER キーを押す。

お知らせ

前回 YPAO を実行した際の測定結果は、設定メニューでも確認できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「前回の YPAO 測定結果を呼び出す」(106 ページ)

次の画面が表示されます。



① 測定結果項目

② 測定結果の詳細

- 2 カーソルキーで項目を選ぶ。

スピーカーの有無と極性	
結線確認	逆相：極性（+と-）が逆に接続されている可能性がある。
スピーカーのサイズ（サブウーファーのクロスオーバー周波数）	
大きさ判定	大：低音域を効果的に出力できるスピーカーが接続されている。 小：低音域を効果的に出力できないスピーカーが接続されている。
距離補正	視聴位置とスピーカーの距離
音量調整	スピーカーの音量補正值

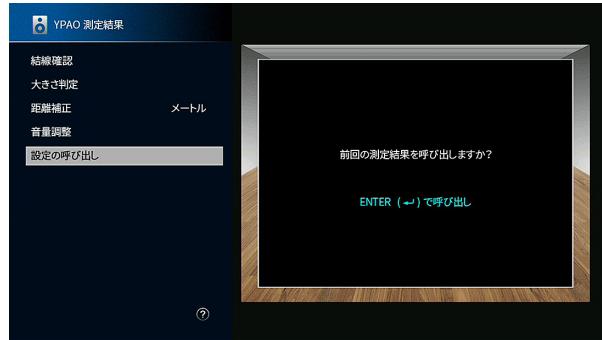
- 3 確認後に前の画面に戻るには、RETURN キーを押す。

最後に保存した YPAO 補正値に戻す

スピーカー設定を手動で調整して音のバランスが悪くなった場合など、手動設定を破棄して、最後に保存した YPAO 補正値に戻すことができます。

- 1 SETUP キーを押す。
- 2 カーソルキーで「スピーカー設定」を選び、ENTER キーを押す。
- 3 カーソルキーで「YPAO 測定結果」を選び、ENTER キーを押す。

- 4 カーソルキーで「設定の呼び出し」を選び、ENTER キーを押す。



- 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

YPAO のエラーメッセージについて

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、次の表をもとに原因を解決してから再測定をしてください。

エラーメッセージ	対策
エラー 1 フロントスピーカーを検出できません。	
エラー 2 サラウンドスピーカーの片側を検出できません。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
エラー 3 フロントプレゼンススピーカーの片側を検出できません。	
エラー 4 サラウンドバックスピーカーの片側を検出できません。	
エラー 5 雑音が大きいため測定できません。	部屋が静かになってから再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
エラー 6 サラウンドスピーカーが未接続なのに、サラウンドバックスピーカーが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うには、サラウンドスピーカーが接続されている必要があります。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
エラー 7 測定中に YPAO 用マイクが外れました。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。
エラー 8 YPAO 用マイクがテストトンを検出できません。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
エラー 9 測定が中断されました。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。

エラーメッセージ	対策
エラー 10 内部エラーが発生しました。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

お知らせ

- 原因解決のために YPAO を終了する場合は、カーソルキーで「終了」を選び、ENTER キーを押します。
- エラー 5、エラー 9 の場合は、YPAO を終了せずに現在の測定を続けることが可能です。カーソルキーで「続行」を選び、ENTER キーを押します。
- 再測定する場合は、カーソルキーで「再測定」を選び、ENTER キーを押します。

YPAO の警告メッセージについて

YPAO の測定後に警告メッセージ表示された場合は、次の表をもとに原因を解決してから再測定をしてください。

警告メッセージが表示されても測定結果を保存できますが、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから再度実行することをおすすめします。

警告メッセージ	対策
警告 1 スピーカーの極性 (+と-) が逆に接続されている可能性がある。	カーソルキーで「測定結果」を選んで ENTER キーを押し、次に「結線確認」 выбираます。「逆相」と表示されているスピーカーについて、ケーブル接続 (+と-) を確認してください。 間違って接続されている場合： YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。 正しく接続されている場合： スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。 (お客様への確認を促すメッセージであり、そのままお使いいただいても本機の再生に影響はありません。)
警告 2 スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	カーソルキーで「測定結果」を選んで ENTER キーを押し、次に「距離補正」を選択します。「>24.00m (>80.0ft)」と表示されているスピーカーがどれか確認してください。YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
警告 3 スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	カーソルキーで「測定結果」を選んで ENTER キーを押し、次に「音量調整」を選択します。「>+10.0dB」または「<-10.0dB」と表示されているスピーカーについて、各スピーカー間の使用環境やケーブル接続 (+と-) 、サブウーファーの音量が適切かどうか確認してください。 問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。

9 MusicCast を設定する

MusicCastについて

MusicCastを使えば、複数の部屋に設置したMusicCast対応機器で、音楽を共有できます。専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」により、簡単な操作で家庭内のどこにいても、スマートフォンやメディアサーバー（パソコン/NAS）、インターネットラジオ、ストリーミングサービスの音楽を楽しめます。MusicCastの詳細と対応機器については、次のウェブサイトをご覧ください。<http://www.yamaha.com/musiccast/>

- 専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」を使用して、すべてのMusicCast対応機器を操作
- 別々の部屋に設置した複数のMusicCast対応機器をリンクし、音楽を同時再生
- インターネットラジオ、ストリーミングサービスの音楽再生に対応
- MusicCast対応機器のネットワーク設定

MusicCast CONTROLLERについて

MusicCast対応機器でネットワーク機能を使うためには、モバイル機器用の専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」が必要です。App StoreまたはGoogle Playで「MusicCast CONTROLLER」（無料）を検索し、インストールしてください。

MusicCastネットワークに登録する

本機をMusicCastネットワークに登録します。同時に本機のネットワークの接続設定も行えます。

お知らせ

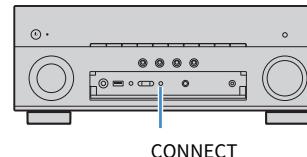
ネットワークに無線接続する場合は、使用する無線LANルーター（アクセスポイント）のSSIDとセキュリティキーを準備してください。

- モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を起動し、「設定する」をタップする。

お知らせ

2台目以降のMusicCast対応機器を設定する場合は、アプリの「設定」の「新しい機器を登録する」をタップしてください。

- モバイル機器の画面に表示される案内にしたがって「MusicCast CONTROLLER」を操作し、本機の前面パネルにあるCONNECTボタンを5秒間押す。



- モバイル機器の画面に表示される案内にしたがって「MusicCast CONTROLLER」を操作し、ネットワークを設定する。

これでMusicCastネットワークへの登録とネットワーク設定は完了です。「MusicCast CONTROLLER」を操作して、音楽を再生してください。

お知らせ

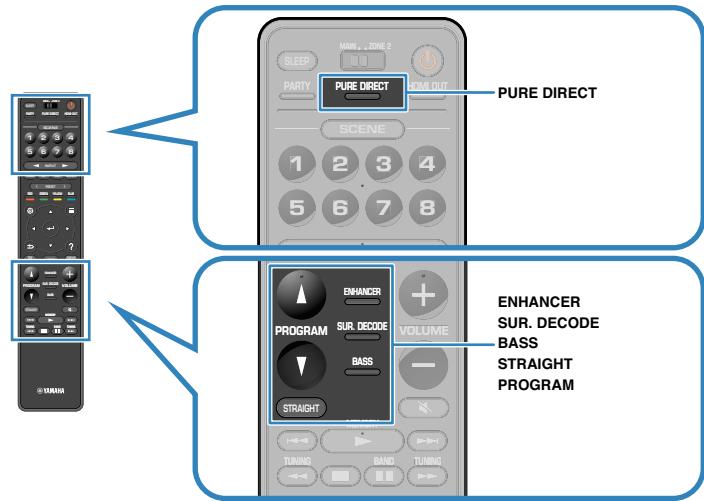
- AirPlayおよびDSDの音声は送信できません。
- ピュアダイレクト使用時には、ネットワーク、USB、Bluetooth以外の入力は送信できません。
- 本機をMusicCastネットワークに登録すると、有線接続を使用している場合でも、本体前面ディスプレイの無線LAN表示が点灯します。
- 本機（親機）とMusicCastネットワークの機器（子機）との電源を連動できます。設定方法については、次をご覧ください。
-「本機とMusicCast対応機器の電源連動を設定する」（125ページ）

音を楽しむ

音場効果を楽しむ

お好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。



お知らせ

- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。
- 音声出力中のスピーカー端子は、本体前面ディスプレイのスピーカー表示でも確認できます。

立体的な音場効果を楽しむ（シネマ DSP 3D）

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP 3D）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。

CINEMA DSP 3D

音場プログラムの種類



音場プログラム

お知らせ

- 設定メニューの「エフェクト量の加減」で、音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整できます。詳しくは次をご覧ください。
-「音場プログラムの効果量を調節する」(109 ページ)
- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。
- よりよい音場効果を得るにはプレゼンスピーカーの使用をおすすめします。ただし、プレゼンスピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルプレゼンスピーカー（VPS）を創り出し、立体的な視聴空間を実現します。
- サラウンドバックスピーカーが接続されていない状態で、6.1ch/7.1ch の音声信号が入力されたときは、本機はサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を創り出し、後方に奥行き感ある視聴空間を実現します。
- VPS または VSBS が機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

コンテンツに適した音場効果を楽しむ

本機には、さまざまな音場プログラムが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

- 映像コンテンツを楽しむ場合は、本体前面ディスプレイに「MOVIE」と表示される音場プログラムをおすすめします。
- 音楽鑑賞を楽しむ場合は、本体前面ディスプレイに「MUSIC」と表示される音場プログラムをおすすめします。

詳しくは次をご覧ください。

- 「音場プログラムを選択する」(108 ページ)

お知らせ

音場プログラムは PROGRAM キーで選択できます。

サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ(バーチャルシネマ DSP)

バーチャルシネマ DSP により、サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しめます。サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム（「2ch ステレオ」、「7ch ステレオ」以外）を選択すると、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

お知らせ

バーチャルシネマ DSP 動作時は、本体前面ディスプレイに「VIRTUAL」が点灯します。

前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ(バーチャルシネマフロント)

バーチャルシネマフロントを使うと、前方に設置した 5 本のスピーカーでマルチチャンネルサラウンド再生を楽しめます。サラウンドスピーカーを前方に設置して、設定メニューの「サラウンド」で「配置」を「前方」に設定すると、仮想サラウンドスピーカーを後方に構築します。

お知らせ

- 設定メニューの「サラウンド」については、次をご覧ください。
-「サラウンドスピーカーの配置を設定する」(102 ページ)
- バーチャルシネマフロント動作時は、本体前面ディスプレイに「VIRTUAL」が点灯します。

ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ(サイレントシネマ)

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選択すると、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しめます。

SILENT™
CINEMA

音場効果をかけずに楽しむ

オリジナルの音声を楽しむ（ストレートデコード）

STRAIGHT キーを押してストレートデコードを有効にすると、CD などの 2 チャンネルソースを、音場効果をかけずにフロントスピーカーからステレオ音声で再生できます。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。



ストレートデコードは、STRAIGHT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

お知らせ

- サラウンドバックスピーカーを接続している状態で、5.1ch の音声信号が入力されたときは、7.1ch で再生します。
- 設定メニューの「サラウンド」で「配置」を「前方」に設定時は、マルチチャンネルソースを再生するとバーチャルシネマフロントが機能します。詳しくは次をご覧ください。
 - 「サラウンドスピーカーの配置を設定する」(102 ページ)
 - 「前に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ(バーチャルシネマフロント)」(53 ページ)

音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）

リモコンの SUR. DECODE キーを押して、サラウンドデコーダーを選択します。サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。

「SUR. DECODE」と表示



SUR. DECODE キーを押すたびに、サラウンドデコーダーが切り替わります。

お知らせ

- サラウンドデコーダーは、設定メニューの「デコーダー選択」でも選択できます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「サラウンドデコードで使用するデコーダーを選択する」(112 ページ)
- 各サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。
 - 「音声デコードフォーマットに関する用語」(167 ページ)
- 各サラウンドデコーダーに関する設定は、設定メニューの「サラウンドデコーダー」で変更できます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「センタースプレッドを設定する」(113 ページ)
 - 「センター定位の強さ（広がり感）を調節する」(113 ページ)
- 一部の入力ソースでは、選択したサラウンドデコーダーが機能しない場合があります。
 - 「ネットワークストリーミングが Dolby コンテンツの場合には、Dolby Surround に設定することをお勧めいたします。
- Dolby Surround デコーダーまたは Neural:X デコーダー選択時は、次のバーチャル処理は動作しません。
 - 「前に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ(バーチャルシネマフロント)」(53 ページ)
 - 「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）」(53 ページ)

原音に忠実な音質を楽しむ（ピュアダイレクト）

PURE DIRECT キーを押して、ピュアダイレクトを有効にすると、音場効果をかけずに最低限必要な回路のみで再生できます。これにより、原音により忠実な音質を再現できます。



ピュアダイレクトは、PURE DIRECT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

お知らせ

ピュアダイレクト使用時、次の機能は使用できません。

- 音場プログラムの選択
- マルチゾーン機能
- トーンコントロールの調整
- オプションメニュー、設定メニューの操作
- 本体前面ディスプレイの表示（操作がない場合）

より豊かな低音を楽しむ

低音を楽しむ（エクストラベース）

リモコンの BASS キーを押して、エクストラベースを有効にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

エクストラベースは、BASS キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

お知らせ

オプションメニューの「エクストラベース」でも、エクストラベースを有効/無効にできます。詳しくは次をご覧ください。

- 「エクストラベースを設定する」（91 ページ）

圧縮音源を楽しむ

圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ（ミュージックエンハンサー）

リモコンの ENHANCER キーを押して、ミュージックエンハンサーを有効にすると、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

compressed music ENHANCER

「ENHANCER」が点灯



ミュージックエンハンサーは、ENHANCER キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

お知らせ

- ミュージックエンハンサーは、次の音源には機能しません。
 - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
 - DSD の音声
- オプションメニューの「エンハンサー」でも、ミュージックエンハンサーを有効/無効にできます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「ミュージックエンハンサーを設定する」(90 ページ)

Dolby Atmos®や DTS:X™を楽しむ

Dolby Atmos®や DTS:X™を楽しむ

Dolby Atmos や DTS:X のコンテンツ再生によって、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を楽しめます。Dolby Atmos や DTS:X のコンテンツを最大限にお楽しみいただくには、プレゼンススピーカーを使用するスピーカーシステムをお勧めします。

お知らせ

プレゼンススピーカーを使用するスピーカーシステムについては、次をご覧ください。

- 「7.1/5.1.2 システムで使用する」(25 ページ)
- 「5.1.2 システムで使用する」(26 ページ)

Dolby Atmos®について

- 次の場合は、Dolby Atmos コンテンツであっても Dolby TrueHD または Dolby Digital Plus のフォーマットで再生されます (Dolby Atmos PCM フォーマットの場合は、常に Dolby Atmos で再生されます)。
 - サラウンドバックスピーカー、プレゼンススピーカーのいずれも不使用
 - ヘッドホンを接続 (2 チャンネル再生になります)
- Dolby Atmos デコーダーがはたらいているときは、バーチャルシネマフロントなどのバーチャル処理は動作しません。詳しくは次をご覧ください。
 - 「前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)」(53 ページ)
 - 「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)」(53 ページ)

DTS:X™について

- DTS:X コンテンツ再生時は、オプションメニューの「DTS ダイアログコントロール」で中央に定位する音 (セリフなど) の音量を調整できます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「DTS:X 再生時にセリフの音量を調整する」(89 ページ)
- DTS:X デコーダーがはたらいているときは、バーチャルシネマフロントなどのバーチャル処理は動作しません。詳しくは次をご覧ください。
 - 「前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)」(53 ページ)
 - 「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)」(53 ページ)

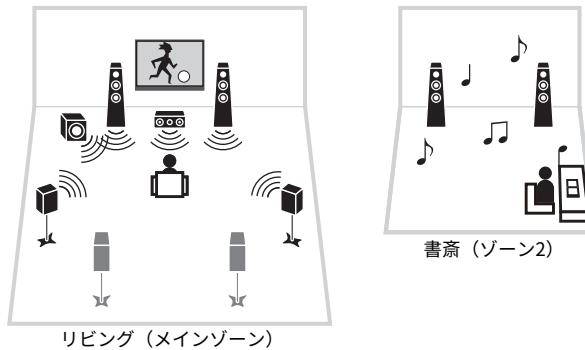
複数の部屋で音楽を楽しむ

複数の部屋で音楽を再生する（マルチゾーン）

マルチゾーン機能を使えば、本機を設置した部屋（メインゾーン）と別の部屋（ゾーン2）でそれぞれ入力を選択して再生が行えます。たとえばリビング（メインゾーン）でテレビを視聴しているときに、書斎（ゾーン2）でラジオを聴くなど、お好みに合わせて使用できます。

ゾーン2とメインゾーン（本機）を接続するには、本機の内蔵アンプを使用する、または外部アンプを使用するという2つの方法があります。外部アンプを使用する場合は、メインゾーンのスピーカーシステムとして7.1/5.1.2システムを選択できます。

- ・「本機の内蔵アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する」
(59 ページ)
- ・「外部アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する」(60 ページ)



お知らせ

- ・ゾーン2に出力できる音声は、デジタル/アナログ音声（FM/AM ラジオを含む）およびBluetooth 機器、USB 機器、ネットワークコンテンツの音声です。PHONO がある場合、その音声もゾーン2に出力できます。また、2 チャンネル以上の音声は、2 チャンネルにダウンミックスしてゾーン2から出力されます。
- ・AV 機器の音声をゾーン2に出力する場合は、AV 機器を本機の AUDIO 端子（AV1～2、AUDIO1～5）に接続してください。
- ・ゾーン2でメインゾーンと同じ音声を再生するには、ゾーン2の入力として「Main Zone Sync」を選びます。ゾーン2の入力は、メインゾーンと連動して切り替わります。
- ・パーティーモードを使うと、音声入力端子の種類に関係なく、メインゾーンと同じ音声をゾーン2に出力できます。詳しくは次をご覧ください。
-「すべての部屋で同じ音楽を聴く（パーティーモード）」(63 ページ)

ゾーン2スピーカーを接続する

■ 本機の内蔵アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する

スピーカーケーブルを使って、ゾーン2に設置したスピーカーを本機に接続します。

注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。

マルチゾーン機能を有効にするには、スピーカーに関する設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「内蔵アンプを利用したスピーカーシステム」(31ページ)
- 「スピーカー構成を設定する」(43ページ)
- 「スピーカーシステムの構成を設定する」(100ページ)

お知らせ

外部アンプを使ってゾーン2スピーカーを接続することもできます。詳しくは次をご覧ください。

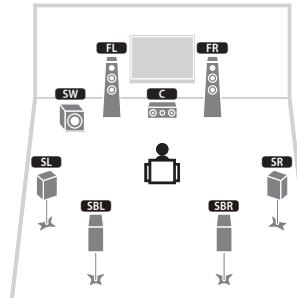
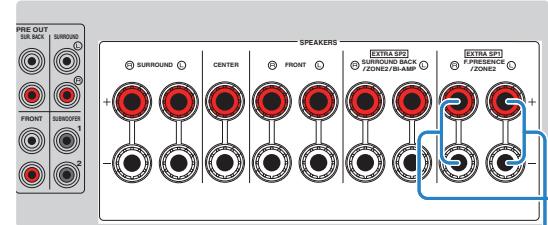
- 「外部アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する」(60ページ)

■ メインゾーンでサラウンドバックスピーカーを使用する場合

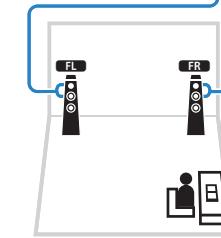
EXTRA SP1端子にゾーン2スピーカーを接続してください。また、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で「7.1+1Zone」を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカーシステムの構成を設定する」(100ページ)

本機（背面）



メインゾーン



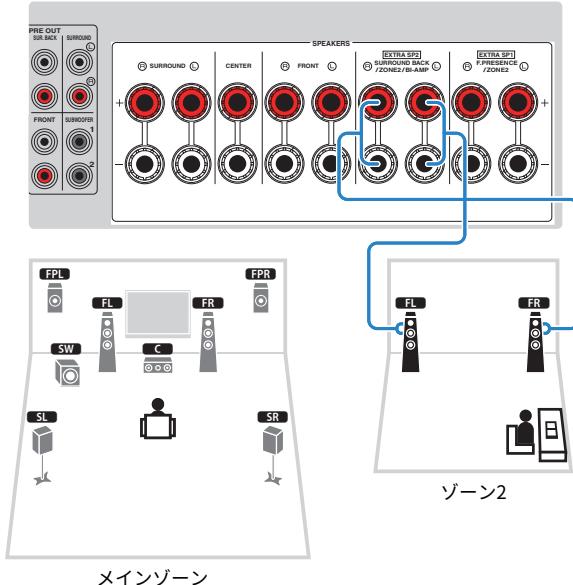
ゾーン2

■ メインゾーンでプレゼンススピーカーを使用する場合

EXTRA SP2 端子にゾーン2スピーカーを接続してください。また、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で「5.1.2+1Zone」を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

- ・「スピーカーシステムの構成を設定する」(100 ページ)

本機（背面）



メインゾーン

■ 外部アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する

ステレオピンケーブルを使って、ゾーン2に設置した外部アンプを本機に接続します。外部アンプを使用する場合は、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」などのスピーカーに関する設定は不要です。

お知らせ

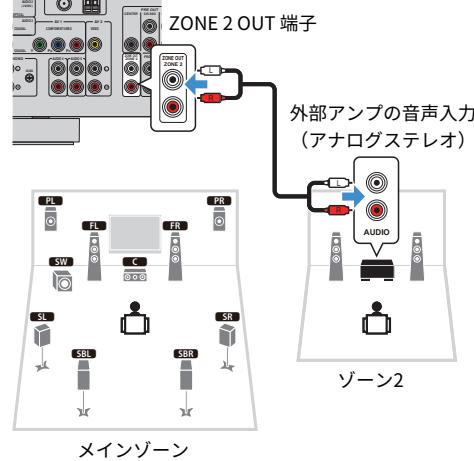
ゾーン2に設置したスピーカーを、スピーカーケーブルを使って本機に直接接続することもできます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「本機の内蔵アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する」(59 ページ)

注意

- ・スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。

本機（背面）



メインゾーン

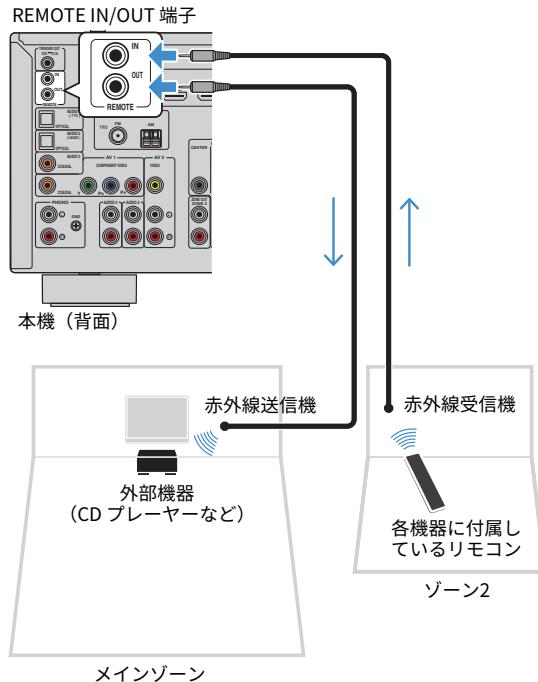
お知らせ

ゾーン2の音量は本機で調整できます。音量調節機能を持つ外部アンプを使用する場合には、設定メニューの「ゾーン2」で「音量」を「固定」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

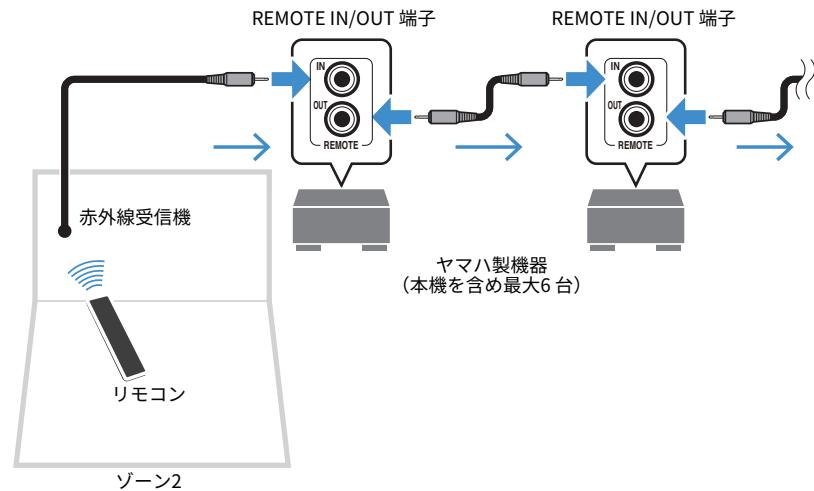
- ・「ゾーン2の音量調節を設定する」(127 ページ)

ゾーン2から本機を操作する（リモート接続）

赤外線受信機/送信機を本機のREMOTE IN/OUT端子に接続すれば、本機や外部機器に付属しているリモコンを使ってゾーン2から各機器を操作できます。



本機のようにリモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。赤外線受信機とモノラルミニプラグケーブルを使って、REMOTE IN/OUT端子を接続するだけで、リモコン信号を転送できます。



ゾーン2を操作する

ゾーン2で音楽を再生する場合の基本的な手順は次のとおりです。

1 MAIN/ZONE2スイッチを「ZONE2」に切り替える。

2 ⓧ(レシーバー電源)キーを押す。

キーを押すたびに、ゾーン2の電源を入/切できます。

ゾーン2出力が有効なときは、本体前面ディスプレイに「ZONE2」が点灯します。

3 入力選択キーで再生する入力を選ぶ。

お知らせ

- NETキーを繰り返し押して、ネットワークソースを切り替えます。
- 「BLUETOOTH」、「USB」、「NET」の各種入力は、すべてのゾーンでいずれか1つしか選べません。例えばメインゾーンの入力が「USB」のときに、ゾーン2で「SERVER」を選ぶと、メインゾーンも「SERVER」に切り替わります。

4 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

お知らせ

- ゾーン2は、テレビ画面の表示には対応していません。
- AirPlayは、メインゾーンでAirPlayを使って再生時のゾーン2にも音声が出力されます。
- SCENEキーを押して、入力と設定をワンタッチで切り替えられます。シーン機能については、次をご覧ください。
-「入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について(SCENEキー)」
(81ページ)
- SLEEPキーを繰り返し押して、スリープタイマーの時間(120分、90分、60分、30分、切)を設定できます。指定した時間が経過するとゾーン2出力が無効になります。
- 内部アンプを使用している場合は、VOLUMEキーとMUTEキーでゾーン2出力の音量調節や消音ができます。
- ミュージックエンハンサーを有効にするには、ENHANCERキーを押してください。
- ゾーン2の入力として「Main Zone Sync」を選ぶと、ゾーン2の入力がメインゾーンと連動して切り替わります。
- ゾーン2でDSD音声を再生するには、ゾーン2の入力として「Main Zone Sync」を選ぶか、パーティーモードをご利用ください。
- リモコンのPROGRAMキーの設定により、ゾーン2でもPROGRAMキーを使用できます。

注意

- DTS-CDをゾーン2で再生しないでください。大きな雑音が出力される恐れがあります。

すべての部屋で同じ音楽を聴く（パーティー モード）

PARTY キーを押して、パーティー モードを有効にすると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にゾーン 2 でも楽しむことができます。パーティー モード中は、すべてのゾーンでステレオ音声が出力されます。ホームパーティーの BGM などにご利用ください。

パーティー モードは、PARTY キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。パーティー モード中は、本体前面ディスプレイに「PARTY」が点灯します。

お知らせ

パーティー モードが機能しない場合は、設定メニューの「パーティー モード 設定」を「有効」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「ゾーン 2 のパーティー モード切り替えを設定する」(129 ページ)

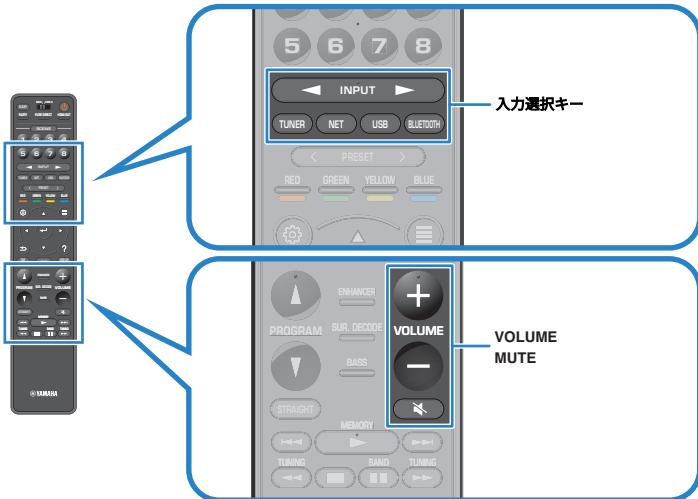
再生する

基本操作

再生の基本操作

映像や音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。

- 1 本機に接続した外部機器の電源を入れる。
- 2 入力選択キーで入力を選ぶ。



- 3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。
- 4 VOLUME キーで音量を調節する。

お知らせ

- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- 外部機器の操作については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

HDMI 出力端子を切り替える

HDMI OUT キーを押して、HDMI（映像/音声）信号を出力する HDMI OUT 端子を選択します。

HDMI OUT キーを押すたびに、信号を出力する HDMI OUT 端子が切り替わります。



HDMI OUT 1+2 HDMI OUT 1～2 端子の両方から同じ信号を出力する。

HDMI OUT 1 HDMI OUT 1 端子からのみ信号を出力する。

HDMI OUT 2 HDMI OUT 2 端子からのみ信号を出力する。

HDMI OUT Off HDMI OUT 端子から信号を出力しない。

お知らせ

- シーン機能でも、HDMI 出力端子を切り替えることができます。詳しくは次をご覧ください。
-「入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)」
(81 ページ)
- 「HDMI OUT 1+2」を選んだ場合、出力先の 2 台のテレビ（またはプロジェクター）の両方が対応しているもともと高い解像度で信号が出力されます。（例：HDMI OUT1 端子に 1080p 対応のテレビ、HDMI OUT2 端子に 720p 対応のテレビを接続している場合、720p 信号が出力されます。）

本体前面ディスプレイの表示を切り替える

本体前面の INFO キーを繰り返し押して、本体前面ディスプレイの表示項目を、次表のとおり切り替えられます。



約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



入力グループ	表示項目
HDMI	
AV	Input (入力名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
AUX	
AUDIO	
PHONO	
TUNER	Frequency (周波数)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
Bluetooth	Song (曲名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
USB	
SERVER	Song (曲名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
AirPlay	
NET RADIO	Song (曲名)、Album (アルバム名)、Station (放送局名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
Spotify	Track (トラック名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
Deezer	
radiko.jp	Station (ラジオ局名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC
MusicCast Link	DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)、IP Address、Ethernet MAC、Wi-Fi MAC

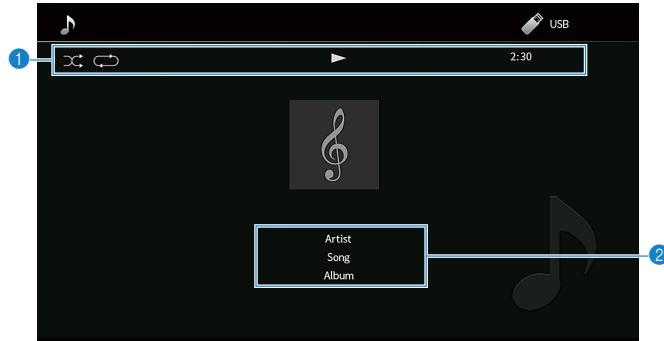
* 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。

お知らせ

- ・入力により切り替え可能な表示項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- ・曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。「_」で表示されます。

再生画面の各部の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに再生時表示される再生画面の各部の名称と機能について説明します。



① ステータス表示

リピート再生/シャッフル再生の設定、再生状態（再生/一時停止など）、および再生時間が表示されます。

② 再生情報

アーティスト名、曲名、アルバム名が表示されます。

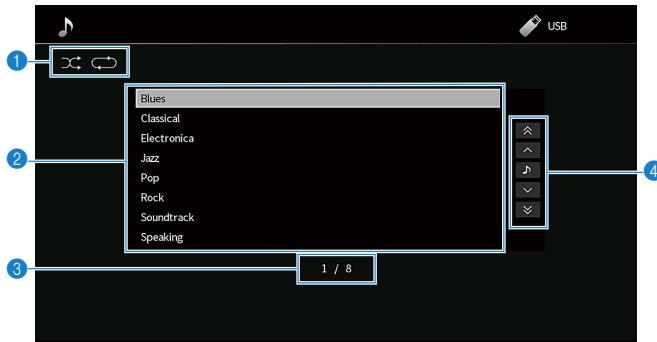
お知らせ

- 再生内容によって表示が異なります。
- リモコンの外部機器操作キー（▶、■、■■、◀◀、▶▶）で再生操作ができます（外部機器によっては一部の機能を操作できない場合があります）。
- RETURN キーを押すと、ブラウズ画面を表示します。
- オプションメニューの「映像選択」で「オフ」以外を選択している場合、カーソルの左キーを押すと、再生画面を閉じて、背景を表示します。画面を再表示する場合は、カーソルキーを押してください。

ブラウズ画面の各部の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに表示されるブラウズ画面の各部の名称と機能について説明します。ブラウズ画面は、次の入力を選択したときに表示されます。

- USB
- SERVER
- NET RADIO



① ステータス表示

リピート再生/シャッフル再生の設定が表示されます。

② コンテンツリスト

コンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押します。

③ コンテンツ番号/総数

④ 操作メニュー

カーソルキーでアイコンを選び、ENTER キーを押します。

アイコン	説明
↗	10 ページ上のリストを表示します。
↖	1 ページ上のリストを表示します。
♪	再生画面を表示します。
↓	1 ページ下のリストを表示します。
↙	10 ページ下のリストを表示します。

お知らせ

- 再生内容によって表示が異なります。
- オプションメニューの「映像選択」で「オフ」以外を選択している場合、カーソルの左キーを押すと、ブラウズ画面を閉じて、背景を表示します。画面を再表示する場合は、カーソルキーを押してください。

FM/AM ラジオを聞く

周波数を指定してラジオ局を選ぶ

周波数を指定して FM/AM ラジオを選局します。

1 TUNER キーを押す。

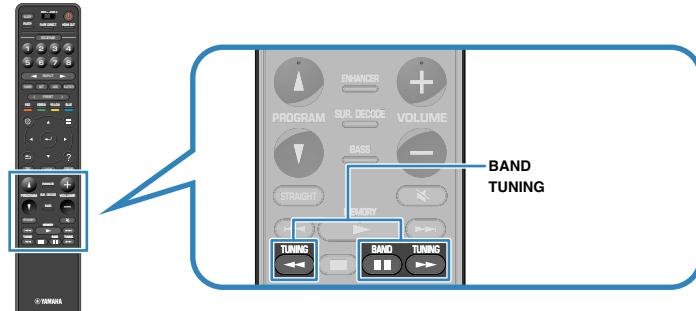
入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。



2 BAND キーを押し、FM/AM を切り替える。

3 TUNING キーを繰り返し押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は本体前面ディスプレイに「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

お知らせ

ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しめます。詳しくは次をご覧ください。

- 「音声と同時に出力する映像を設定する」(92 ページ)

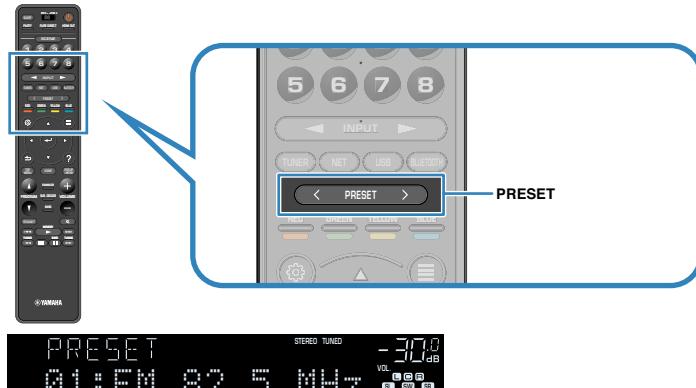
登録したラジオ局を選ぶ

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選択します。

1 TUNER キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

2 PRESET キーを押し、プリセット局を選ぶ。



お知らせ

ラジオ局が1つも登録されていない場合は、本体前面ディスプレイに「No Presets」と表示されます。

FM ラジオ局を自動で登録する（FM オートプリセット）

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。

お知らせ

- 最大 40 局のラジオ局を登録できます。
- AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは次をご覧ください。
-「ラジオ局を手動で登録する」(70 ページ)

1 TUNER キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。

「FM オートプリセット」に登録するプリセット番号が表示されます。

お知らせ

登録を開始するプリセット番号を指定する場合は、カーソルキーまたは PRESET キーでプリセット番号を選択します。

4 ENTER キーを押す。

オートプリセットが開始され、オートプリセット中は「検索中」と表示されます。

お知らせ

オートプリセットを中止するには、RETURN キーを押します。

オートプリセットが終わると「終了」と表示され、オプションメニューが自動的に終了します。

ラジオ局を手動で登録する

ラジオ局を手動で選局し、プリセット番号に登録します。

お知らせ

最大 40 局のラジオ局を登録できます。

1 TUNER キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

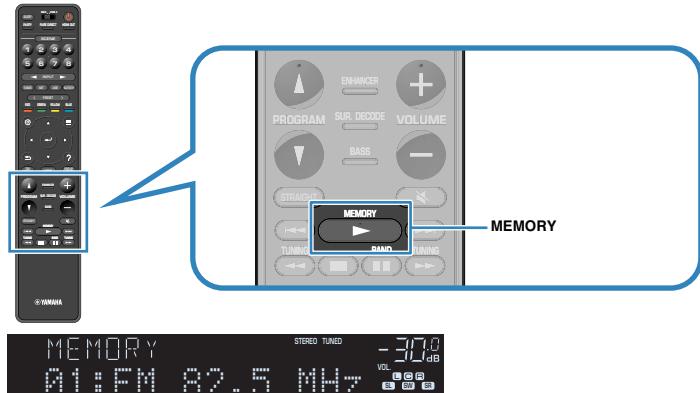
2 BAND キーを押し、FM/AM を切り替える。

3 TUNING キーを押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。

4 MEMORY キーを数秒間押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号にラジオ局が登録されます。



お知らせ

登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーを押してプリセット番号を選択し、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」（空き）または現在登録されている周波数

これで登録は完了です。

ラジオ局の登録を解除する

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。

1 TUNER キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。

4 カーソルキーで「プリセット消去」を選ぶ。

5 カーソルキーで登録を解除するプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。

登録が解除されると「消去しました」と表示され、次に登録されているプリセット番号が表示されます。

6 別のプリセット番号の登録を解除するには、手順 5 を繰り返す。

7 OPTION キーを押す。

これで登録の解除が完了です。

ラジオ局の登録をすべて解除する

プリセット番号に登録されているすべてのラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。

1 TUNER キーを押す。

入力が「TUNER」に切り替わり、本体前面ディスプレイに選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。

4 カーソルキーで「全プリセット消去」を選ぶ。

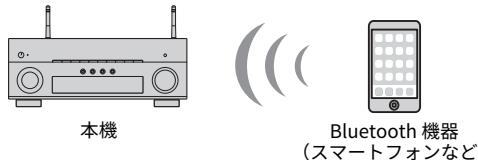
5 カーソルキーで「実行」を選び、ENTER キーを押す。

すべてのラジオ局（プリセット局）の登録が解除されると、「全プリセット消去」が表示され、オプションメニューが自動的に終了します。

Bluetooth®接続で再生する

Bluetooth®機器の音声を本機で再生する

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）に保存した音楽ファイルなどを本機で再生します。



お知らせ

- Bluetooth 接続も、無線アンテナを立てて使用します。詳しくは次をご覧ください。
-「無線アンテナを準備する（無線接続）」(40 ページ)
- Bluetooth 機能を利用するには、Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっている必要があります。
- Bluetooth 機能を利用するには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」である必要があります。詳しくは次をご覧ください。
-「Bluetooth を設定する」(126 ページ)
- 対応している Bluetooth 機器については、次をご覧ください。
-「対応している Bluetooth 機器」(171 ページ)

3 Bluetooth 機器を操作して音声を再生する。

テレビに再生画面が表示されます。

お知らせ

- 接続済みの Bluetooth 機器を検出した場合は、手順 1 のあと自動的にその Bluetooth 機器に接続されます。別の Bluetooth 機器と接続するには、まず現在の Bluetooth 接続を切断します。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - 本機の入力を「Bluetooth」以外に切り替える。
 - 設定メニューの「デバイス切断」で ENTER キーを押す。

1 BLUETOOTH キーを押し、入力を「Bluetooth」に切り替える。

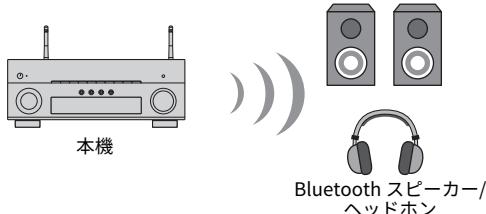
2 Bluetooth 機器を操作し、本機（本機のネットワーク名称）を選ぶ。

Bluetooth 機器と本機の接続が完了します。

パスキーの入力が必要な場合は、数字「0000」を入力してください。

本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する

本機で再生している音声を Bluetooth スピーカー/ヘッドホンに出力します。



お知らせ

- 本機に接続したスピーカーからも再生音が出ます。
- AirPlay および DSD の音声は送信できません。
- Bluetooth 機能の「音声送信」と「音声受信」は、同時に使用できません。

1 リモコンの入力選択キーで再生したい入力を選ぶ。

「Bluetooth」以外を選択してください。

2 SETUP キーを押す。

3 カーソルキーで「Bluetooth 設定」を選び、ENTER キーを押す。

4 カーソルキーで「音声送信」を選び、ENTER キーを押す。

5 カーソルキーで「音声送信機能」を選び、ENTER キーを押す。

6 カーソルキーで「音声送信機能」を「オン」にして、RETURN キーを押す。

7 カーソルキーで「デバイス検索」を選び、ENTER キーを押す。

Bluetooth 機器の一覧が表示されます。

8 カーソルキーで本機と接続したい Bluetooth スピーカー/ヘッドホンを表示する画面を選び、ENTER キーを押す。

9 カーソルキーで本機と接続したい Bluetooth スピーカー/ヘッドホンを選び、ENTER キーを押してチェックマークを付ける。

10 カーソルキーで「接続」を選び、ENTER キーを押す。

接続が完了すると「完了」と表示され、Bluetooth スピーカー/ヘッドホンから音声が出力されます。

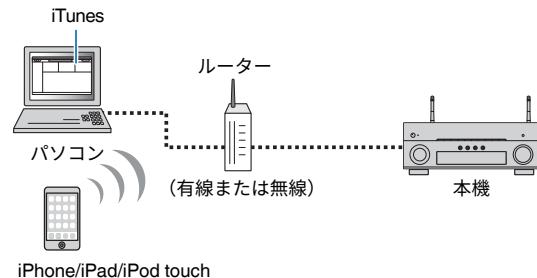
お知らせ

- 接続したい Bluetooth 機器が一覧に表示されない場合は、Bluetooth 機器をペアリング状態にしてから、再度「デバイス検索」を実行してください。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - 設定メニューの「音声送信機能」を「オフ」に設定する。

AirPlay で音楽を聞く

AirPlay で iTunes/iPhone の音楽を再生する

AirPlay 機能を使って、iTunes や iPhone の音楽ファイルを本機で再生します。



お知らせ

対応している iPhone については、次をご覧ください。

- 「対応している AirPlay 機器」(171 ページ)

- 1 iTunes を起動する、または iPhone の音楽再生画面を表示する。
- 2 iTunes/iPhone で AirPlay アイコンをクリック（タップ）し、音声の出力先として本機（ネットワーク名）を選ぶ。

iOS 10（表示例）



iTunes（表示例）



- 3 iTunes/iPhone を操作して曲を再生する。

本機の入力が自動的に「AirPlay」に切り替わり、再生が始まります。
テレビに再生画面が表示されます。

注意

- iTunes/iPhone で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、聴覚障害や機器の損傷の原因になる場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPhone の再生を停止してください。あらかじめ、オプションメニューの「音量連動」で iTunes/iPhone からの音量変化を制限しておくことをおすすめします。

お知らせ

- iTunes/iPhone で再生を始めると本機の電源を自動的に入れる設定ができます。詳しくは次をご覧ください。
-「ネットワークスタンバイを設定する」(123 ページ)
- iTunes/iPhone に表示される本機のネットワーク名を変更できます。詳しくは次をご覧ください。
-「本機のネットワーク名を設定する」(125 ページ)
- 再生中は iTunes/iPhone から本機の音量を操作できます。詳しくは次をご覧ください。
-「AirPlay で再生する機器と本機との音量連動を設定する」(125 ページ)

USB 機器の曲を再生する

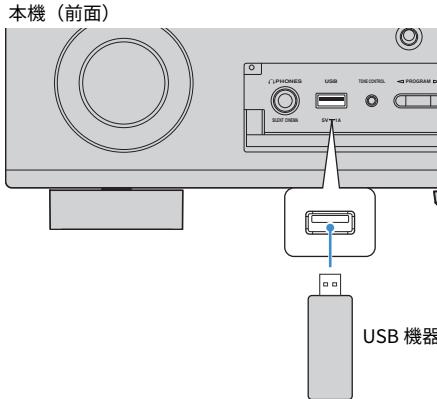
USB 機器の曲を再生する

USB 機器に保存されている音楽ファイルなどを本機で再生します。

お知らせ

- 対応している USB 機器については、次をご覧ください。
-「対応している USB 機器」(171 ページ)
- 再生できるファイルフォーマットについては、次をご覧ください。
-「対応しているファイルフォーマット」(171 ページ)

1 USB 機器を USB 端子に接続する。



お知らせ

- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかる場合があります。この場合、本体前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。
- USB 機器は再生を停止させてから取り外してください。
- USB 機器は直接本機の USB 端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。
- 本機がスタンバイ中は、USB 機器の充電はできません。

2 USB キーを押し、入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

選択したコンテンツの再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。

お知らせ

RETURN キーを長押しすると、トップの画面に戻ります。

お知らせ

- 曲のシャッフル再生/リピート再生ができます。詳しくは次をご覧ください。
-「シャッフル再生を設定する」(92 ページ)
-「リピート再生を設定する」(92 ページ)
- お好みのコンテンツをショートカットに登録し、簡単に呼び出すことができます。詳しくは次をご覧ください。
-「お好みのコンテンツをショートカットに登録する」(84 ページ)

メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する

メディアサーバー（パソコン/NAS）の共有設定を行う

メディアサーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生するために、各機器で本機とのメディア共有を有効にします。

共有の設定は、お使いのメディアサーバーにより手順が異なる場合があります。ここでは例として、Windows Media Player 12 の設定手順を説明します。

お知らせ

- Windows Media Player の表示方法や、パソコンの設定などにより操作方法が異なる場合があります。
- Windows Media Player 以外のメディアサーバーソフトの場合は、各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照して共有設定を行ってください。

- 1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- 2 メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。
- 3 開いたウィンドウで、「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。
- 4 機種名の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。
- 5 「OK」をクリックする。

これで設定は終了です。

お知らせ

共有設定について詳しくは、Windows Media Player のヘルプをご覧ください。

メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する

メディアサーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

お知らせ

- 事前に、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。詳しくは次をご覧ください。
-「メディアサーバー（パソコン/NAS）の共有設定を行う」(76 ページ)
- メディアサーバーの曲を再生するには、本機とメディアサーバー（パソコン/NAS）が同じルーターに接続されている必要があります。ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認するには、次をご覧ください。
-「ネットワーク情報を確認する」(122 ページ)
- 無線ネットワーク接続時に音声が途切れる場合は、有線でネットワークに接続してください。
-「再生できるファイルフォーマットについては、次をご覧ください。
-「対応しているファイルフォーマット」(171 ページ)

- 1 NET キーを繰り返し押して、入力を「SERVER」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

お知らせ

メディアサーバー（パソコン/NAS）の再生が続いている場合は、再生画面が表示されます。

- 2 カーソルキーでメディアサーバーを選び、ENTER キーを押す。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTERキーを押す。

曲を選択すると再生が始まり、再生画面が表示されます。

お知らせ

RETURNキーを長押しすると、トップの画面に戻ります。

お知らせ

- 曲のシャッフル再生/リピート再生ができます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「シャッフル再生を設定する」(92 ページ)
 - 「リピート再生を設定する」(92 ページ)
- デジタルメディアコントローラー (DMC) からも再生を操作できます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「デジタルメディアコントローラーからの操作を設定する」(124 ページ)
- お好みのコンテンツをショートカットに登録し、簡単に呼び出すことができます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「お好みのコンテンツをショートカットに登録する」(84 ページ)

インターネットラジオを聞く

インターネットラジオ局を選ぶ

インターネットラジオ局を選択して受信し、再生を始めます。

お知らせ

- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります。ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認するには、次をご覧ください。
-「ネットワーク情報を確認する」（122 ページ）
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- この機能は、airable.Radio ラジオ局データベースサービスを利用します。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。

1 NET キーを繰り返し押して、入力を「NET RADIO」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

再生が始まり、再生画面が表示されます。

お知らせ

RETURN キーを長押しすると、トップの画面に戻ります。

インターネットラジオ局をお気に入りに登録する

現在再生中のインターネットラジオ局をお気に入りに登録します。

1 インターネットラジオの再生中に、OPTION キーを押す。

2 カーソルキーで「お気に入りに追加」を選び、ENTER キーを押す。

再生画面では、再生中のラジオ局がお気に入りフォルダーに登録されます。ブラウズ画面では、コンテンツ一覧で選択しているラジオ局がお気に入りフォルダーに登録されます。

登録が完了するとオプションメニューは自動的に終了します。

お知らせ

- お気に入りに登録されたラジオ局には★が表示されます。
- お気に入りからラジオ局を削除するには、削除したいラジオ局にカーソルを移動させ、OPTION キーを押します。オプションメニューの「お気に入りから削除」を選び、ENTER キーを押して削除します。
- お好みのラジオ局はショートカット登録もできます。詳しくは次をご覧ください。
-「お好みのコンテンツをショートカットに登録する」（84 ページ）

radiko.jp でラジオを聴く

radiko.jp でラジオ局を選ぶ

radiko.jp でラジオ放送を受信します。

radiko.jp は、地上波ラジオ放送を CM も含めて同時にインターネットで配信する「IP (Internet Protocol) サイマルラジオ」サービスです。放送エリアに準じた地域に配信するサービスのため、エリア（都道府県）ごとに対応している放送局が異なります。対応しているエリアや放送局については、radiko.jp のウェブサイトをご覧ください。

お知らせ

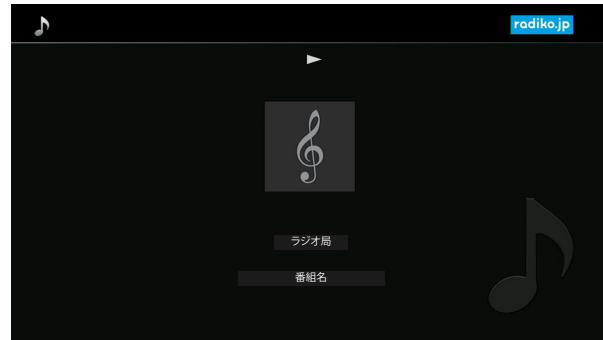
- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります。設定メニューの「ネットワーク情報」で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。詳しくは次をご覧ください。
-「ネットワーク情報を確認する」(122 ページ)
- radiko.jp の選局には、モバイル機器にインストールした MusicCast CONTROLLER を使用します。また、本機が MusicCast ネットワークに登録されている必要があります。詳しくは次をご覧ください。
-「MusicCast ネットワークに登録する」(51 ページ)
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。

radiko.jp プレミアム（有料）に登録すると、全国のラジオ局を受信できます。radiko.jp プレミアムを利用するには、radiko.jp のウェブサイトでユーザー登録を行い、MusicCast CONTROLLER でログイン名とパスワードを入力してください。

1 モバイル機器の MusicCast CONTROLLER を操作して、入力を 「radiko.jp」に切り替える。

2 MusicCast CONTROLLER でラジオ局を選ぶ。

ラジオ局を選ぶと再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。



お知らせ

ショートカット機能を使うと、お好みのラジオ局を登録することができます。登録したラジオ局は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。詳しくは次をご覧ください。

- 「お好みのコンテンツをショートカットに登録する」(84 ページ)

Spotify サービスを利用する

Spotify Connect で高音質の音楽を聴く

聴きたい音楽すべてを Spotify で。Spotify なら、何千万もの曲を手軽に聴くことができます。

好きな曲を探したり、Spotify がおすすめする曲を楽しむこともできます。

Spotify はスマホ、タブレット、パソコン、Wi-Fi スピーカーなどで再生できるので、いつでもどこでも、聴きたい音楽を楽しめます。

ヤマハオーディオ機器で Spotify を利用するには、Spotify Premium への加入が必要です。

ウェブサイト [spotify.com/premium](https://www.spotify.com/premium) で Spotify Premium にアップグレードできます。

- 1 本機を Wi-Fi ネットワークに接続します。
- 2 同じ Wi-Fi ネットワークに接続されているモバイル端末またはタブレット、パソコンで Spotify のアプリを起動します。
- 3 曲を再生して、「接続可能なデバイス」をタップします。
- 4 本機を選んで音楽を聴きます。

詳細はウェブサイト [spotify.com/connect](https://www.spotify.com/connect) をご覧ください。

Deezer サービスを利用する

Deezer サービスを利用する

Deezer は高品質でロスレスかつクリアな音質を楽しめる音楽ストリーミングサービスです。

お知らせ

- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります。設定メニューの「ネットワーク情報」で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。詳しくは次をご覧ください。
-「ネットワーク情報を確認する」(122 ページ)
- Deezer の選局には、モバイル機器にインストールした MusicCast CONTROLLER を使用します。また、本機が MusicCast ネットワークに登録されている必要があります。詳しくは次をご覧ください。
-「MusicCast ネットワークに登録する」(51 ページ)

Deezer サービスを利用するには Deezer アカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、あらかじめ Deezer のウェブサイトでアカウントをご登録ください。詳しくは次のウェブサイトをご覧ください。

www.deezer.com/

- 1 モバイル機器の MusicCast CONTROLLER を操作して、Deezer サービスのアカウントにサインインする。
- 2 MusicCast CONTROLLER で Deezer のコンテンツを選ぶ。
コンテンツの再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。

便利な再生機能

シーン機能

■ 入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について(SCENE キー)

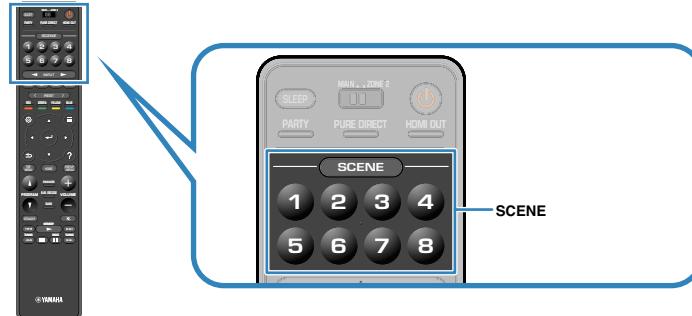
シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した次の内容をワンタッチで切り替えられます。

- ・入力
- ・音場プログラム
- ・ピュアダイレクト
- ・ミュージックエンハンサー
- ・HDMI 出力端子

シーン機能はリモコンの SCENE キー (1~8 の番号キー) に登録してあり、登録内容は変更もできます。

■ SCENE キーに登録したシーンを呼び出す

1~8 の番号キーを押して、登録しているシーンをワンタッチで呼び出します。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。



お知らせ

ゾーン2で使用する場合は、MAIN/ZONE2 スイッチを「ZONE2」に切り替えてください。

番号キーの代わりに、SCENE キーを繰り返し押しても、登録しているシーンを呼び出せます。

1 SCENE キーを繰り返し押す。

本体前面ディスプレイとテレビ画面にシーン名が表示されます。

2 叫び出したいシーン名を選び、ENTER キーを押す。

お知らせ

- ・選択せずにキャンセルする場合は、RETURN キーを押します。
- ・30 秒間無操作でも、自動的にキャンセルになります。

各 SCENE キーの登録内容（初期値）は次のとおりです。

メインゾーン

SCENE キー	①	②	③	④
シーン名	Movie Viewing	Radio Listening	Music Listening	NET Audio Listening
入力	HDMI1	TUNER	AUDIO2	NET RADIO
HDMI 出力端子	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2
音場プログラム	サイファイ	7ch ステレオ	ストレート	7ch ステレオ
ピュアダイレクト	オフ	オフ	オフ	オフ
ミュージック エンハンサー	オフ	オン	オフ	オン

SCENE キー	⑤	⑥	⑦	⑧
シーン名	STB Viewing	Game Playing	TV Viewing	Media Server Listening
入力	HDMI2	HDMI3	AUDIO1	SERVER
HDMI 出力端子	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1+2
音場プログラム	ドラマ	アクション ゲーム	ドラマ	7ch ステレオ
ピュアダイレクト	オフ	オフ	オフ	オフ
ミュージック エンハンサー	オフ	オフ	オン	オン

ゾーン 2

SCENE キー	①	②	③	④
入力	AV1	TUNER	AUDIO2	NET RADIO
音量	-40.0dB	-40.0dB	-40.0dB	-40.0dB
トーンコントロール	自動	自動	自動	自動
SCENE キー	⑤	⑥	⑦	⑧
入力	AUDIO3	AUDIO4	AUDIO1	SERVER
音量	-40.0dB	-40.0dB	-40.0dB	-40.0dB
トーンコントロール	自動	自動	自動	自動

お知らせ

- SCENE1～4 は本体前面パネルの SCENE キーでも呼び出しや登録ができます。
- 各設定については次をご覧ください。
-「シーン機能で呼び出す項目を設定する」(116 ページ)

■ SCENE キーの登録内容を変更する

各 SCENE キー（1～8）の登録内容を初期値から変更できます。

お知らせ

- 登録したい入力の映像や音声を視聴しながら、登録することをおすすめします。
- ゾーン2で使用する場合は、MAIN/ZONE2 スイッチを「ZONE2」に切り替えてください。

1 本機を SCENE キーに登録したい状態にする。

- 登録したい入力を選ぶ。（入力が「NET」、「USB」、「Bluetooth」、「TUNER」の場合は、選択しているラジオ局やコンテンツも登録されます。）
- 登録したい音場プログラムを選ぶ。または、ストレートデコード、ピュアダイレクトを選ぶ。
- ミュージックエンハンサーを設定する。
- HDMI コントロールのコントロール運動を設定する。
- HDMI 出力端子を切り替える。

2 本体前面ディスプレイに「SET Complete」（またはテレビ画面に「設定が完了しました」）と表示されるまで、登録先とする SCENE キー（1～8）を押し続ける。



これで登録は完了です。

お知らせ

- 設定メニューの「シーン選択」でより詳細なシーン機能の設定ができます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「シーン機能で呼び出す項目を設定する」（116 ページ）
- 本体前面ディスプレイやテレビ画面に表示するシーン名は変更できます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「シーン名を変更する」（117 ページ）

ショートカット機能

■ お好みのコンテンツをショートカットに登録する

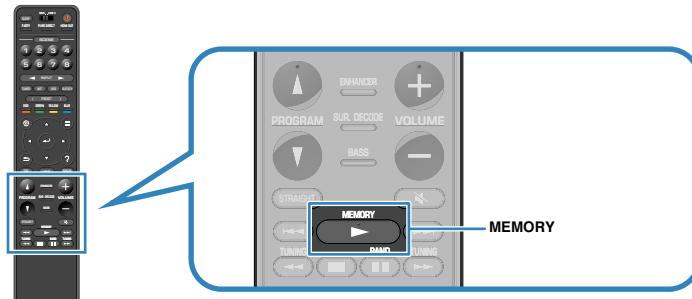
お好みのコンテンツ（Bluetooth 機器、メディアサーバー/USB 機器の曲、インターネットラジオ局）をショートカット番号に登録します。

お知らせ

- 最大 40 種類のコンテンツを登録できます。
- インターネットラジオ局の登録は、お気に入りもご利用いただけます。詳しくは次をご覧ください。
-「インターネットラジオ局をお気に入りに登録する」（78 ページ）
- Bluetooth と AirPlay は入力ソースとして記憶します。再生曲を個別には登録できません。

1 登録したい曲やインターネットラジオ局を再生する。

2 MEMORY キーを数秒間押し続ける。



登録先のショートカット番号（点滅）

本体前面ディスプレイに「MEMORY」が表示され、登録するショートカット番号が点滅表示されます。

お知らせ

登録先のショートカット番号を指定する場合は、PRESET キーを押してショートカット番号を選択します。



Empty（空き）または現在登録されているコンテンツの入力名

3 MEMORY キーを押す。

登録したショートカット番号と「Memorized」が表示されます。

これで登録は完了です。

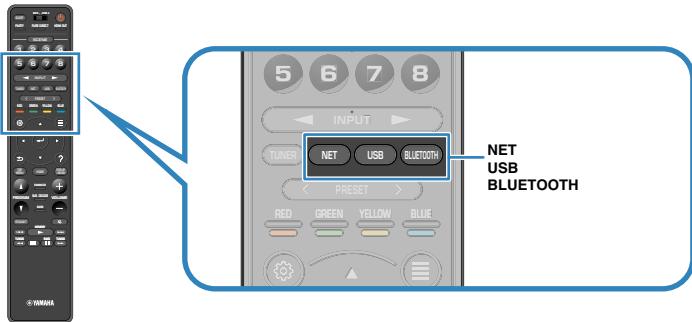
■ ショートカットに登録したコンテンツを呼び出す

ショートカット番号に登録されているコンテンツ（Bluetooth 機器、メディアサーバー/USB 機器の曲、インターネットラジオ局）の中から、聴きたいコンテンツを選択します。

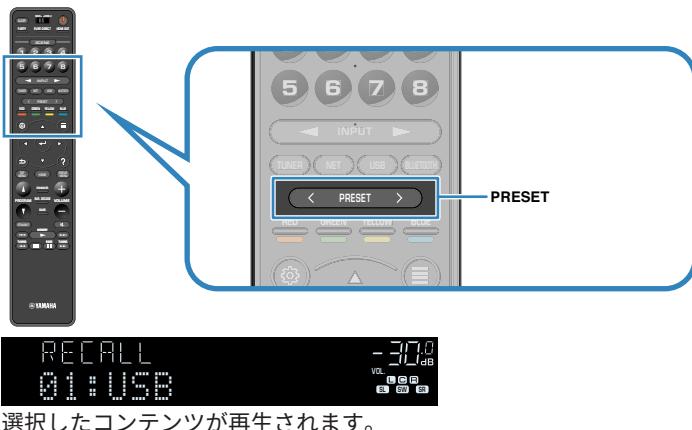
お知らせ

最大 40 種類のコンテンツを登録できます。

1 BLUETOOTH キー、NET キー、または USB キーを押す。



2 PRESET キーを押し、聴きたいコンテンツを選ぶ。



選択したコンテンツが再生されます。

お知らせ

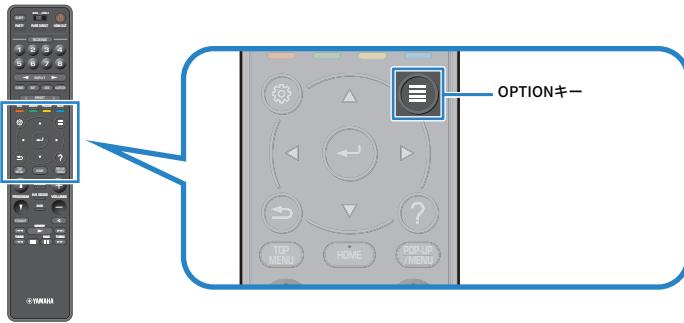
- ショートカットが 1 つも登録されていない場合は、本体前面ディスプレイに「No Presets」と表示されます。
- 次の場合は、ショートカット番号を選択してもコンテンツを再生できません。
 - 登録時と異なる USB 機器を接続している。
 - メディアサーバー（パソコン/NAS）の電源が入っていない。またはネットワークに接続されていない。
 - 登録したインターネットラジオ局に一時的に接続できない。またはサービスが終了している。
 - 登録したコンテンツ（ファイル）が別のフォルダーに移動された。
 - Bluetooth 接続ができない。
- USB 機器またはメディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を登録した場合、本機は音楽ファイルのフォルダー内における相対的な位置を記憶します。そのため、フォルダー内の音楽ファイルを追加/削除すると、登録したコンテンツが呼び出されない場合があります。その場合は、コンテンツを登録し直してください。
- MusicCast CONTROLLER を使うと、登録したコンテンツ（曲名、ラジオ局名）の一覧表示や削除ができます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「MusicCast CONTROLLER について」（51 ページ）

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

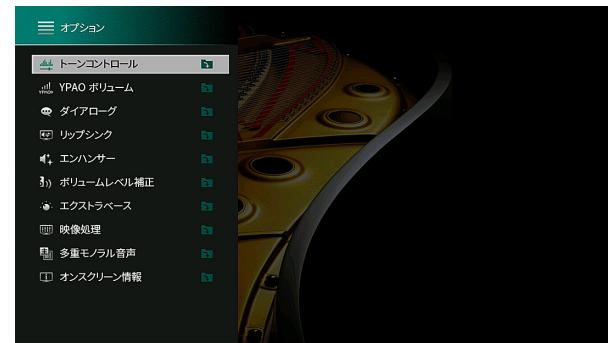
オプションメニューの基本操作

オプションメニューの基本的な操作方法を説明します。オプションメニューでは、再生中のソースにあわせて、本機の再生関連の機能を設定します。

- 1 リモコンの OPTION キーを押す。



本体前面ディスプレイ



テレビ画面

- 2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。
- 3 カーソルキーで設定値を選ぶ。
- 4 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

お知らせ

各メニューの初期値は、次をご覧ください。

- ・「オプションメニュー初期値一覧」（183 ページ）

オプションメニュー一覧

お知らせ

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- オプションメニュー画面の右上にインプットのアイコンが表示されている場合は、現在の入力に対する設定になります。インプットのアイコンが表示されない場合は、全入力共通の設定になります。
- カッコ内の表記は、本体前面ディスプレイの表示です。

項目	説明	ページ
トーンコントロール (Tone Control)	出力される音声の高音域音量と低音域音量を、それぞれ調整します。	88
YPAO ボリューム (YPAO Volume)	YPAO ボリュームを有効/無効にします。	88
ダイアローグ (Dialog)	音量に連動して、ダイナミックレンジ(最大音量と最小音量の差)を自動的に調節するか設定します。	89
セリフ音量調整 (Dialog Lvl)	中央に定位する音(セリフなど)の音量を調整します。	89
DTS ダイアログコントロール (DTS Dialog)	DTS:X コンテンツ再生時にセリフの音量を調整します。	89
セリフ位置調整 (Dialog Lift)	中央に定位する音の、高さの位置を調整します。	90
リップシンク (Lipsync)	リップシンク(Lipsync) 映像と音声のずれを調整します。	90
エンハンサー (Enhancer)	エンハンサー(Enhancer) ミュージックエンハンサーを有効/無効にします。	90
ボリュームレベル補正 (Volume Trim)	入力レベル補正(In.Trim) 入力間の音量差を補正します。	91
エクストラベース (Extra Bass)	サブウーファーレベル補正(SW.Trim) サブウーファーの音量を微調整します。	91
エクストラベース (Extra Bass)	エクストラベースを有効/無効にします。	91

項目	説明	ページ
映像処理 (Video Process.)	ビデオモード (V.M)	設定メニューで設定した映像の信号処理(解像度、アスペクト比)を有効/無効にします。
映像選択 (Video Out)	映像選択 (V.Out)	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。
多重モノラル音声 (Dual Mono)	多重モノラル音声 (Dual Mono)	多重音声入力時の出力音声を設定します。
シャッフル / リピート (Shuffle/Repeat)	シャッフル (Shuffle)	曲のシャッフル再生を設定します。
FM モード (FM Mode)	FM モード (Mode)	FM ラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を選択します。
プリセット (Preset)	FM オートプリセット (AUTO)	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。
プリセット消去 (CLEAR)	プリセット番号に登録されているラジオ局(プリセット局)の登録を解除します。	70
全プリセット消去 (CLEAR ALL)	全プリセット番号に登録されているすべてのラジオ局(プリセット局)の登録を解除します。	71
お気に入りに追加 (Add to Fav.)	お気に入りのインターネットラジオ局をお気に入りフォルダーに登録します。またはお気に入りフォルダーから削除します。	78
オンスクリーン情報 (On-screen Info)	現在のステータス情報をテレビ画面に表示します。	93

音声のトーンを調整する

出力される音声の高音域と低音域の音量を、それぞれ調整します。

オプションメニュー

「トーンコントロール」

選択項目

高音、低音

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

お知らせ

- 「高音」と「低音」の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス」と表示されます。
- 本体前面のキーでも調整できます。TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選び、PROGRAM キーで調整してください。
- 極端な設定にすると、音のつながりが悪くなる場合があります。

YPAO 測定結果をもとに音量を自動調節する

■ 音量に連動して低音域/高音域のバランスを自動調節する

YPAO ボリュームを有効/無効にします。有効にすると、音量に連動して低音域/高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。YPAO ボリュームは、YPAO 測定後に効果的に機能します。YPAO 測定については、次をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(44 ページ)

オプションメニュー

「YPAO ボリューム」> 「YPAO ボリューム」

設定値

オフ YPAO ボリュームを無効にする。

オン YPAO ボリュームを有効にする。

お知らせ

夜間などに小音量で聞く場合は、「YPAO ボリューム」と「アダプティブ DRC」の両方を有効にすることをおすすめします。「アダプティブ DRC」については、次をご覧ください。

- 「ダイナミックレンジを自動的に調節する」(89 ページ)

■ ダイナミックレンジを自動的に調節する

音量に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するか設定します。「オン」にすると、夜間に再生するときなど小音量でも聴きやすくなります。

オプションメニュー

「YPAO ボリューム」>「アダプティブ DRC」

設定値

オフ	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。
オン	ダイナミックレンジを自動的に調節する。

お知らせ

夜間などに小音量で聴く場合は、「YPAO ボリューム」と「アダプティブ DRC」の両方を有効にすることをおすすめします。「YPAO ボリューム」については次をご覧ください。

- 「音量に連動して低音域/高音域のバランスを自動調節する」(88 ページ)

中央に定位する音（セリフなど）を調整する

■ セリフの音量を調整する

セリフが聴こえにくい場合に、セリフの音量を調整します。

オプションメニュー

「ダイアローグ」>「セリフ音量調整」

設定値

0~3 (値が大きいほど強調)

お知らせ

次の場合、設定は無効です。

- Dolby Atmos コンテンツ、DTS:X コンテンツを再生時
- Dolby Surround デコーダー、Neural:X デコーダーを選択時

■ DTS:X 再生時にセリフの音量を調整する

DTS:X コンテンツの再生でセリフが聴こえにくい場合に、セリフの音量を調整します。

オプションメニュー

「ダイアローグ」>「DTS ダイアローグコントロール」

設定値

0~6 (値が大きいほど強調)

お知らせ

DTS ダイアローグコントロール対応の DTS:X コンテンツを再生している場合のみ設定できます。

■ セリフの位置（高さ）を調整する

セリフの聴こえる位置（高さ）が不自然な場合に、セリフの高さを調整します。

セリフが画面よりも低い位置から聴こえる場合は、設定値を大きくしてください。

お知らせ

次の場合に設定できます。

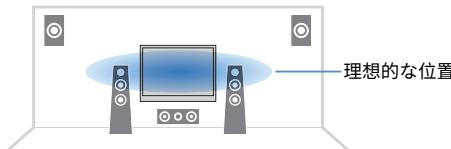
- プレゼンスピーカー使用時で、音場プログラム（「2ch ステレオ」、「7ch ステレオ」以外）が選択されている。
- バーチャル・プレゼンス・スピーカー（VPS）が機能している。（この場合、視聴位置によってはサラウンドスピーカーからセリフが聴こえることがあります。）バーチャル・プレゼンス・スピーカーについては、次をご覧ください。
-「ヤマハテクノロジーに関する用語」（170 ページ）

オプションメニュー

「ダイアローグ」>「セリフ位置調整」

設定値

0~5（値が大きいほど高い）



リップシンクの補正值を調整する

映像と音声の出力タイミングのずれの補正值（リップシンク）を手動で調整します。設定メニューの「ディレイ有効設定」で、入力ごとに「有効」に設定すると適用されます。

オプションメニュー

「リップシンク」>「リップシンク」

設定値

0ms～500ms（1ms 単位）

お知らせ

設定メニューの「ディレイ有効設定」については、次をご覧ください。

- 「リップシンク補正を設定する」（107 ページ）

ミュージックエンハンサーを設定する

ミュージックエンハンサーを使用するか設定します。

オプションメニュー

「エンハンサー」>「エンハンサー」

設定値

オフ ミュージックエンハンサーを無効にする。

オン ミュージックエンハンサーを有効にする。

お知らせ

- 入力ごとに個別に設定できます。
- ミュージックエンハンサーはリモコンの ENHANCER キーでも設定できます。
- ミュージックエンハンサーについては、次をご覧ください。
-「圧縮フォーマットを厚みのある音で楽しむ（ミュージックエンハンサー）」（56 ページ）

再生時の音量差を調整する

■ 入力間の音量差を調整する

入力間の音量差を補正します。入力切り替え時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って微調整してください。

オプションメニュー

「ボリュームレベル補正」>「入力レベル補正」

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

お知らせ

入力ごとに個別に設定できます。

■ サブウーファーの音量を調整する

サブウーファーの音量を微調整します。

オプションメニュー

「ボリュームレベル補正」>「サブウーファーレベル補正」

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

エクストラベースを設定する

低音を増強する場合にエクストラベースを設定します。「オン」にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定メニュー

「エクストラベース」>「エクストラベース」

設定値

オフ	エクストラベースを無効にする。
----	-----------------

オン	エクストラベースを有効にする。
----	-----------------

お知らせ

リモコンの BASS キーでも、エクストラベースを有効/無効にできます。

映像の信号処理を設定する

設定メニューの「ビデオモード」で設定した内容（解像度、アスペクト）を有効/無効にします。詳しくは次をご覧ください。

- ・「HDMI 映像信号の出力解像度を設定する」(118 ページ)
- ・「HDMI 映像信号の出力アスペクト比を設定する」(119 ページ)

オプションメニュー

「映像処理」>「ビデオモード」

設定値

ダイレクト	映像の信号処理を無効にする。
-------	----------------

信号処理	映像の信号処理を有効にする。
------	----------------

音声と同時に映像を出力する設定する

選択した入力の音声と同時に映像を出力する設定します。この設定を使うと、たとえば、ラジオを聴きながら他の入力の映像を表示できます。

オプションメニュー

「映像選択」>「映像選択」

設定可能な音声入力

AUX、AUDIO1～5、PHONO、TUNER、Spotify、radiko.jp、Deezer、AirPlay、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

設定値

オフ 映像を表示しない。

HDMI1～7、AV1～2 選択した入力の映像を表示する。

モノラル多重音声入力時の出力音声を設定する

地上デジタル/BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

オプションメニュー

「多重モノラル音声」>「多重モノラル音声」

設定値

主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。

主+副 PCM 信号の左右振り分けは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。

主音声 主音声をフロントスピーカーから出力する。

副音声 副音声をフロントスピーカーから出力する。

シャッフル/リピート再生を設定する

■ シャッフル再生を設定する

シャッフル再生を設定します。

オプションメニュー

「シャッフル / リピート」>「シャッフル」

設定値

オフ シャッフル再生を無効にする。

オン アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生する。

お知らせ

曲のシャッフル再生を設定できるのは、入力が USB、SERVER の場合のみになります。

■ リピート再生を設定する

リピート再生を設定します。

オプションメニュー

「シャッフル / リピート」>「リピート」

設定値

オフ リピート再生を無効にする。

1 曲 現在の曲を繰り返し再生する。

すべて アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。

お知らせ

曲のリピート再生を設定できるのは、入力が USB、SERVER の場合のみになります。

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を選択します。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル受信に切り替えると改善される場合があります。

オプションメニュー

「FM モード」>「FM モード」

設定値

ステレオ	FM ラジオをステレオで受信する。
モノラル	FM ラジオをモノラルで受信する。

テレビ画面でステータス情報を確認する

現在のステータス情報をテレビ画面の上下に表示します。

オプションメニュー

「オンスクリーン情報」

1 OPTION キーを押す。

2 カーソルキーで「オンスクリーン情報」を選び、ENTER キーを押す。

ステータス情報がテレビ画面に表示されます。



3 情報表示を終了するには、RETURN キーを押す。

お知らせ

カーソルの左右キーにて、設定メニューの各階層にある情報画面が表示されます。

設定する

機能設定を変更する（設定メニュー）

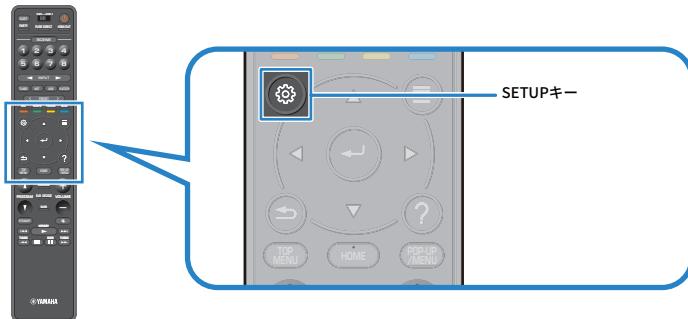
設定メニューの基本操作

設定メニューの基本的な操作方法を説明します。設定メニューでは、本機の詳細機能を設定します。

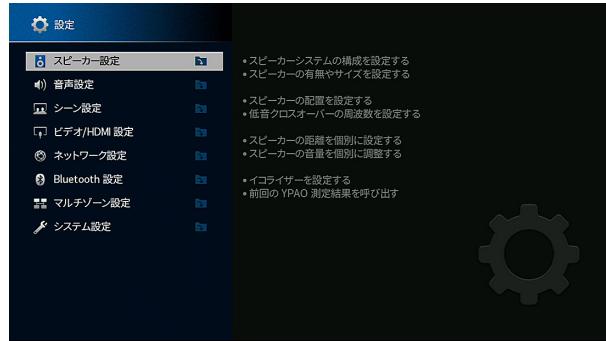
お知らせ

- 新しいファームウェアが利用可能な場合は、メッセージ画面が最初に表示されます。
- ネットワーク上に新しいファームウェアがある場合は、テレビ画面に封筒（✉）アイコンが表示されます。
- ファームウェアの更新については、次をご覧ください。
-「ファームウェアの更新について」（155 ページ）

1 リモコンの SETUP キーを押す。



2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

4 カーソルキーで設定値を選び、ENTER キーを押す。

5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

お知らせ

各メニューの初期値は、次をご覧ください。

- 「設定メニュー初期値一覧」（183 ページ）

設定メニュー一覧

メニュー	項目	説明	ページ	
スピーカー設定	パワー・アンプ割り当て	使用するスピーカーシステムを選択します。	100	
	構成	フロント	フロントスピーカーのサイズを選択します。	100
		センター	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	101
		サラウンド	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	101
		サラウンドバック	サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。	102
		フロントプレゼンス	プレゼンススピーカーの有無やサイズを選択します。	103
	サブウーファー		サブウーファーの有無を設定します。	104
	距離	スピーカーの距離を個別に設定します。	104	
	音量	スピーカーの音量を個別に設定します。	105	
	パラメトリックイコライザー	イコライザーを使って音色を調節します。	105	
テストトーン	テストトーン出力を有効/無効にします。	106		
YPAO 測定結果	前回の YPAO 測定結果を確認・呼び出します。	106		

メニュー	項目	説明	ページ
	情報	本機の音声信号情報を表示します。	107
	リップシンク		
	ディレイ有効設定	「自動/手動選択」で設定したリップシンクを有効/無効にします。	107
	自動/手動選択	映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	108
	調整	映像と音声のずれを手動で調整します。	108
	エフェクト量の加減	音場効果の強弱を調節します。	109
	ディレイ	直接音からプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節します。	109
	音場空間の大きさ	プレゼンス音場の広がり感を調節します。	110
	響きの強さ	プレゼンス音場の減衰量を調節します。	110
	残響時間	後部残響音の減衰時間を調節します。	110
	残響音の遅れ	直接音から後部残響音が生じるまでの時間を調節します。	110
	DSP パラメーター		
	残響音の強さ	後部残響音の余韻を調節します。	110
	サラウンド音場の遅れ	直接音からサラウンド音場が生じるまでの時間を調節します。	111
	サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節します。	111
	サラウンド音場の響き	サラウンド音場の減衰量を調節します。	111
音声設定	サラウンドバックの遅れ	直接音からサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節します。	111
	サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します。	111
	サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の減衰量を調節します。	111
	デコーダー選択	使用するサラウンドデコーダーを設定します。	112
	サラウンドデコーダー		
	センタースプレッド	2チャンネルソース再生時にセンターチャンネル音声を左右に振り分けるかどうかを設定します。	113
	センターイメージ	フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	113
	7ch ステレオ		
	レベル	「7ch ステレオ」の全体の音量を調節します。	113
	前後バランス	「7ch ステレオ」の前後の音量バランスを調節します。	113
	左右バランス	「7ch ステレオ」の左右の音量バランスを調節します。	113
	高さバランス	「7ch ステレオ」の上下方向の高さを調節します。	114
	モノラルミックス	「7ch ステレオ」の音声をモノラルにミックスします。	114
	ダイナミックレンジ	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	114
	ボリューム		
	音量の上限	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	114
	音量の初期値	電源を入れたときの音量を設定します。	115

メニュー	項目	説明	ページ	
音声設定	アダプティブ DSP レベル	音量の大きさに合わせて、音場プログラムのエフェクト量も自動的に調節するかどうかを設定します。	115	
	バーチャルスピーカー VSBS	サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー (VSBS) を創り出すかどうかを設定します。	115	
シーン設定	シーン設定	シーン機能の設定を変更します。	116	
	シーン名変更	本体前面ディスプレイやテレビ画面に表示するシーン名を変更します。	117	
ビデオ/HDMI 設定	情報	本機の HDMI 信号情報を表示します。	118	
	ビデオモード	ビデオモード	映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効/無効にします。	118
		解像度	出力する HDMI 映像信号の解像度を選択します。	118
		アスペクト	出力する HDMI 映像信号のアスペクト比（縦横比）を選択します。	119
	HDMI コントロール	HDMI コントロール	HDMI コントロールを有効/無効にします。	119
		TV 音声入力	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を設定します。	119
		ARC	ARC を有効/無効にします。	120
		スタンバイ連動	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	120
	HDMI 音声出力		HDMI の音声を TV スピーカーから出力するかどうかを設定します。	120
		HDCP バージョン	HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定します。	120
HDMI スタンバイスルー		本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された映像/音声をテレビに出力するかどうかを設定します。	121	
ネットワーク設定	情報	本機のネットワーク情報を表示します。	122	
	ネットワーク接続	ネットワークへの接続方法を設定します。	122	
	IP アドレス	ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。	122	
	ネットワークスタンバイ	ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効/無効にします。	123	
	MAC アドレスフィルター	フィルター	MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるようネットワーク機器を制限します。	124
		MAC アドレス	本機へのアクセスを許可するネットワーク機器の MAC アドレスを設定します。	124
DMC からの操作	デジタルメディアコントローラー (DMC) からの操作を有効/無効にします。	124		
AirPlay 音量連動	AirPlay 入力選択時に、本機と iTunes/iPhone の音量を連動させるかどうかを設定します。	125		
ネットワーク名	ネットワークに表示される本機の名称を設定します。	125		
MusicCast Link 電源連動	本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定します。	125		

メニュー	項目	説明	ページ	
Bluetooth 設定	Bluetooth	Bluetooth 機能を有効/無効にします。	126	
	音声受信	デバイス切断	Bluetooth 機器（スマートフォンなど）と本機との Bluetooth 接続を切断します。	72
		Bluetooth スタンバイ	Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能（Bluetooth スタンバイ）を有効にするかどうかを選択します。	126
		音声送信	Bluetooth の音声送信機能を有効/無効にします。	73
	音声送信	デバイス検索	本機の Bluetooth 音声送信機能が有効の場合、接続できる Bluetooth 機器（スピーカー／ヘッドホンなど）を検索します。	73
		情報	本機のマルチゾーン情報を表示します。	127
	マルチゾーン設定	音量	ゾーン 2 出力の音量調節を有効/無効にします。	127
		音量の上限	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 2 の音量の上限値を設定します。	127
		音量の初期値	ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	127
		音声の遅れ	ゾーン 2 の音声が出力されるタイミングを映像にあわせて調整します。	128
ゾーン 2 設定		モノラル再生	ゾーン 2 に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。	128
		エンハンサー	ゾーン 2 出力のミュージックエンハンサーを有効/無効にします。	128
		トーンコントロール	ゾーン 2 に出力する音声の高音域と低音域のバランスを調整します。	128
		エクストラベース	ゾーン 2 出力のエクストラベースを有効/無効にします。	128
		左右バランス	ゾーン 2 出力の音量バランスを調整します。	128
		ゾーン名変更	テレビ画面に表示されるゾーンの名称を変更します。	129
パーティーモード設定	対象：ゾーン 2	パーティーモードへの切り替えを有効/無効にします。	129	

メニュー	項目	説明	ページ	
システム設定	情報	本機のシステム情報を表示します。	130	
	言語設定	テレビ画面の表示言語を設定します。	130	
	音声入力	選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	131	
	入力スキップ	INPUT キーを操作した時にスキップする入力を設定します。	132	
	入力名変更	本体前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称を変更します。	132	
	自動再生	インターネットラジオなどの自動再生を有効/無効にします。	133	
	DSP スキップ	PROGRAM キーを操作した時にスキップする音場プログラムを設定します。	133	
	リモコンキー	PROGRAM キー	リモコンの PROGRAM キーの機能を設定します。	134
		カラーキー	リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE のキーに機能を設定します。	134
	表示設定	ディマー（前面ディスプレイ）	本体前面ディスプレイの明るさを調節します。	135
		音量	音量の表示方式を切り替えます。	135
		ショートメッセージ	本機を操作した際に、テレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。	135
	トリガー出力	壁紙設定	テレビ画面表示の背景画像を選択します。	135
		トリガーモード	トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。	135
		対象ゾーン	トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。	136
	エコ設定	自動スタンバイ	本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。	136
		エコモード	エコモード（消費電力の節約）を有効/無効にします。	137
	設定保護	設定を保護して、変更できないようにします。	137	
ファームウェアアップデート	ネットワークを利用してファームウェアを更新します。	137		

スピーカー設定

スピーカーシステムの構成を設定する

接続したスピーカーシステムに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「パワーアンプ割り当て」

設定値

Basic	標準的なスピーカーシステムを使う場合（ゾーン2スピーカーやバイアンプ接続を使わない場合）に選択する。
7.1 +1Zone	メインゾーンの7.1システムに加えて、ゾーン2スピーカーを使う場合に選択する。
5.1.2 +1Zone	メインゾーンの5.1.2システムに加えて、ゾーン2スピーカーを使う場合に選択する。
5.1 Bi-Amp	5.1システム（フロントをバイアンプ接続）を使う場合に選択する。

お知らせ

各スピーカーシステムの接続については、次をご覧ください。

- 「スピーカーシステムと接続するスピーカー」(22ページ)
- 「バイアンプ接続する」(33ページ)
- 「本機の内蔵アンプを使用してゾーン2スピーカーを接続する」(59ページ)

フロントスピーカーのサイズを設定する

接続したフロントスピーカーのサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「フロント」

設定値

小	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域（「クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーから出力されます。
大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。

お知らせ

- 使用するスピーカーのウーファー部口径が16cm以上の場合には「大」、16cm未満の場合は「小」を目安に設定してください。
- 設定メニューの「サブウーファー」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。設定メニューの「サブウーファー」については、次をご覧ください。
-「サブウーファーの有無を設定する」(104ページ)

センタースピーカーの有無やサイズを設定する

センタースピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「センター」

設定値

	センタースピーカーが小さい場合に選択する。
小	センターちゃんネルの低音域（「クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターちゃんネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターちゃんネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

お知らせ

サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が16cm以上の場合は「大」、16cm未満の場合は「小」を目安にしてください。

サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する

サラウンドスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サラウンド」

設定値

	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。
小	サラウンドちゃんネルの低音域（「クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドちゃんネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドちゃんネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。この場合、バーチャルシネマ DSP が機能します。

お知らせ

- サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が16cm以上の場合は「大」、16cm未満の場合は「小」を目安にしてください。
- バーチャルシネマ DSP については、次をご覧ください。
-「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）」
(53ページ)

サラウンドスピーカーの配置を設定する

サラウンドスピーカー使用時の配置を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サラウンド」>「配置」

設定値

後方	サラウンドスピーカーを部屋の後方に配置する場合に選択する。
前方	サラウンドスピーカーを部屋の前方に配置する場合に選択する。この場合、バーチャルシネマフロントが機能します。

お知らせ

- 設定メニューの「サラウンド」が「無」の場合は設定できません。詳しくは次をご覧ください。
-「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(101 ページ)
- バーチャルシネマフロントについては、次をご覧ください。
-「前に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ(バーチャルシネマフロント)」(53 ページ)

サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを設定する

サラウンドバックスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サラウンドバック」

設定値

小	サラウンドバックスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの低音域(「クロスオーバー」で周波数を設定可)は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	サラウンドバックスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの全帯域がサラウンドバックスピーカーから出力されます。
無	サラウンドバックスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの音声は、サラウンドスピーカーおよびサブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

お知らせ

- サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合には「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。
- サラウンドバックスピーカー使用時は、必ず左右 2 台のスピーカーを接続してください。サラウンドバックスピーカーは 1 台のみでは使用できません。

プレゼンスピーカーの有無やサイズを設定する

プレゼンスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「フロントプレゼンス」

設定値

小	プレゼンスピーカーが小さい場合に選択する。プレゼンチャネルの低音域（「クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	プレゼンスピーカーが大きい場合に選択する。プレゼンチャネルの全帯域がプレゼンスピーカーから出力されます。
無	スピーカーを接続しない場合に選択する。プレゼンチャネルの音声は、サラウンドスピーカーおよびサブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

お知らせ

サイズ選択では、使用的するスピーカーのウーファー部口径が16cm以上の場合は「大」、16cm未満の場合は「小」を目安にしてください。

プレゼンスピーカーの配置を設定する

接続したプレゼンスピーカーの配置に合わせて設定値を選択します。この設定は、音場効果の最適化に使用されます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「フロントプレゼンス」>「配置」

設定値

フロントハイ	プレゼンスピーカーが前方の壁に設置されている場合に選択する。
オーバーヘッド	プレゼンスピーカーが天井に設置されている場合に選択する。
ドルビイネーブルド SP	ドルビイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をプレゼンスピーカーとして使用する場合に選択する。

お知らせ

- 設定メニューの「フロントプレゼンス」が「無」の場合は設定できません。詳しくは次をご覧ください。
-「プレゼンスピーカーの有無やサイズを設定する」(103 ページ)
- プrezenスピーカー使用時の Dolby Atmos コンテンツの再生については、次をご覧ください。
-「プレゼンスピーカーの設置」(165 ページ)

低音クロスオーバーの周波数を設定する

スピーカーサイズを「小」に設定したスピーカーが出力できる低音域の周波数を、設定値から選択します。

設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>(スピーカー)>「クロスオーバー」

設定値

40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

お知らせ

サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

サブウーファーの有無を設定する

サブウーファーの接続状況に合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファー」

設定値

サブウーファーを接続している場合に選択する。

使用する
LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。

サブウーファーを接続しない場合に選択する。

使用しない
低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

サブウーファーの位相を設定する

接続したサブウーファーの位相に合わせて設定値を選択します。視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファー」>「位相」

設定値

正相 サブウーファーの位相を反転しない。

逆相 サブウーファーの位相を反転する。

お知らせ

設定メニューの「サブウーファー」が「使用しない」の場合は設定できません。詳しくは次をご覧ください。

- ・「サブウーファーの有無を設定する」(104 ページ)

スピーカーの距離を個別に設定する

各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように設定値を調節します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「距離」

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、サブウーファー

設定値

0.30m~24.00m (1.0ft~80.0ft)、0.05m (0.2ft) 単位

お知らせ

「単位」で「メートル」、「フィート」を切り替えられます。

スピーカーの音量を個別に調整する

各スピーカーの音が視聴位置で同じに聴こえるように設定値を調節します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「音量」

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、サブウーファー

設定値

-10.0dB～+10.0dB (0.5dB 単位)

お知らせ

テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「テストトーンを出力する」(106 ページ)

イコライザーを設定する

音色を調節する場合にイコライザーを設定します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「パラメトリックイコライザー」

設定値

手動編集	イコライザーを手動で調節する場合に選択する。
YPAO: フラット	各スピーカーの特性を均一に設定する。
YPAO: フロント近似	フロントスピーカーの特性に合わせて、各スピーカーの特性を設定する。
YPAO: ナチュラル	高域特性を下げた状態で揃えて、各スピーカーの音質を設定する。
使用しない	イコライザーを使用しない。

お知らせ

「YPAO: フラット」、「YPAO: フロント近似」、「YPAO: ナチュラル」を選択後、もう一度 ENTER キーを押すと調節の結果を確認できます。これらを選択する場合は、あらかじめ YPAO 測定を実行してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(44 ページ)

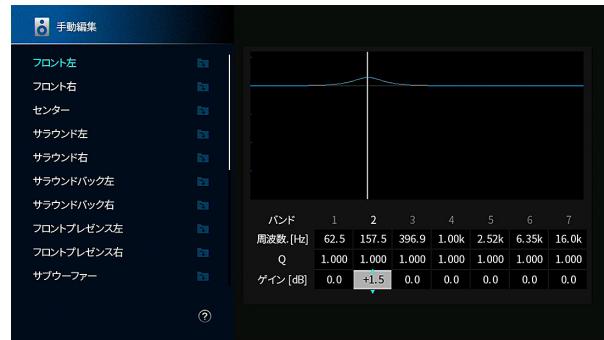
「手動編集」を選択した場合

- 「手動編集」を選び、ENTER キーを押す。
- もう一度 ENTER キーを押して、編集画面を表示する。
- カーソルキーでスピーカーを選び、ENTER キーを押す。

お知らせ

- すべてのスピーカーの設定を初期値に戻すには、「PEQ データクリア」で「OK」を選びます。
- 「PEQ データコピー」を使うと、「YPAO: フラット」、「YPAO: フロント近似」、「YPAO: ナチュラル」の値を、「手動編集」の編集画面にコピーできます。YPAO 測定の結果を微調整する場合にご利用ください。

- カーソルキーであらかじめ設定されている 7 つのバンド（サブウーファーは 4 つ）から調節したいバンドを選ぶ。



5 中心周波数や Q ファクター（バンド幅）、ゲイン（レベルの強さ）を微調整したい場合は、カーソルキーで項目を選び、次のように操作する。

周波数：カーソルキーで選択中の「バンド」の中心周波数を調節する。

Q：カーソルキーで選択中の「バンド」の Q ファクター（バンド幅）を調節する。

ゲイン：カーソルキーで選択中の「バンド」のゲイン（レベルの強さ）を調節する。

設定値

中心周波数：15.6Hz～16.0kHz（サブウーファーは 15.6Hz～250.0Hz）

Q ファクター：0.500～10.08

ゲイン：-20.0dB～+6.0dB（0.5dB 単位）

6 終了するには、SETUP キーを押す。

テストトーンを出力する

実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節する場合に、テストトーンを出力します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「テストトーン」

設定値

オフ テストトーンを出力しない。

オン テストトーンを出力する。

前回の YPAO 測定結果を呼び出す

手動調整したスピーカー設定が視聴に適合しない場合は、手動の設定値を破棄し、前回の YPAO 測定結果を呼び出して適用できます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「YPAO 測定結果」

1 カーソルキーで「測定の呼び出し」を選び、ENTER キーを押す。

2 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

音声設定

音声信号の情報を確認する

音声信号に関する情報が表示されます。

設定メニュー

「音声設定」>「情報」

信号方式	入力信号の音声フォーマット
入力 チャンネル	信号のチャンネル数（フロント/サラウンド/LFE）
	「5.1(3/2/0.1)」と表示されている場合、合計 5.1ch (フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE)
	サンプリング
サンプリング	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数（サンプリング周波数）
ダイアローグ	入力ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベル
出力 チャンネル	出力信号のチャンネル数（「5.1.2」と表示されている場合、従来の 5.1 チャンネルと上方のスピーカー用チャンネルが 2 チャンネル分）および音声を出力しているスピーカー端子

お知らせ

- 信号の種類により、一部の情報が表示されない場合があります。
- 本機側でビットストリーム信号をそのまま出力していても、再生機器側の仕様や設定により、信号が変換されている場合があります。

リップシンク補正を設定する

設定メニューの「自動/手動選択」で設定した補正值を使用するか設定します。

お知らせ

設定メニューの「自動/手動選択」については、次をご覧ください。

- 「リップシンクの調整方法を設定する」(108 ページ)

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「ディレイ有効設定」

設定値

無効	リップシンクによる補正を無効にする。
有効	リップシンクによる補正を有効にする。

お知らせ

入力ごとに個別に設定できます。

リップシンクの調整方法を設定する

映像と音声の出力タイミングのずれを補正（リップシンク）する方法を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「自動/手動選択」

設定値

手動補正 映像と音声のずれを手動で調整する。

「調整」で入力した値が補正值として適用されます。

自動補正 映像と音声のずれを自動で調整する。自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効です。

必要に応じて、「調整」で補正時間を微調整できます。

お知らせ

「調整」で、入力ごとに補正值を適応するか設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「リップシンクの補正值を調整する」（108 ページ）

リップシンクの補正值を調整する

映像と音声の出力タイミングのずれの補正值（リップシンク）を調整します。設定メニューの「自動/手動選択」で「自動補正」に設定したときは、自動補正された値をさらに微調整できます。

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「調整」

設定値

0ms～500ms（1ms 単位）

音場プログラムを選択する

音場プログラムの設定を変更するために、音場プログラムを選択します。

お知らせ

音場プログラムは PROGRAM キーで選択できます。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」

MUSIC

ミュンヘン 内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。

ウィーン 約 1700 席のウィーンの伝統的シーボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。

チェンバー 宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。

セラークラブ 天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。

ロキシーシアター ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。

ボトムライン かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

■ MOVIE

スポーツ

スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。

アクションゲーム

カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。

ロールプレイングゲーム

RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

ミュージックビデオ

ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

スタンダード

マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。

スペクタクル

壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネマコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。

サイファイ

最新SFX映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。

アドベンチャー

アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。

ドラマ

シリーズなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音やBGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。

モノムービー

往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。広がりと適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。

音場プログラムの効果量を調節する

音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「エフェクト量の加減」

設定値

-6dB～+3dB (1dB 単位)

直接音が再生されてからプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節する

直接音からプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節します。プレゼンス音場は前方に生成されます。値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>（音場プログラム）>「ディレイ」

設定値

1ms～99ms

プレゼンス音場の広がり感を調節する

プレゼンス音場の広がり感を調節します。プレゼンス音場は前方に生成されます。値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「音場空間の大きさ」

設定値

0.1~2.0

プレゼンス音場の減衰量を調節する

プレゼンス音場の減衰量を調節します。プレゼンス音場は前方に生成されます。値を大きくすると残響音の余韻が強くなり、小さくすると弱くなります。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「響きの強さ」

設定値

0~10

残響の余韻の長さを調節する

残響音の減衰時間を調節します。値を大きくすると残響音が豊かになり、小さくするとすっきりとします。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「残響時間」

設定値

1.0s~5.0s

直接音が再生されてから残響音が生じるまでの時間を調節する

直接音から残響音が生じるまでの時間を調節します。値を大きくすると残響音の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「残響音の遅れ」

設定値

0ms~250ms

残響の余韻の強さを調節する

残響音の余韻の強さを調節します。値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「残響音の強さ」

設定値

0%~100%

直接音が再生されてからサラウンド音場が生じるまでの時間を調節する

直接音からサラウンド音場が生じるまでの時間を調節します。サラウンド音場は後方左右に生成されます。値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くになります。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「サラウンド音場の遅れ」

設定値

1ms～49ms

サラウンド音場の広がり感を調節する

サラウンド音場の広がり感を調節します。サラウンド音場は後方左右に生成されます。値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「サラウンド音場の広さ」

設定値

0.1～2.0

サラウンド音場の減衰量を調節する

サラウンド音場の減衰量を調節します。サラウンド音場は後方左右に生成されます。値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「サラウンド音場の響き」

設定値

0～10

直接音が再生されてからサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節する

直接音からサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節します。サラウンドバック音場は後方に生成されます。値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くになります。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「サラウンドバックの遅れ」

設定値

1ms～49ms

サラウンドバック音場の広がり感を調節する

サラウンドバック音場の広がり感を調節します。サラウンドバック音場は後方に生成されます。値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「サラウンドバックの広さ」

設定値

0.1～2.0

サラウンドバック音場の減衰量を調節する

サラウンドバック音場の減衰量を調節します。サラウンドバック音場は後方に生成されます。値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>(音場プログラム)>「サラウンドバックの響き」

設定値

0～10

サラウンドデコードで使用するデコーダーを選択する

使用するサラウンドデコーダーを設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「サラウンドデコーダー」>「設定値」

設定値

自動	入力ソースに合わせて自動的にサラウンドデコーダーが選択されます。入力ソースが DTS 信号の場合は DTS Neural:X デコーダー、それ以外の信号では Dolby Surround デコーダーが選択されます。
Dolby Surround	Dolby Surround デコーダーです。設置されているスピーカー配置に最適な拡張を行います。特に、オブジェクトベースの音声信号（Dolby Atmos コンテンツなど）を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
Neural:X	DTS Neural:X デコーダーです。設置されているスピーカー配置に最適な拡張を行います。特に、オブジェクトベースの音声信号（DTS:X コンテンツなど）を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
Neo:6 Cinema	DTS Neo:6 デコーダー（または DTS-ES Matrix デコーダー）です。映画鑑賞に適しています。サラウンドスピーカー/サウンドバックスピーカーからも音が出力されます。
Neo:6 Music	DTS Neo:6 デコーダー（または DTS-ES Matrix デコーダー）です。音楽鑑賞に適しています。サラウンドスピーカー/サウンドバックスピーカーからも音が出力されます。

お知らせ

- 各サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。
 - 「音声デコードフォーマットに関する用語」（167 ページ）
- 各サラウンドデコーダーに関する設定は、設定メニューの「サラウンドデコーダー」で変更できます。詳しくは次をご覧ください。
 - 「センタースプレッドを設定する」（113 ページ）
 - 「センター定位の強さ（広がり感）を調節する」（113 ページ）
- 一部の入力ソースでは、選択したサラウンドデコーダーが機能しない場合があります。
- ネットワークストリーミングが Dolby コンテンツの場合には、「Dolby Dsur」を選択することをお勧めいたします。
- Dolby Digital Plus および Dolby TrueHD 信号に対して「Neural:X」を動作させることはできません。この場合には、「自動」または「Dolby Dsur」を選択してください。
- Dolby Surround デコーダーまたは Neural:X デコーダー選択時は、次のバーチャル処理は動作しません。
 - 「前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ（バーチャルシネマ フロント）」（53 ページ）
 - 「サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）」（53 ページ）

センタースプレッドを設定する

サラウンドデコーダーとして「Dsur」を選択した場合に、2チャンネルソース再生でセンターチャンネル音声を左右に振り分けるか設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「サラウンドデコーダー」>「センタースプレッド」

設定値

オフ	センタースプレッドを無効にする。
オン	センタースプレッドを有効にする。

お知らせ

- センターからの音声を強く感じる場合は、「オン」に設定してください。
- サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。
-「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」
(54 ページ)

センター定位の強さ（広がり感）を調節する

サラウンドデコーダーとして「Neo:6 Music」を選択した場合に、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

設定メニュー

「音声設定」>「サラウンドデコーダー」>「センターイメージ」

設定値

0.0~1.0

お知らせ

- サラウンドデコーダーについては、次をご覧ください。
- 「音場効果をかけずにマルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）」
(54 ページ)

全体の音量を調節する

全体の音量を調節します。この設定は「7ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定メニュー

「音声設定」>「7ch ステレオ」>「レベル」

設定値

-5~+5

前後の音量バランスを調節する

前後の音量バランスを調節します。値が大きいほど前方の音量が大きくなり、値が小さいほど後方の音量が大きくなります。この設定は「7ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定メニュー

「音声設定」>「7ch ステレオ」>「前後バランス」

設定値

-5~+5

左右の音量バランスを調節する

左右の音量バランスを調節します。値が大きいほど右方向の音量が大きくなり、値が小さいほど左方向の音量が大きくなります。この設定は「7ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定メニュー

「音声設定」>「7ch ステレオ」>「左右バランス」

設定値

-5~+5

プレゼンスピーカー使用時に音声の高さバランスを調節する

プレゼンスピーカーを使用する場合、音声の上下方向の高さを調節します。値が大きいほど音声の位置が上になり、値が小さいほど音声の位置が下になります。この設定は「7ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定メニュー

「音声設定」>「7ch ステレオ」>「高さバランス」

設定値

0~10

お知らせ

「高さバランス」を「0」に設定すると、プレゼンスピーカーは消音します。

モノラルミックスを設定する

音声をモノラルにミックスします。この設定は「7ch ステレオ」を選択した場合に機能します。

設定メニュー

「音声設定」>「7ch ステレオ」>「モノラルミックス」

設定値

オフ 音声をモノラルミックスして出力しない。

オン 音声をモノラルミックスして出力する。

ダイナミックレンジの調節方法を設定する

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）の調節方法を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「ダイナミックレンジ」

設定値

最大	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。
最小/自動	Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

音量の上限を設定する

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「ボリューム」>「音量の上限」

設定値

-60.0dB～+15.0dB (5.0dB 単位)、+16.5dB [20.5～95.5 (5.0 単位)、97.0]

お知らせ

音量表示の単位 (dB/数値) の切り替えについては次をご覧ください。

- ・「音量表示の単位を設定する」(135 ページ)

電源を入れたときの音量を設定する

電源を入れたときの音量を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「ボリューム」>「音量の初期値」

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
ミュート	消音を適用する。
-80.0dB ~	
+16.5dB	
オン	指定した音量を適用する。 (0.5dB 単位) (「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効) [0.5~97.0 (0.5 単位)]

お知らせ

音量表示の単位 (dB/数値) の切り替えについては次をご覧ください。

- 「音量表示の単位を設定する」(135 ページ)

音場プログラムのエフェクト量を自動調節する

音場プログラムのエフェクト量を自動的に調節するかどうかを設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「アダプティブ DSP レベル」

設定値

オフ	自動的に調節しない。
オン	YPAO の測定結果と音量調節に応じて自動的に調節する。

バーチャルサラウンドバックスピーカー (VSBS) を設定する

サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー (VSBS) を創り出すかどうかを設定します。VSBS を有効にすると、サラウンドバックスピーカーが接続されていない場合でも、本機はサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出します。

設定メニュー

「音声設定」>「バーチャルスピーカー」>「VSBS」

設定値

オフ	バーチャルサラウンドバックスピーカー (VSBS) を無効にする。
オン	バーチャルサラウンドバックスピーカー (VSBS) を有効にする。

お知らせ

- VSBS は 6.1ch/7.1ch ソースの再生時のみ効果があります。
- VSBS はシネマ DSP 3D と同時に動作するため、ストレートデコードやピュアダイレクトを選択すると VSBS は機能しません。

シーン設定

シーン機能で呼び出す項目を設定する

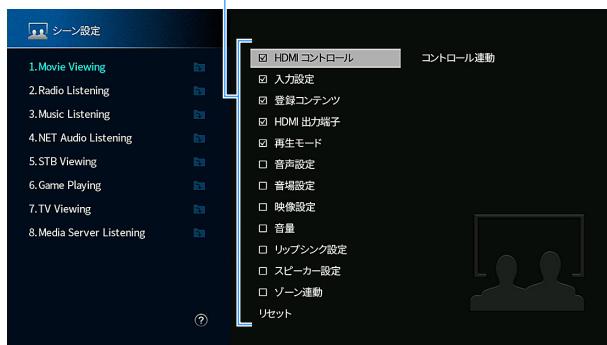
シーンで呼び出す設定項目を選択します。また、各シーンに現在登録されている内容を確認できます。

設定メニュー

「シーン設定」 > 「シーン設定」

- 1 カーソルキーでシーン名を選び、ENTER キーを押す。
- 2 設定項目を追加するには、カーソルキーで項目を選び、ENTER キーを押してチェックボックスにチェックを入れます。

チェックを入れる/外す



選択項目

HDMI コントロール	コントロール運動
入力設定	入力 (64 ページ) [入力が TUNER、Spotify、radiko.jp、Deezer、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB の場合]
登録コンテンツ	放送局、音楽コンテンツ [入力が上記以外の場合] ---
HDMI 出力端子	出力端子 (64 ページ)
再生モード	DSP プログラム (52 ページ)、エンハンサー (90 ページ) トーンコントロール (88 ページ)、YPAO ボリューム (88 ページ)、アダプティブ DRC (89 ページ)、エクストラベース (91 ページ)
音声設定	シネマ DSP 3D モード、セリフ位置調整 (90 ページ)、セリフ音量調整 (89 ページ)、サブウーファーレベル補正 (91 ページ)
音場設定	映像設定 ビデオモード (118 ページ) 音量 マスター音量 (64 ページ)
リップシンク設定	リップシンク設定 (108 ページ)、ディレイ (108 ページ)
スピーカー設定	スピーカー設定 パラメトリックイコライザー (105 ページ)
ゾーン運動	ゾーン運動 電源 (62 ページ)、入力 (62 ページ)、音量 (127 ページ)

お知らせ

- 選択したシーンの設定を初期値に戻すには、「リセット」を選び、ENTER キーを押します。
- HDMI コントロールのコントロール運動を使用するには、HDMI コントロールを有効にする必要があります。詳しくは次をご覧ください。
-「HDMI コントロールを設定する」(119 ページ)

シーン名を変更する

前面ディスプレイやテレビ画面に表示するシーンの名称を変更します。

設定メニュー

「シーン設定」>「シーン名変更」

- 1 カーソルキーでシーン名を選び、ENTERキーを押して編集画面を開く。
- 2 カーソルキーとENTERキーで名称を変更し、「保存」を選んで確定する。



お知らせ

- 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。
- 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

- 3 カーソルキーで「OK」を選び、ENTERキーを押す。
- 4 SETUPキーを押す。

これで設定は完了です。

ビデオ/HDMI 設定

ビデオ/HDMI 信号の情報を確認する

映像信号および HDMI 信号に関する情報が表示されます。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「情報」

HDMI 信号	HDMI 信号の入出力の有無
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度
ビデオ解像度	テレビが対応している解像度

映像の信号処理を設定する

映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効/無効にします。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「ビデオモード」>「ビデオモード」

設定値

ダイレクト	映像の信号処理を無効にする。
信号処理	映像の信号処理を有効にする。 「解像度」と「アスペクト」の設定が適用されます。

お知らせ

- 「ダイレクト」に設定時は、映像信号出力の遅延を低減するため、各種の映像処理回路をバイパスして映像信号が伝送されます。
- 「信号処理」に設定し、解像度変換が行われているときは TV にショートメッセージが表示されません。

HDMI 映像信号の出力解像度を設定する

「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、出力する HDMI 映像信号の解像度を選択します。

お知らせ

「ビデオモード」については、次をご覧ください。

- 「映像の信号処理を設定する」(118 ページ)

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「ビデオモード」>「解像度」

設定値

変換しない	解像度を変換しない。
自動判別	出力先のテレビの解像度に自動的に合わせる。
480p、720p、 1080i、1080p、4K	指定した解像度に変換する。 (テレビが対応している解像度のみ選択可)

お知らせ

テレビが対応していない解像度で出力するには、アドバンストセットアップメニューの「MON.CHK」で「SKIP」を選んでから、解像度を設定してください（映像がテレビ画面に正しく表示されなくなる場合があります）。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI 映像出力の制限を解除する (MON.CHK)」(139 ページ)

HDMI 映像信号の出力アスペクト比を設定する

「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、出力する HDMI 映像信号のアスペクト比（縦横比）を選択します。

お知らせ

「ビデオモード」については、次をご覧ください。

- 「映像の信号処理を設定する」（118 ページ）

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「ビデオモード」>「アスペクト」

設定値

変換しない	アスペクト比を変換しない。
16:9 ノーマル	4:3 の映像の左右に黒い帯をつけて、16:9 のテレビに合わせる。

お知らせ

解像度が 480i、480p の映像信号を 720p、1080i、1080p または 2160p (4K) に変換時のみ有効です。

HDMI コントロールを設定する

HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を、本機と連動させるか設定します。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDMI コントロール」>「HDMI コントロール」

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
	HDMI コントロールを有効にする。
オン	「TV 音声入力」、「ARC」、「スタンバイ連動」の設定が適用されます。

お知らせ

HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を本機に接続後、連動設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI コントロールと連動機能」（173 ページ）

テレビからの音声を入力する端子を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を設定します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の音声入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDMI コントロール」>「TV 音声入力」

設定値

AV1～2、AUDIO1～5

お知らせ

ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。

ARC を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声を本機に接続したスピーカーから出力するか設定します。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDMI コントロール」>「ARC」

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン	ARC を有効にする。

お知らせ

通常は設定値を「オン」（初期値）から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

本機とテレビのスタンバイ連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるか設定します。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDMI コントロール」>「スタンバイ連動」

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
自動	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する

音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビのスピーカーから出力するか設定します。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDMI 音声出力」>「HDMI OUT1」/「HDMI OUT2」

設定値

オフ	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

お知らせ

「HDMI OUT1」は、設定メニューの「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定する

4K 映像を視聴するために、HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定します。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDCP バージョン」

対象の入力

HDMI1~7

設定値

自動	コンテンツに応じて HDCP のバージョンを自動設定する。
1.4	HDCP をバージョン 1.4 に固定する。

HDMI スタンバイスルーを設定する

本機がスタンバイ時に、HDMI 端子へ入力された音声/映像を HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するか設定します。

お知らせ

スタンバイスルー動作中は、音声/映像を入力する HDMI 端子（HDMI1～7）をリモコンで切り替えられます。切り替え時は、本体前面のスタンバイ表示が点滅します。

設定メニュー

「ビデオ/HDMI 設定」>「HDMI スタンバイスルー」

設定値

オフ	テレビに出力しない。
オン	テレビに出力する。「オフ」または「自動」設定時よりも電力を消費します。
自動	接続している機器の状態により、出力するか自動的に設定する。

お知らせ

- 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」の場合は、HDMI スタンバイスルーの「オフ」を選択できません。
- 設定メニューの「HDMI コントロール」について、詳しくは次をご覧ください。
-「HDMI コントロールを設定する」(119 ページ)

ネットワーク設定

ネットワーク情報を確認する

本機のネットワーク情報を表示します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「情報」

IP アドレス	本機の IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー (P)	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー (S)	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス
MAC アドレス (イーサネット)	MAC アドレス
MAC アドレス (Wi-Fi)	
ネットワーク名	ネットワーク名（ネットワーク上で使用する本機の名称）
MusicCast ネットワーク	MusicCast ネットワークへの登録状態
有線/無線	有線または無線の接続状態 (無線接続 [Wi-Fi] を使用時)
SSID	無線ネットワークの SSID

ネットワークへの接続方法（有線/無線）を設定する

本機のネットワークへの接続方法を設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク接続」

設定値

有線	市販のネットワークケーブルを使って、本機をネットワークに接続する。
無線 (Wi-Fi)	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を経由して、本機をネットワークに接続する。

お知らせ

ネットワークへの接続方法については、次をご覧ください。

- ・「ネットワーク接続するには」(39 ページ)

ネットワーク情報を自動設定する（DHCP 機能）

本機のネットワーク情報（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど）を、DHCP サーバーを使用して自動で設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「IP アドレス」>「DHCP」

設定値

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する。
オン	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報を自動で設定する。

ネットワーク情報を手動設定する

本機のネットワーク情報（IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど）を手動で設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「IP アドレス」

- 1 「DHCP」で「オフ」を選ぶ。
- 2 カーソルキーで「IP アドレス」を選び、ENTER キーを押す。
- 3 カーソルキーで設定したい項目を選び、ENTER キーを押す。

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー (P)	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー (S)	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

- 4 カーソルキーで変更したい位置を選び、数値を変更する。
- 5 数値を確定するために ENTER キーを押す。
- 6 別の項目を設定するには、手順 3~5 を繰り返す。
- 7 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

ネットワークスタンバイを設定する

ネットワーク機器から本機の電源を入れるか設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワークスタンバイ」

設定値

オフ	ネットワークスタンバイを無効にする。
オン	ネットワークスタンバイを有効にする。「オフ」に設定時よりも電力を消費します。
自動	ネットワークスタンバイを有効にする。(「ネットワーク接続」で「有線」が設定されている場合は、ネットワークケーブルが切断されると本機がパワーセーブモードに設定されます。)

お知らせ

「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にすると、「Bluetooth スタンバイ」の設定が無効になります。



本製品は、先進的な省電力設計によりネットワークスタンバイ時の消費電力 2W 以下を実現しています。

MAC アドレスフィルターを設定する

本機にアクセスできるネットワーク機器を、MAC アドレスにより制限する場合に MAC アドレスフィルターを設定します。

お知らせ

- MAC アドレスフィルターを設定しても、AirPlay や DMC からの操作は制限されません。
- 本機へのアクセスを許可するネットワーク機器は最大 10 個まで指定できます。詳しくは次をご覧ください。
-「MAC アドレスを設定する」(124 ページ)

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「MAC アドレスフィルター」>「フィルター」

設定値

オフ	MAC アドレスフィルターを無効にする。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にする。MAC アドレス番号で指定した MAC アドレスを持つネットワーク機器だけが本機にアクセスできるようになります。

MAC アドレスを設定する

本機へのアクセスを許可するネットワーク機器を、MAC アドレスで設定します。最大 10 個の MAC アドレスを指定できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「MAC アドレスフィルター」>「MAC アドレス」

- 1 カーソルキーで設定したい MAC アドレス番号を選び、ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキーで変更したい位置を選び、数値を変更する。
- 3 数値を確定するために ENTER キーを押す。
- 4 別の MAC アドレスを設定するには、手順 1~3 を繰り返す。
- 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

デジタルメディアコントローラーからの操作を設定する

Windows Media Player 12 などから本機を操作するか設定します。デジタルメディアコントローラー (DMC) とは、ネットワーク上で他の機器を制御できる機器のことです。この機能を有効にすると、本機と同じネットワーク上にある DMC から直接本機の再生を操作できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「DMC からの操作」

設定値

無効	DMC からの操作を無効にする。
有効	DMC からの操作を有効にする。

AirPlay で再生する機器と本機との音量連動を設定する

AirPlay 入力選択時に、本機と iTunes/iPhone の音量を連動させるか設定します。「オフ」以外に設定すると、iTunes/iPhone で本機の音量を調節できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「AirPlay 音量連動」

設定値

オフ	iTunes/iPhone からの音量操作を無効にする。
制限あり	Mute および -80dB ~ -20dB の範囲で iTunes/iPhone からの音量操作を有効にする。
制限なし	Mute および -80dB ~ +16.5dB の範囲で iTunes/iPhone からの音量操作を有効にする。

本機のネットワーク名を設定する

ネットワークに表示される本機の名称（ネットワーク名）を設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク名」

- 1 ENTER キーを押して編集画面を表示する。
- 2 カーソルキーと ENTER キーで名前を編集する。
- 3 カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。
- 4 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定する

MusicCast を使用している場合、本機（親機）の電源を入れたときに MusicCast 対応機器（子機）も連動して電源を入れるか設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「MusicCast Link 電源連動」

設定値

オフ	本機と MusicCast 対応機器の電源を連動しない。
オン	本機と MusicCast 対応機器の電源を連動する。

Bluetooth 設定

Bluetooth を設定する

Bluetooth 機能を使用するか設定します。

設定メニュー

「Bluetooth 設定」> 「Bluetooth」

設定値

オフ	Bluetooth 機能を無効にする。
オン	Bluetooth 機能を有効にする。

Bluetooth スタンバイを設定する

Bluetooth 機器から本機の電源操作をするか設定します。「オン」にすると、Bluetooth 機器で接続操作が行われたときに、自動的に本機の電源が入ります。

設定メニュー

「Bluetooth 設定」> 「音声受信」> 「Bluetooth スタンバイ」

設定値

オフ	Bluetooth スタンバイ機能を無効にする。
オン	Bluetooth スタンバイ機能を有効にする。「オフ」に設定時よりも電力を消費します。

お知らせ

設定メニューの「ネットワークスタンバイ」が「オフ」の場合は設定できません。詳しくは次をご覧ください。

- 「ネットワークスタンバイを設定する」(123 ページ)

マルチゾーン設定

ゾーン2の情報を確認する

ゾーン2に関する情報が表示されます。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「情報」

オン/オフ	ゾーン2の電源
入力	ゾーン2で再生中の入力
音量	ゾーン2の音量
トーンコントロール	ゾーン2のトーンコントロール（高音、低音の音量）

ゾーン2の音量調節を設定する

ゾーン2出力の音量調節を有効/無効にします。

音量調節機能を持つ外部アンプを使用する場合は、「固定」に設定してください。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「音量」

設定値

固定	ゾーン2出力の音量調節を無効にする。
可変	ゾーン2出力の音量調節を有効にする。

お知らせ

「パワーアンプ割り当て」が「7.1+1Zone」または「5.1.2+1Zone」の場合、「音量」は「可変」に設定されます。「パワーアンプ割り当て」については次をご覧ください。

- 「スピーカーシステムの構成を設定する」(100 ページ)

ゾーン2の音量の上限を設定する

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン2の音量の上限値を設定します。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「音量の上限」

設定値

-60.0dB～+10.0dB (5.0dB 単位) [20.5～90.5 (5.0 単位)]

お知らせ

「音量」が「可変」の場合のみ設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「ゾーン2の音量調節を設定する」(127 ページ)

ゾーン2の電源投入時の音量を設定する

ゾーン2の電源を入れたときの音量を設定します。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「音量の初期値」

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
ミュート	消音を適用する。
-80.0dB～ +10.0dB オン (0.5dB 単位) [0.5～90.5 (0.5 単位)]	指定した音量を適用する。 （「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効）

お知らせ

「音量」が「可変」の場合のみ設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「ゾーン2の音量調節を設定する」(127 ページ)

ゾーン2とメインゾーンとの時間差を調整する

メインゾーンとの時間差（音声の遅れ）を調整します。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「音声の遅れ」

設定値

0ms～100ms（1ms単位）

ゾーン2の音声をモノラルに変換する

ゾーン2に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「モノラル再生」

設定値

オフ モノラル信号に変換しない。

オン モノラル信号に変換する。

ゾーン2の音声にミュージックエンハンサーを設定する

ゾーン2出力のミュージックエンハンサーを有効/無効にします。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「エンハンサー」

設定値

オフ ミュージックエンハンサーを無効にする。

オン ミュージックエンハンサーを有効にする。

お知らせ

ミュージックエンハンサーはリモコンの ENHANCER キーでも設定できます。

ゾーン2の音声のトーンを調整する

ゾーン2に出力する音声の高音域と低音域のバランスを調整します。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「トーンコントロール」

設定値

自動	emainゾーンの音量に同期しながら高音域と低音域のバランスを自動的に調整する。
手動	高音域と低音域のバランスを手動で調整する（-6.0～+6.0dB、0.5dB 単位）。
バイパス	高音域と低音域のバランスを調整しない。

ゾーン2の音声にエクストラベースを設定する

ゾーン2出力のエクストラベースを有効/無効にします。有効にすると、スピーカーの大きさに関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「エクストラベース」

設定値

オフ エクストラベースを無効にする。

オン エクストラベースを有効にする。

ゾーン2の音声のバランスを調整する

ゾーン2出力の左右の音量バランスを調整します。値が小さいほど左側、値が大きいほど右側の音量が大きくなります。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン2設定」>「左右バランス」

設定値

-20～+20

ゾーン名を変更する

テレビ画面に表示されるゾーンの名称を変更します。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「ゾーン名変更」

- 1 カーソルキーで名称を変更したいゾーンを選び、ENTERキーを押す。

カーソルが編集画面に移動します。

- 2 カーソルキーとENTERキーで名称を変更する。



お知らせ

- ・入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。
- ・初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

- 3 カーソルキーで「保存」を選び、ENTERキーを押す。

- 4 終了するには、RETURNキーを押す。

ゾーン2のパーティーモード切り替えを設定する

パーティーモードへの切り替えを有効/無効にします。

設定メニュー

「マルチゾーン設定」>「パーティーモード設定」>「対象：ゾーン2」

設定値

無効	パーティーモードへの切り替えを無効にする。
有効	パーティーモードへの切り替えを有効にする。 リモコンのPARTYキーでパーティーモードを入/切できます。

お知らせ

- ・パーティーモードが有効の場合には、設定を変更できません。
- ・パーティーモードについては次をご覧ください。
-「すべての部屋で同じ音楽を聴く（パーティーモード）」(63 ページ)

システム設定

システム情報を確認する

本機のシステム情報が表示されます。

設定メニュー

「システム設定」>「情報」

リモート ID	本体側のリモコン ID 設定
TV フォーマット	本機のビデオ信号方式
スピーカー インピーダンス	本機のスピーカーインピーダンス設定
システム ID	システム認識番号
ファームウェア バージョン	本機にインストールされているファームウェアのバージョン

メニュー言語を設定する

テレビ画面に表示するメニュー（設定メニューなど）の言語を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「言語設定」

設定値

English	英語
日本語	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
русский	ロシア語
Italiano	イタリア語
中文	中国語

お知らせ

- ・本体前面ディスプレイは常に英語で表示されます。
- ・本体前面ディスプレイで表現できない文字は「_」表示に置き換わります。

映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を設定する

映像入力端子と音声入力端子の組み合わせを変更します。選択した入力の映像と他の端子の音声を組み合わせて再生できます。次の場合などにご利用ください。

- 映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する AV 機器を本機に接続する。

設定メニュー

「システム設定」>「音声入力」

設定可能な映像入力

HDMI1～7、AV1～2

設定値

AV1～2、AUDIO1～5

本機の映像/音声入力端子

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1～7	AUDIO1 AUDIO2
	同軸デジタル		AV1 AUDIO3
	アナログステレオ		AV2 AUDIO4～5
コンポーネントビデオ	光デジタル	AV1	AUDIO1 AUDIO2
	アナログステレオ		AV2 AUDIO4～5
コンポジットビデオ	光デジタル	AV2	AUDIO1 AUDIO2
	同軸デジタル		AV1 AUDIO3

設定例

例として、映像は AV1(COMPONENT VIDEO)、音声は AV2(AUDIO)端子に接続した場合の設定手順を説明します。

- INPUT キーで入力を「AV1」（映像を入力する端子）に切り替える。
- SETUP キーを押す。
- カーソルキーで「System」を選び、ENTER キーを押す。
- カーソルキーで「音声入力」を選び、ENTER キーを押す。
- カーソルキーで「AV1」を選び、そこで「AV2」（音声を入力する端子）を選ぶ。
- SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

入力スキップを設定する

INPUTキーを操作したときにスキップする入力を設定します。使用しない入力をスキップすることで、目的の入力を素早く選べます。

設定メニュー

「システム設定」>「入力スキップ」

対象の入力

HDMI1~7、AV1~2、AUX、AUDIO1~5、PHONO、TUNER、NET、Bluetooth、USB

設定値

オフ	スキップ設定しない。
オン	スキップ設定する。

お知らせ

「オン」に設定した入力は、AV CONTROLLERでは選択できなくなります。

本体前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、接続した外部機器に応じて、本機が自動的に名称を生成します。

設定メニュー

「システム設定」>「入力名変更」

対象の入力

HDMI1~7、AV1、AUDIO1~3

- 1 カーソルキーで名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキーで「自動」を選ぶ。
- 3 別の入力の名称を変更するには、手順1~2を繰り返す。
- 4 SETUPキーを押す。

これで設定は完了です。

お知らせ

外部機器の接続を外しても入力名は保持されます。初期値に戻すには、一度「手動」に切り替えてから「自動」に戻してください。

本体前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、手動で設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「入力名変更」

対象の入力

HDMI1~7、AV1~2、AUX、AUDIO1~5、PHONO、TUNER、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

1 カーソルキーで名称を変更する入力を選ぶ。

お知らせ

入力に「自動」が設定されている場合は、カーソルキーで「手動」に変更します。

2 ENTER キーを押す。

3 カーソルキーや ENTER キーを使って名称を編集する。

お知らせ

- 入力した内容を取り消すには、「クリア」を選択します。
- 「リセット」を選択した場合は、入力の名称の初期値が表示されます。

4 カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。

5 別の入力の名称を変更するには、手順 1~4 を繰り返す。

6 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

自動再生を設定する

インターネットのストリーミングサービスなどのコンテンツに対して、自動再生を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「自動再生」

対象の入力

(ネットワークサービス)、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

設定値

オフ	自動再生しない。
オン	常に最後に再生していたコンテンツの自動再生を開始する。
自動	電源をスタンバイにしたときに再生中だった場合のみ、そのコンテンツの自動再生を開始する。

お知らせ

- 「オン」、「自動」を選択できない入力があります。
- 入力やコンテンツによっては、自動再生しない場合があります。

PROGRAM キー操作でスキップする音場プログラムを設定する

PROGRAM キーを操作した時にスキップする音場プログラムを設定します。使用しない音場プログラムをスキップすることで、目的の音場プログラムを素早く選べます。

設定メニュー

「システム設定」>「DSP スキップ」

設定値

オフ	音場プログラムをスキップしない。
オン	音場プログラムをスキップする。

お知らせ

音場プログラムごとに個別に設定できます。

リモコンの PROGRAM キーの機能を設定する

リモコンの PROGRAM キーの機能を設定します。PROGRAM キーを、音場プログラムの選択以外に利用できます。

設定メニュー

「システム設定」>「リモコンキー」>「PROGRAM キー」

設定値

割り当て 1	音場プログラムやステレオ再生を選択する。 音場プログラムのムービー/ミュージックのみを選択する。
割り当て 2	PROGRAM キーの上キーを押すとムービーの中で切り替わり、下キーを押すとミュージックの中で切り替わります。
割り当て 3	ネットワーク入力を切り替える。
割り当て 4	ブラウズ画面のリストのページを切り替える。
割り当て 5	サブウーファーの音量を微調整する。
割り当て 6	中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整する。
割り当て 7	リピート/シャッフルを設定する。 PROGRAM キーの上キーを押すとリピート、下キーを押すとシャッフルの設定を切り替えます。
割り当て 8	本体前面ディスプレイ/テレビ画面に情報を表示する。 PROGRAM キーの上キーを押すと本体前面ディスプレイに情報を表示、下キーを押すとテレビ画面に情報を表示します。

お知らせ

ここで設定を変更しても、本体前面の PROGRAM キーの機能は変更されません。

リモコンのカラーキーの機能を設定する

リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの機能を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「リモコンキー」>「カラーキー」

設定値

初期値	HDMI で接続された AV 機器の機能にしたがう。 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」に設定されている場合に有効です。
TV コントロール	カラーキーに TV コントロールの機能を割り当てる。 RED: 終了（テレビ画面のメニューを閉じる） GREEN: 情報（解像度などテレビに関する情報を表示する） YELLOW: 放送（テレビ放送のタイプを切り替える） BLUE: 入力（テレビの入力を切り替える） 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」に設定されている場合に有効です。

お知らせ

- 「HDMI コントロール」については、次をご覧ください。
-「HDMI コントロールを設定する」(119 ページ)
- HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を本機に接続した場合、本機との連動設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。
-「HDMI コントロールと連動機能」(173 ページ)
- HDMI コントロールや連動機能を設定しても、正しく機能しない場合があります。

本体前面ディスプレイの明るさを設定する

本体前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定メニュー

「システム設定」>「表示設定」>「ディマー（前面ディスプレイ）」

設定値

-4～0（値が大きいほど明るい）

お知らせ

本機をエコモードに設定すると、ここで設定した明るさよりも暗くなることがあります。エコモードについては、次をご覧ください。

- ・「エコモードを設定する」（137 ページ）

音量表示の単位を設定する

音量表示の単位を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「表示設定」>「音量」

設定値

dB dB（デシベル）単位で表示する。

0-97 数値（0～97）で表示する。

テレビ画面のショートメッセージ機能を設定する

入力選択や音量調節など、本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「表示設定」>「ショートメッセージ」

設定値

オフ テレビ画面にショートメッセージを表示しない。

オン テレビ画面にショートメッセージを表示する。

テレビ画面の背景画像を設定する

テレビ画面表示の背景画像を選択します。

設定メニュー

「システム設定」>「表示設定」>「壁紙設定」

設定値

ピアノ 背景をピアノ画像に設定する。

グレー 背景をグレー（灰色）に設定する。

TRIGGER OUT 端子に接続した機器との連動を設定する

トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「トリガー出力」>「トリガーモード」

設定値

パワー 「対象ゾーン」で設定したゾーンの電源操作に連動して、電気信号を出力/停止する。

ソース 「対象ゾーン」で設定したゾーンの入力選択に連動して、電気信号を出力/停止する。

ソース 入力ごとに電気信号の出力/停止を設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- ・「トリガー機能による電気信号出力を入力ごとに設定する」（136 ページ）

手動 電気信号を手動で出力/停止する。詳しくは次をご覧ください。

- ・「電気信号出力を手動で制御する」（136 ページ）

トリガー機能による電気信号出力を入力ごとに設定する

「トリガーモード」を「ソース」に設定時、入力ごとに電気信号の出力/停止を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「トリガー出力」>「トリガーモード」>「ソース」

選択項目

HDMI1～7、AV1～2、AUX、AUDIO1～5、PHONO、TUNER、Spotify、radiko.jp、Deezer、AirPlay、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

設定値

ロー	該当する入力を選んだときに電気信号の出力を停止する。
ハイ	該当する入力を選んだときに電気信号を出力する。

電気信号出力を手動で制御する

「トリガーモード」を「手動」に設定時、電気信号を手動で出力/停止します。トリガー機能が正しく動作するか確認する際にご利用ください。

設定メニュー

「システム設定」>「トリガー出力」>「トリガーモード」>「手動」

選択項目

ロー	電気信号の出力を停止する。
ハイ	12V の電気信号を出力する。

トリガー機能により連動するゾーンを設定する

「トリガーモード」を「パワー」または「ソース」に設定時、トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「トリガー出力」>「対象ゾーン」

設定値

メイン	メインゾーンの動作に連動して電気信号を出力する。
ゾーン 2	ゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。
全ゾーン	メインゾーンやゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。

自動スタンバイまでの時間を設定する

本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。

設定メニュー

「システム設定」>「エコ設定」>「自動スタンバイ」

設定値

オフ	電源を自動的にスタンバイにしない。
5 分、20 分	本機を指定時間操作しなかったとき、かつ本機が指定時間入力信号を検知しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2 時間、4 時間、8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。

お知らせ

スタンバイになる直前、本体前面ディスプレイに「AutoPowerStdby」と、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。

エコモードを設定する

消費電力を低減する場合にエコモードを設定します。「オン」に設定した場合は、ENTERキーを押して必ず本機を再起動してください。新しい設定は、再起動後に反映されます。

設定メニュー

「システム設定」>「エコ設定」>「エコモード」

設定値

オフ	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。

お知らせ

- 「オン」に設定時は、本体前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。
- 大きな音量で再生する場合は「オフ」に設定してください。

設定を保護する

本機の設定を保護して、変更できないようにします。

設定メニュー

「システム設定」>「設定保護」

設定値

オフ	設定を保護しない。
オン	設定を保護する。「オフ」に戻すまで、設定変更が禁止されます。

お知らせ

「オン」に設定時は、メニュー画面に設定保護（）アイコンが表示されます。

ファームウェアを更新する

本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。また、現在のファームウェアバージョンやシステムIDを確認できます。

設定メニュー

「システム設定」>「ファームウェアアップデート」

選択項目

ファームウェアアップデーター	ファームウェア更新を実行する。
USB アップデート	USB を使ったアドバンストセットアップメニューからのアップデート方法を表示する。

お知らせ

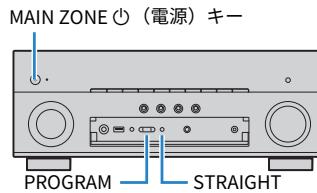
- ファームウェア更新の準備が整うまで、「ファームウェアアップデート」は選択できません。
- ファームウェア更新の所要時間は約 20 分です。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、接続状態によってはファームウェアの更新に失敗することがあります。そのような場合は、時間をおいてアップデートをお試しいただくか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。USB メモリーを使ったファームウェアの更新について、詳しくは次をご覧ください。
-「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(142 ページ)

アドバンスト設定を変更する（アドバンストセットアップメニュー）

アドバンストセットアップメニューの基本操作

本体前面ディスプレイを使ったアドバンストセットアップメニューの基本的な操作方法を説明します。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。
- 2 本体の STRAIGHT キーを押しながら ⓧ（電源）キーを押す。



アドバンストセットアップメニューの先頭の設定項目とその設定値が、本体前面ディスプレイに表示されます。

- 3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。

REMOTE ID... ID1

- 4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。

- 5 ⓧ（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

これで設定は完了です。

お知らせ

各メニューの初期値は、次をご覧ください。

▪「アドバンストセットアップメニュー初期値一覧」(186 ページ)

アドバンストセットアップメニュー一覧

項目	説明	ページ
SP IMP.	本機のスピーカーインピーダンス設定を変更します。	138
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	139
TV FORMAT	HDMI 映像出力のビデオ信号方式を切り替えます。	139
MON.CHK	HDMI 映像出力の制限を解除します。	139
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	140
DTS MODE	本機と接続した BD プレーヤーに対して、本機が対応している DTS フォーマットの通知を設定します。	140
BKUP/RSTR	本機の設定を保存し、また保存した設定を復元します。	141
INIT	各種設定を初期化します。	142
UPDATE	ファームウェアを更新します。	142
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	142

スピーカーインピーダンス設定を変更する（SP IMP.）

接続するスピーカーのインピーダンスにあわせて、本機のスピーカーインピーダンス設定を変更します。

アドバンストセットアップメニュー

「SP IMP.」

設定値

6ΩMIN	いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合に選択する。この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。
8ΩMIN	8Ω 以上のスピーカーを接続する場合に選択する。

リモコン ID を設定する (REMOTE ID)

本体側のリモコン ID を、リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するように設定します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようしてください。

アドバンストセットアップメニュー

「REMOTE ID」

設定値

ID1、ID2

リモコン側のリモコン ID 設定

- リモコンを ID1 に設定するには、カーソルの左キーを押しながら SCENE1 キーを 5 秒間押し続けます。
- リモコンを ID2 に設定するには、カーソルの左キーを押しながら SCENE2 キーを 5 秒間押し続けます。

お知らせ

本体とリモコンの ID が一致していないと、リモコン操作時に本体前面パネルに「RemID Mismatch」が表示されます。

ビデオ信号方式を設定する (TV FORMAT)

お使いのテレビにあわせて、本機の HDMI OUT 端子から出力されるビデオ信号方式を設定します。本機はテレビにあったビデオ信号方式を自動的に選択して出力するため、通常は変更する必要はありません。テレビの映像が乱れる場合のみ変更してください。

アドバンストセットアップメニュー

「TV FORMAT」

設定値

NTSC、PAL

HDMI 映像出力の制限を解除する (MON.CHK)

本機は、HDMI OUT 端子に接続したテレビが対応している解像度を自動的に判別します（モニターチェック機能）。本機の判別に関わらず設定メニューの「解像度」で出力する解像度を指定したい場合や、テレビの解像度を本機が判別できない場合は、モニターチェックを無効にしてください。

アドバンストセットアップメニュー

「MON.CHK」

設定値

YES	モニターチェックを有効にする。 (テレビが対応している解像度の映像のみ出力)
SKIP	モニターチェックを無効にする。 (テレビの対応に関わらず映像を出力)

お知らせ

- 設定メニューの「解像度」については、次をご覧ください。
-「HDMI 映像信号の出力解像度を設定する」(118 ページ)
- 「SKIP」に設定後、本機の映像がテレビ画面に正しく表示されずに本機を操作できない場合は、「YES」に戻してください。

HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)

HDMI 4K 対応のテレビおよび AV 機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

アドバンストセットアップメニュー

「4K MODE」

設定値

次表に記載の 4K 信号を入出力する。

MODE 1 接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「MODE 2」に設定してください。

MODE 2 次表に記載の 4K 信号を入出力する。

お知らせ

「MODE 1」に設定した場合は、プレミアム ハイスピード HDMI ケーブルまたはイーサネット対応プレミアム ハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。

フォーマット

		MODE 1			MODE 2		
		8 bit	10 bit	12 bit	8 bit	10 bit	12 bit
4K/60, 50 Hz	RGB 4:4:4	✓	-	-	-	-	-
	YCbCr 4:4:4	✓	-	-	-	-	-
	YCbCr 4:2:2	✓	-	-	-	-	-
	YCbCr 4:2:0	✓	✓	-	-	-	-
4K/30, 25, 24 Hz	RGB 4:4:4	✓	✓	-	-	-	-
	YCbCr 4:4:4	✓	✓	-	-	-	-
	YCbCr 4:2:2	✓	-	✓	-	-	-

DTS フォーマットの通知を設定する (DTS MODE)

HDMI 接続した BD プレーヤーに対して、本機が対応する DTS フォーマットの通知を設定します。

アドバンストセットアップメニュー

「DTS MODE」

設定値

MODE 1 DTS:X 規格に準拠した通知に設定する。通常は、この設定で使用してください。

MODE 2 BD プレーヤーで DTS-HD、DTS:X コンテンツを再生しているにもかかわらず、DTS 信号が正しく出力されない場合に設定する。

設定を保存/復元する (BKUP/RSTR)

本機の各種設定を USB メモリーに保存し、また、保存した設定を復元します。あらかじめ FAT16/FAT32 フォーマットされた USB メモリーをご用意ください。

アドバンストセットアップメニュー

「BKUP/RSTR」

選択項目

BKUP	本機の各種設定を USB メモリーに保存する。
RSTR	保存されている設定を復元する。

- 1 USB メモリーを本体前面の USB 端子に接続する。
- 2 本体前面の STRAIGHT キーを押して「BKUP」または「RSTR」を選び、INFO キーを押す。
- 3 確認メッセージが表示されたら、再度 INFO キーを押す。

お知らせ

操作をキャンセルするには STRAIGHT キーを押します。

- 4 本体前面ディスプレイに「Please Power Off!」と表示されたら、○(電源) キーで本機の電源を入れ直す。
「Faild」と表示された場合は、次をご確認の上、再度実行してください。

「BKUP」の場合：

- ・上書き保存はできません。繰り返し保存する場合は、設定ファイルを別のフォルダなどに移動してください。
- ・設定ファイルは USB メモリーのルートに、「MC_backup_(モデル名).dat」というファイル名で保存されます。

「RSTR」の場合：

- ・設定ファイルが USB メモリーのルートに保存されているか、ご確認ください。

お知らせ

- ・「RSTR」(設定の読み込み) は設定が保存されている場合のみ有効です。
- ・「BKUP」/「RSTR」中は本機の電源を操作しないでください。正しく設定が反映されないことがあります。
- ・ユーザー情報（アカウント、パスワードなど）は保存されません。

設定を初期化する (INIT)

本機の各種設定を初期化します。

アドバンストセットアップメニュー

「INIT」

選択項目

VIDEO 映像に関する設定を初期化する。

ALL すべての設定を初期化する。

CANCEL 初期化しない。

ファームウェアバージョンを確認する (VERSION)

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

アドバンストセットアップメニュー

「VERSION」

ファームウェアを更新する (UPDATE)

本機のファームウェアを更新します。

本機への機能追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアは更新されることがあります。最新のファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

アドバンストセットアップメニュー

「UPDATE」

選択項目

USB USB メモリーを使ってファームウェアを更新する。

NETWORK ネットワーク経由でファームウェアを更新する。

お知らせ

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前には、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

困ったときは

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら最初にご確認ください

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、最初に次の項目をご確認ください。

- ・本機、テレビ、AV 機器（BD/DVD プレーヤーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- ・本機、サブウーファー、テレビ、AV 機器（BD/DVD プレーヤーなど）の電源が入っている。
- ・各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源や配線に問題がない場合は、症状に合わせて「故障かな？と思ったら」をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または「故障かな？と思ったら」のトラブル以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電源/システム/リモコンのトラブル

■ 電源が入らない

● 保護回路が 3 回続けて作動した。

電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅する場合は、製品保護のために電源が入らなくなっています。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。

■ テレビと連動して電源が入らない

● 本機の HDMI コントロールの設定が「オフ」になっている。

電源の入/切いずれも連動しない場合は、本機の「HDMI コントロール」が「オン」になっているか確認してください。詳しくは次をご覧ください。

-「HDMI コントロールを設定する」(119 ページ)

● テレビの HDMI コントロールの設定が「オフ」になっている。

電源のみが連動しない場合は、テレビ側の HDMI コントロールの設定が正しくない可能性があります。テレビの取扱説明書をご覧になり、HDMI コントロール機能を設定してください。

● 停電などにより連動しなくなった。

HDMI ケーブルと電源ケーブルを抜いて 5 分ほど放電し、再生機、アンプ、テレビの順でケーブルを接続しなおしてください。

■ 電源が切れない

● 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の  (電源) キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

■ 電源がすぐに切れてしまう

● スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れようとしている。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカーを接続する」(23 ページ)

■ 電源が自動的にスタンバイに切り替わる

●スリープタイマーが作動した。

もう一度電源を入れて、再生を始めてください。

●操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。

自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「自動スタンバイまでの時間を設定する」(136 ページ)

●スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカーを接続する」(23 ページ)

●音量を上げすぎたため、保護回路が作動した。

音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「エコモードを設定する」(137 ページ)

■ 本機が操作を受け付けない

●外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の（電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。

問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

■ リモコンで本機を操作できない

●操作範囲から外れている。

操作範囲内で操作してください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコンの操作範囲」(9 ページ)

●乾電池が消耗している。

新しい乾電池に交換してください。

●本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。

照明または本体の向きを変えてください。

●本体とリモコンの ID が一致していない。

本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコン ID を設定する（REMOTE ID）」(139 ページ)

●リモコンの操作対象がゾーン 2 になっている。

リモコンの MAIN/ZONE2 スイッチを MAIN に切り替えてください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコンの各部の名称と機能」(19 ページ)

■ INPUT キーを押しても目的の入力を選択できない

●入力をスキップする設定がされている。

設定メニューの「入力スキップ」で対象の入力を「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「入力スキップを設定する」(132 ページ)

■ リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーが動作しない

●HDMI 接続した機器が RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応していない。

RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応した機器をご使用ください。

●RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの設定を変更している。

設定メニューの「カラーキー」を「初期値」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「リモコンのカラーキーの機能を設定する」(134 ページ)

音声のトラブル

■ 音が出ない

● 別の入力が選択されている。

入力選択キーで正しい入力を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

-「再生の基本操作」(64 ページ)

● 本機で再生できない信号が入力されている。

一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。本機で再生可能な信号を確認してください。対応するファイルフォーマット、HDMI の音声フォーマット、対応デコードフォーマットについては、次をご覧ください。

-「対応しているファイルフォーマット」(171 ページ)

-「主な仕様」(178 ページ)

● ゾーン 2 の電源が切になっている。

MAIN/ZONE2 スイッチを ZONE 2 に切り替えて、ゾーン 2 の電源を入れてください。詳しくは次をご覧ください。

-「ゾーン 2 を操作する」(62 ページ)

● 本機と AV 機器を接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ 音量が上がらない

● 音量の上限値が低く設定されている。

設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください。詳しくは次をご覧ください。

-「音量の上限を設定する」(114 ページ)

● 本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。

該当機器すべての電源を入れてください。

■ 特定のスピーカーから音が出ない

● 再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。

設定メニューの「音声設定」で、入力信号のチャンネル数を確認できます。詳しくは次をご覧ください。

-「音声信号の情報を確認する」(107 ページ)

● 該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。

設定メニューの「テストトーン」で、スピーカーから音声が出力されるか確認できます。詳しくは次をご覧ください。

-「テストトーンを出力する」(106 ページ)

● 該当スピーカーの音声出力が無効になっている。

YPAO を実行するか、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(44 ページ)

-「サブウーファーの有無を設定する」(104 ページ)

-「フロントスピーカーのサイズを設定する」(100 ページ)

-「センタースピーカーの有無やサイズを設定する」(101 ページ)

-「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(101 ページ)

-「サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを設定する」
(102 ページ)

-「プレゼンスピーカーの有無やサイズを設定する」(103 ページ)

● 該当スピーカーの音量が極端に小さい。

YPAO を実行するか、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(44 ページ)

-「スピーカーの音量を個別に調整する」(105 ページ)

● 本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。

スピーカー側とアンプ側の各端子を確認のうえ、接続に問題なければ、ケーブルの断線が考えられます。別のケーブルに交換してください。

●該当スピーカーが故障している。

正常に機能している別のスピーカーと交換すると確認できます。交換したスピーカーから音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。

■サブウーファーから音が出ない

●再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。

確認するには、オプションメニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください。詳しくは次をご覧ください。

-「エクストラベースを設定する」(91 ページ)

●サブウーファーの出力が無効になっている。

YPAO を実行するか、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(44 ページ)

-「サブウーファーの有無を設定する」(104 ページ)

●サブウーファーの音量が極端に小さい。

サブウーファーの音量を調節してください。

●サブウーファーのオートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）が作動した。

サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。

■HDMI で接続した AV 機器の音が出ない

●テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

●HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。

使用していない HDMI 機器を取り外してください。

■HDMI コントロール使用時に、AV 機器の音声が本機から出ない

●テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。

テレビ音声が本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。

●入力としてテレビの音声が選択されている。

入力選択キーで正しい入力を選んでください。

■HDMI コントロール使用時に、テレビの音声が本機から出ない

●テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。

テレビ音声が本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。

●ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで接続している。

テレビ音声を光デジタルケーブルで接続してください。詳しくは次をご覧ください。

-「テレビを HDMI 接続する」(34 ページ)

●音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合に、「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。

設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください。詳しくは次をご覧ください。

-「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(119 ページ)

●ARC を使ってテレビ音声を入力する場合に、本機またはテレビの ARC が無効になっている。

設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください。

また、テレビ側で ARC を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。

-「ARC を設定する」(120 ページ)

■ マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない

● 音場プログラムとして「2ch ステレオ」を選択している。

「2ch ステレオ」以外の音場プログラムを選択してください。詳しくは次をご覧ください。
-「音場プログラムを選択する」(108 ページ)

■ 雑音が入る

● デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。

本機と該当機器の距離を離してください。

● 本機と AV 機器を接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ 音がひずむ

● 本機の音声出力端子に接続されている外部アンプなどの機器の電源が切れている。

該当機器すべての電源を入れてください。

● 音量が大きすぎる。

音量を下げてください。

また、設定メニューの「エコモード」が「オン」に設定されている場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「エコモードを設定する」(137 ページ)

映像のトラブル

■ 映像が出ない

● 本機で別の入力が選択されている。

入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。

● テレビで別の入力が選択されている。

テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。

● テレビが非対応の映像信号を出力している。

AV 機器の映像出力が適切に設定されているか確認してください。

● 本機、テレビ、AV 機器を接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ HDMI で接続した AV 機器の映像が出ない

● 本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。

入力中の映像信号（解像度）と、本機が対応している映像信号については、次をご覧ください。

-「ビデオ/HDMI 信号の情報を確認する」(118 ページ)

-「対応している HDMI 信号」(175 ページ)

● テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

● HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超っている。

使用していない HDMI 機器を取り外してください。

■ HDMI 接続した AV 機器からの映像（HDCP2.2/2.3 対応機器が必要なコンテンツ）が表示されない

● テレビ（HDMI 入力端子）が HDCP2.2/2.3 に対応していない。

HDCP2.2/2.3 対応のテレビ（HDMI 入力端子）に接続してください（テレビ画面に注意メッセージが表示される場合があります）。

■ 本機のメニューがテレビに表示されない

● テレビで別の入力が選択されている。

テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替えてください。

■ テレビを 2 台接続時に、映像が途切れる

● 一方のテレビの電源が切れている状態で、HDMI 出力端子が「HDMI OUT 1+2」に設定されている。

HDMI 出力端子を「HDMI OUT 1」または「HDMI OUT 2」に設定し、使用するテレビにのみ信号を出力してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI 出力端子を切り替える」（64 ページ）

FM/AM ラジオのトラブル

■ FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

● マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。

FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。

● ラジオ局から離れた地域で受信している。

オプションメニューの「FM モード」を「モノラル」に設定して、モノラル受信に切り替えてください。詳しくは次をご覧ください。

- 「FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する」
(93 ページ)

■ AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

● 蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。

環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減することができます。

■ FM/AM ラジオの自動選局ができない

● FM ラジオ局から離れた地域で受信している。

手動で選局してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」（68 ページ）

また、市販の屋外アンテナを使用してください。

● AM ラジオの電波が弱い。

AM アンテナの方向を変えてください。

手動で選局してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」（68 ページ）

また、市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA (AM) 端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。

■ AM ラジオ局を登録（プリセット）できない

● 自動登録（FM オートプリセット）を使用した。

FM オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは次をご覧ください。

- 「ラジオ局を手動で登録する」（70 ページ）

USB のトラブル

■ USB 機器が認識されない

● USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。

本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。

● FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。

FAT16/32 フォーマットの USB 機器を使用してください。

■ USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない

- 暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。

暗号化機能のない USB 機器を使用してください。

■ USB 機器のファイルを連続して再生できない

- 選択したフォルダーに、本機で再生できないファイルが含まれている。

再生するフォルダーには、本機で再生できないファイルを入れないでください。

ネットワークのトラブル

■ ネットワーク機能を使用できない

- ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。

ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください。詳しくは次をご覧ください。

-「ネットワーク情報を自動設定する（DHCP 機能）」（122 ページ）

DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください。詳しくは次をご覧ください。

-「ネットワーク情報を手動設定する」（123 ページ）

- IPv6 タイプのルーターと接続しようとしている。

本機は IPv6 のネットワークには対応していません。IPv4 のネットワークに接続してください。

■ 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）経由でインターネットに接続できない

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源が切れている。

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源を入れてください。

- 本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の距離が離れすぎている。

本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）を近づけてください。

- 本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある。

本機と無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の間の障害物を取り除いてください。

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が 14 チャンネルを使用する設定になっている。

1~13 チャンネルのいずれかを使用するよう、無線 LAN ルーターの設定を変更してください。

■ 無線ネットワークが見つからない

- 電子レンジや別の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。

それらの機器の電源を切るか、本機や無線 LAN ルーターから遠ざけてください。また、無線 LAN ルーターが 5GHz 周波数帯に対応していれば、5GHz 周波数帯の接続に切り替えてください。

- 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定をご確認ください。

■ メディアサーバー（パソコン/NAS）が検出されない

● メディアサーバーの共有設定が正しくない。

本機がメディアサーバーのフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください。詳しくは次をご覧ください。

-「メディアサーバー（パソコン/NAS）の共有設定を行う」(76 ページ)

● セキュリティーソフトなどの設定により、メディアサーバーへのアクセスが制限されている。

メディアサーバーまたはルーターのセキュリティーソフトの設定をご確認ください。

● 本機とメディアサーバーが同じネットワークに接続されていない。

ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、本機とメディアサーバーと同じネットワークに接続してください。

■ メディアサーバー（パソコン/NAS）のファイルが表示（再生）されない

● 本機またはメディアサーバーが非対応のファイル形式を使用している。

本機およびメディアサーバーが対応しているファイル形式を使用してください。本機が対応している音楽ファイルについては、次をご覧ください。

-「対応しているファイルフォーマット」(171 ページ)

■ インターネットラジオを再生できない

● 選択したインターネットラジオ局のサービスが現在停止している。

ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。

● 選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。

時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できいても音はできません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。

● ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。

ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。

■ AirPlay 使用時に、iPhone で本機が検出されない

● マルチ SSID 対応ルーターを使用している。

無線 LAN ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPhone を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください（プライマリ SSID への接続をお試しください）。

■ モバイル機器の専用アプリケーションで本機が検出されない

- 本機とモバイル機器が同じネットワークに接続されていない。
ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
- マルチ SSID 対応ルーターを使用している。
無線 LAN ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPhone を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください（プライマリ SSID への接続をお試しください）。

■ ネットワーク経由でファームウェアを更新できない

- ネットワークの接続状態がよくない。
しばらく経ってから再度実行するか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。詳しくは次をご覧ください。
- 「ファームウェアを更新する（UPDATE）」（142 ページ）

Bluetooth®のトラブル

■ Bluetooth®機器と接続できない

- 本機の Bluetooth 機能が無効になっている。
Bluetooth 機能を有効にしてください。詳しくは次をご覧ください。
- 「Bluetooth を設定する」（126 ページ）
- 本機が別の Bluetooth 機器と接続されている。
現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください。
- 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。
本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。
本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。また、無線 LAN ルーターが 5GHz 周波数帯に対応していれば、5GHz 周波数帯の接続に切り替えてください。
- お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。
A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器をお使いください。
- Bluetooth 機器に登録されている接続情報が何らかの原因で正しく機能していない。
Bluetooth 機器の接続情報を削除してから、本機と Bluetooth 機器の接続操作を行ってください。詳しくは次をご覧ください。
- 「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」（72 ページ）

■ Bluetooth®接続時に音が出ない、音が途切れる

- Bluetooth 機器の音量が小さすぎる。

Bluetooth 機器の音量を上げてください。

- Bluetooth 機器の出力切り替えが本機に設定されていない。

Bluetooth 機器の出力切り替えを本機に設定してください。

- Bluetooth 接続が切断された。

再度 Bluetooth 接続を行ってください。詳しくは次をご覧ください。

– 「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」(72 ページ)

- 距離が離れすぎている。

Bluetooth 機器を本機の近くに移動してください。

- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。また、無線 LAN ルーターが 5GHz 周波数帯に対応していれば、5GHz 周波数帯の接続に切り替えてください。

本体前面ディスプレイのエラー表示

本体前面ディスプレイのエラー表示

本体前面ディスプレイにエラーが表示された場合は、次表をご確認ください。

メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
Access denied	メディアサーバー（パソコン/NAS）がアクセスを拒否している。	本機がメディアサーバー（パソコン/NAS）のフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください。詳しくは次をご覧ください。 ・「メディアサーバー（パソコン/NAS）の共有設定を行う」（76 ページ）
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	ネットワーク経路に問題が発生している。	ルーターおよびモデムの電源が入っているか、本機とルーター（またはハブ）が正しく接続されているか確認してください。詳しくは次をご覧ください。 ・「ネットワークケーブルを接続する（有線接続）」（39 ページ） ・「無線アンテナを準備する（無線接続）」（40 ページ）
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは次をご覧ください。 ・「スピーカーを接続する」（23 ページ）
FILE NOT READY	ファームウェアの更新の準備が完了していない。	新しいファームウェアのダウンロードがまだ完了していません。準備が完了するまで、しばらくお待ちください。
Internal Error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Not connected	ネットワークケーブルが接続されていない。	ネットワークケーブルを正しく接続してください。
	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が見つからない。	無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の電源が入っているか確認してください。
Please wait	ネットワークへの接続準備中です。	メッセージが消えるまでしばらくお待ちください。3 分以上経ってもメッセージが消えない場合は、本機の電源を入れ直してください。
RemID Mismatch	リモコン ID が一致していない。	リモコンまたは本機のリモコン ID を変更して ID を一致させてください。詳しくは次をご覧ください。 ・「リモコン ID を設定する（REMOTE ID）」（139 ページ）

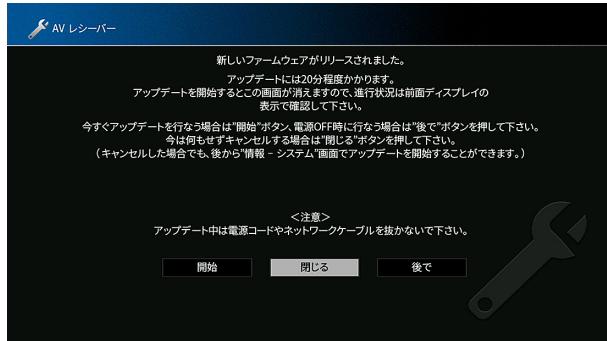
メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
Unable to play	iPhone の曲を再生できない。	再生可能なファイルか確認してください。iPhone 本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。
	メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲が再生できない。	本機で再生可能なファイルか確認してください。本機が対応している音楽ファイルについては、次をご覧ください。 <ul style="list-style-type: none"> 「対応しているファイルフォーマット」(171 ページ) <p>本機が対応しているファイルなのに再生できない場合は、ネットワークに大きな負荷がかかっている可能性があります。</p>
Update failed.	ファームウェアの更新に失敗している。	STRAIGHT キーを押してファームウェアの更新方法を選び、INFO キーを押し再度ファームウェアを更新してください。詳しくは次をご覧ください。 <ul style="list-style-type: none"> 「ファームウェアを更新する（UPDATE）」(142 ページ) 「ファームウェアの更新について」(155 ページ)
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Version error	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください。詳しくは次をご覧ください。 <ul style="list-style-type: none"> 「ファームウェアを更新する（UPDATE）」(142 ページ) 「ファームウェアの更新について」(155 ページ)

付録

ファームウェアを更新する

ファームウェアの更新について

機能の追加や不具合の改善に応じて、本機用の新しいファームウェアが提供されることがあります。本機がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアが提供されて更新の準備が整うと、SETUP キーを押したあとに次のメッセージが表示されます。



ファームウェアの更新方法については、次をご覧ください。

- ・「ネットワーク経由でファームウェアを更新する」(156 ページ)

注意

- ・ ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

お知らせ

- ・ 本機がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアに更新する準備が完了すると、本体前面ディスプレイのファームウェア更新表示が点灯します。更新保留状態でさらに新しいバージョンのファームウェアが取得された場合は、この表示が一時的に消灯する場合があります。
- ・ ファームウェア更新の所要時間は約 20 分です。
- ・ インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、ネットワーク状況が悪いとファームウェア更新の通知が来ない場合があります。そのような場合は、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。USB メモリーを使ったファームウェアの更新については、次をご覧ください。
-「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(142 ページ)
- ・ ファームウェアに関する詳細は、弊社ウェブサイトをご覧ください。

ネットワーク経由でファームウェアを更新する

SETUP キーを押したあとに表示されるメッセージ画面を見ながら、すぐにファームウェアを更新します。

- 1** 画面の説明を読む。
- 2** カーソルキーで「開始」を選び、ENTER キーを押す。
画面表示がオフになり、ファームウェアのアップデートがスタートします。
- 3** 本体前面ディスプレイに「UPDATE SUCCESS PLEASE POWER OFF!」と表示されたら、本体の ⏻ (電源) キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。

お知らせ

- ファームウェアを更新せずにメッセージ画面を閉じるには、手順 2 で「閉じる」を選び、ENTER キーを押します。
- 電源を切る時にファームウェアを更新するには、手順 2 で「後で」を選び、ENTER キーを押すことで、ファームウェア更新を予約します。電源を切る時には、ファームウェア更新の予約があると更新実施確認画面が表示されます。ENTER キーまたは本体前面の INFO キーを押して更新を開始すると、更新の完了で自動的に電源が切れます。
- 電源を切る時にファームウェアを更新する場合は、次の点に注意してください。
 - 更新実施確認画面が表示されてから 2 分間経過すると、更新せずに電源が切れます。
 - RETURN キーを押すと更新はキャンセルされ、すぐに電源が切れます。
 - AV CONTROLLER や MusicCast CONTROLLER により本機の電源を切ると、更新せずに電源が切れます。

ワイヤレスサラウンドスピーカーを使う (MusicCast サラウンド機能)

ワイヤレスサラウンドスピーカーを使う (MusicCast サラウンド機能)

MusicCast サラウンド（子機）機能に対応した機器を使って、サラウンドスピーカー やサブウーファーをワイヤレス化し、5.1.2/5.1 システムをお楽しみいただけます。

お知らせ

- 5.1.2/5.1 システムについて詳しくは、次をご覧ください。
-「5.1.2 システムで使用する」(26 ページ)
- MusicCast サラウンド（子機）対応機器の設置・操作など詳細については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

■ MusicCast サラウンド（子機）対応機器

2018年12月1日現在

ワイヤレスストリーミングスピーカー

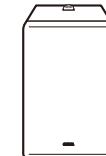


MusicCast 50

ネットワークサブウーファー



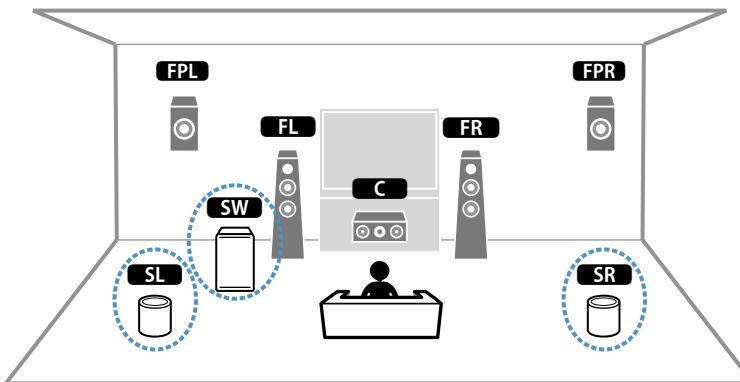
MusicCast 20



MusicCast SUB 100

■ スピーカーの配置例

サラウンドスピーカーとして MusicCast 20 × 2 台、サブウーファーとして MusicCast SUB 100 × 1 台を使用した 5.1.2 システムの場合です。



お知らせ

- 5.1.2 および 5.1 システムでは、サラウンドスピーカーとサブウーファーをワイヤレス化できます。そのほかのシステムでは、サブウーファーのみワイヤレス化できます。
- サラウンドスピーカーをワイヤレス化する場合
 - 本機のスピーカ端子 (SURROUND) およびプリアウト端子 (SURROUND) からは音声出力されません。
 - サラウンドバックスピーカーは使用できません。
- サブウーファーをワイヤレス化する場合
 - ワイヤレス化できるサブウーファーは1台です。
 - 本機のプリアウト端子 (SUBWOOFER1/2) からは音声出力されません。そのため、別のサブウーファーを音声ケーブルで接続して使うことはできません。
- 以下の音声は、ワイヤレス化したサラウンドスピーカーやサブウーファーからは出力されません。
 - DSD の音声
 - HDMI 入力の DVD-Audio、SACD の音声

- 1 本機と MusicCast サラウンド（子機）対応機器を、MusicCast CONTROLLER アプリの同じロケーションに登録する。
- 2 アプリ画面にしたがって、MusicCast サラウンド機能を設定する。



詳しい設定手順は次をご参照ください。
<https://download.yamaha.com/files/tcm:39-1212383>

- 3 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）。

お知らせ

- YPAOについて詳しくは、次をご覧ください。
-「スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）」(44 ページ)
- マルチ測定は利用できません。

- 4 測定結果を確認する。

MusicCast CONTROLLER を操作して、コンテンツ再生をお楽しみください。

無線接続する

無線ネットワークの接続方法を選ぶ

お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選んでください。

お知らせ

- ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、別途、ネットワークの設定が必要です。詳しくは次をご覧ください。
-「ネットワーク情報を手動設定する」(123 ページ)
- 本機を MusicCast ネットワークに登録するときに、ネットワーク設定も行えます。MusicCast を利用する場合は、この方法をおすすめします。詳しくは次をご覧ください。
-「MusicCast ネットワークに登録する」(51 ページ)

- ① Ⓛ (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。
- ② テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。
- ③ SETUP キーを押す。
- ④ カーソルキーで「ネットワーク設定」を選び、ENTER キーを押す。
- ⑤ カーソルキーで「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。
- ⑥ カーソルキーで「無線 (Wi-Fi)」を選び、ENTER キーを押す。
「無線 (Wi-Fi)」にチェックが入ります。
- ⑦ カーソルキーで「OK」を選び、ENTER キーを押す。

次から無線接続設定の方法を選んでください。

- 「WPS ボタンを使って無線接続する」(159 ページ)
- 「iOS デバイスを使って無線接続する」(160 ページ)
- 「アクセスポイントの一覧から無線接続する」(161 ページ)
- 「手動で無線接続する」(162 ページ)

- 「PIN コード式の WPS で無線接続する」(163 ページ)

WPS ボタンを使って無線接続する

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押して、無線接続を簡単に設定します。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク接続」>「無線 (Wi-Fi)」

- 1 カーソルキーで「WPS ボタン」を選び、ENTER キーを押す。
「WPS ボタン」にチェックが入ります。
 - 2 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。
 - 3 無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押す。
 - 4 カーソルキーで「接続」を選び、ENTER キーを押す。
接続が完了すると、「完了しました」と表示されます。
「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。
- これでネットワーク設定は完了です。

お知らせ

- 暗号化方式として WEP を使用している無線 LAN ルーター（アクセスポイント）には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。
- 本体前面の INFO (WPS) キーでも無線接続の設定ができます。INFO (WPS) キーを数秒間押し続け、本体前面ディスプレイに「Press WPS button on Access Point」と表示されたら WPS ボタンを押してください。

WPS とは

WPS (Wi-Fi Protected Setup) とは、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。

iOS デバイスを使って無線接続する

お手持ちの iOS デバイス (iPhone/iPad/iPod touch) のネットワーク設定を本機に適用して、無線接続を設定します。

設定を始める前に、お使いの iOS デバイスが無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に接続されていることを確認してください。

お知らせ

- 次の設定内容が初期化されます。
 - ネットワーク設定
 - Bluetooth 設定
 - ショートカットに登録したコンテンツ（Bluetooth 機器、メディアサーバー/USB 機器の曲、インターネットラジオ局）
 - お気に入りに登録したインターネットラジオ局
 - 各ミュージックサービスのアカウント情報
- iOS7 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。
- 暗号化方式として WEP を使用している無線 LAN ルーター（アクセスポイント）には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。
- ネットワークケーブルが本機に接続されている場合は、警告メッセージが表示されます。ネットワークケーブルを取り外してから、操作してください。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク接続」>「無線（Wi-Fi）」

1 カーソルキーで「Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）」を選び、ENTER キーを押す。

「Wi-Fi 設定を共有（iOS デバイス）」にチェックが入ります。

2 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。

3 画面上の説明を読み、ENTER キーを押す。

4 iOS デバイスの Wi-Fi 画面で、本機を AirPlay スピーカーに設定する。

iOS 10（日本語での表示例）



5 設定を本機と共有する無線ネットワーク（アクセスポイント）を選ぶ。

共有操作が完了すると、本機は自動的に選択した無線ネットワーク（アクセスポイント）に接続します。

6 SETUP キーを押す。

これでネットワーク設定は完了です。

アクセスポイントの一覧から無線接続する

本機が検索した無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の一覧から接続先を選択して、無線接続を設定します。

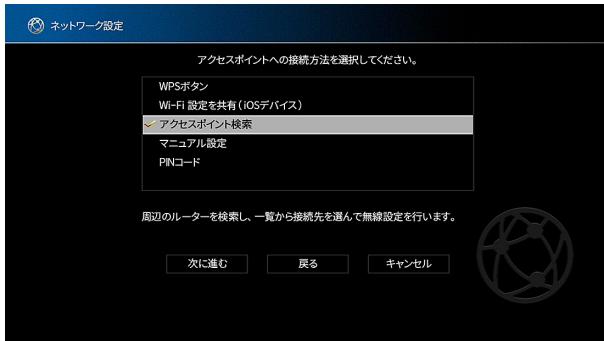
セキュリティキーを手動で設定する必要があります。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク接続」>「無線（Wi-Fi）」

1 カーソルキーで「アクセスポイント検索」を選び、ENTER キーを押す。

「アクセスポイント検索」にチェックが入ります。



2 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。

アクセスポイントの検索が始まります。しばらくすると、テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

3 カーソルキーで接続したいアクセスポイントを選び、ENTER キーを押す。

アクセスポイントにチェックが入ります。

4 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。

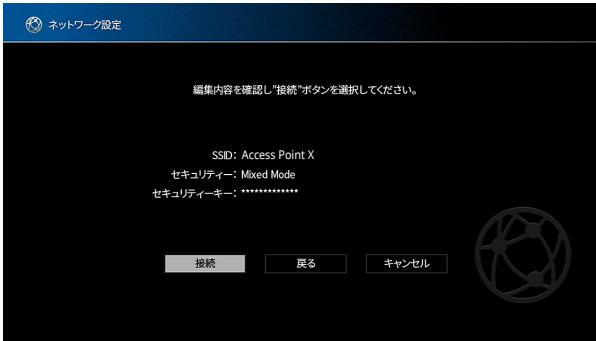
編集画面が表示されます。

5 カーソルキーと ENTER キーでセキュリティキーを入力する。



6 入力が終わったらカーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。

無線接続の設定確認画面が表示されます。



7 カーソルキーで「接続」を選び、ENTER キーを押す。

本機は選択したアクセスポイントへの接続を開始します。接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

8 SETUP キーを押す。

これで無線接続は完了です。

手動で無線接続する

SSIDなど、必要な情報を手動で入力して、無線接続を設定します。SSID（ネットワーク名）や暗号化方式、セキュリティーキーを手動で設定する必要があります。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク接続」>「無線（Wi-Fi）」

- 1 カーソルキーで「マニュアル設定」を選び、ENTERキーを押す。
「マニュアル設定」にチェックが入ります。
- 2 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTERキーを押す。
編集画面が表示されます。
- 3 カーソルキーとENTERキーで無線LANルーター（アクセスポイント）のSSIDを入力する。



- 4 入力が終わったらカーソルキーで「次に進む」を選び、ENTERキーを押す。

セキュリティ方式の選択画面が表示されます。

- 5 カーソルキーで暗号化方式を選び、ENTERキーを押す。

選択項目

使用しない、WEP、WPA-PSK (AES)、Mixed Mode

お知らせ

「使用しない」を選ぶと、通信が暗号化されないため、セキュリティ上のリスクがあります。

選択した暗号化方式にチェックが入ります。

- 6 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTERキーを押す。
編集画面が表示されます。

お知らせ

手順5で「使用しない」を選んだ場合は、セキュリティーキーは設定できません。

- 7 カーソルキーとENTERキーでセキュリティーキーを入力する。

- 8 入力が終わったらカーソルキーで「次へ進む」を選び、ENTERキーを押す。

無線接続の設定確認画面が表示されます。

- 9 カーソルキーで「接続」を選び、ENTERキーを押す。

本機は設定したアクセスポイントへの接続を開始します。接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順1からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

- 10 SETUPキーを押す。

これで無線接続は完了です。

PIN コード式の WPS で無線接続する

無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に PIN コードを入力して、無線接続を設定します。無線 LAN ルーター（アクセスポイント）が PIN コード式の WPS に対応している場合に利用できます。

設定メニュー

「ネットワーク設定」>「ネットワーク接続」>「無線（Wi-Fi）」

1 カーソルキーで「PIN コード」を選び、ENTER キーを押す。

「PIN コード」にチェックが入ります。

2 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。

テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

3 カーソルキーで接続したいアクセスポイントを選び、ENTER キーを押す。

アクセスポイントにチェックが入ります。

4 カーソルキーで「次に進む」を選び、ENTER キーを押す。

本機の PIN コードがテレビ画面に表示されます。

5 本機の PIN コードを無線 LAN ルーター（アクセスポイント）に設定する。

設定方法については無線 LAN ルーター（アクセスポイント）の取扱説明書をご覧ください。

6 ENTER キーを押す。

本機は設定したアクセスポイントへの接続を開始します。接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

7 SETUP キーを押す。

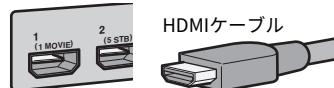
これで無線接続は完了です。

入出力端子とケーブル

映像/音声を入出力する端子

HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



お知らせ

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、なるべく短いケーブルのご使用をおすすめします。
- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル (ARC)、3D 映像、4K Ultra HD 映像の伝送に対応しています。
- 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、プレミアムハイスピード HDMI ケーブルまたはイーサネット対応プレミアムハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

映像を入出力する端子

COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号 (Y)、青色差信号 (Pb)、赤色差信号 (Pr) に分離して伝送します。接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントケーブルを使います。



VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



音声を入出力する端子

OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



COAXIAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



AUDIO 端子

アナログステレオ音声を伝送します。

(ステレオ L/R 端子)

接続には、ステレオピンケーブルを使います。



(ステレオミニ端子)

接続には、ステレオミニプラグのケーブルを使用します。



プレゼンススピーカーの設置について

プレゼンススピーカーの設置

プレゼンススピーカーの配置方法は、次の3種類あります。視聴環境に合わせていずれかを選んでください。

- ・フロントハイト
- ・オーバーヘッド
- ・ドルビーアイネーブルド SP

お知らせ

- どの設置方法でも Dolby Atmos、DTS:X およびシネマ DSP 3D をお楽しみいただけます。
- プrezensスピーカーを使用する場合は、スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）前に、設定メニューの「配置」で該当するプレゼンススピーカーを選択してください。詳しくは次をご覧ください。
-「プレゼンススピーカーの配置を設定する」(103 ページ)

プレゼンススピーカーをフロントハイトに設置する

プレゼンススピーカーを部屋の前方の壁（フロントハイト）に設置します。上下左右の空間のつながり感と広がり感を効果的に再現します。



プレゼンススピーカーをオーバーヘッドに設置する

プレゼンススピーカーを視聴位置上部の天井（オーバーヘッド）に設置します。上部からのリアルな効果音や前後のつながりを効果的に再現します。



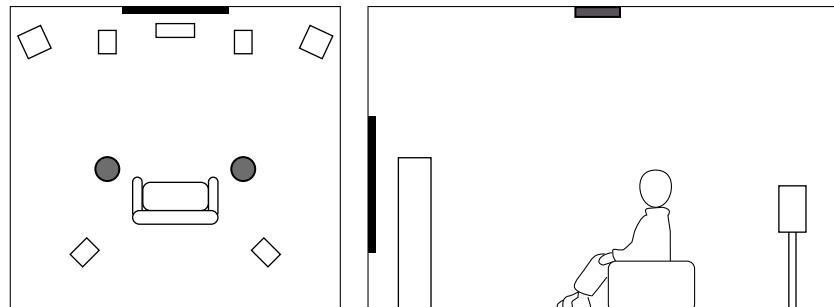
注意

- 必ず天井への取り付けに対応したスピーカーを使用し、落下防止措置を講じてください。スピーカーが落下し、故障やけがの原因となります。また、取り付けはご購入店または専門業者に依頼してください。



お知らせ

プレゼンススピーカーを天井に取り付ける場合は、視聴位置の上部、または視聴位置とフロントスピーカーの間の天井に設置します。



プレゼンスピーカーにドルビーアイネーブルド SP を使用する

プレゼンスピーカーとしてドルビーアイネーブルドスピーカー(Dolby Enabled Speaker)を使用します。天井の反射を利用し、床置きのスピーカーのみで上方スピーカーを再現できます。

詳しくは、ドルビーアイネーブルドスピーカーの取扱説明書をご覧ください。



お知らせ

- ドルビーアイネーブルドスピーカーはフロントスピーカーの上部またはすぐそばに配置してください。
- 1本のスピーカーにドルビーアイネーブルドスピーカーが組み込まれている場合もあります。

音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマットに関する用語

本説明書で使用する音声デコードフォーマットに関する用語を解説します。

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- サンプリング周波数

1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。

- 量子化ビット数

音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Atmos

最初に映画館から導入された音響技術で、オブジェクト化された信号を正確かつ自由に定位または移動させて、3次元的な音響空間を簡単に創り出せます。ホームシアターへの導入により、画期的なシネマサウンドを家庭でも楽しめるようになりました。視聴者の上方から聞こえる音を活用しているのが大きな特徴です。

Dolby Atmos ストリーム

Dolby Atmos コンテンツは、Dolby Atmos ストリームを含む Dolby Digital Plus、または Dolby TrueHD フォーマットで収録された BD（ブルーレイディスク）、ダウンロードファイル、ストリーミングなどにより、Dolby Atmos 対応 AV レシーバー向けに提供されます。Dolby Atmos ストリームには音の位置に関する情報（メタデータ）が含まれており、Dolby Atmos 対応 AV レシーバーで再生する場合は、その情報に基づいてさまざまなホームシアター環境に最適な音響空間を創り出します。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD などで採用されています。

Dolby Digital Plus

ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

Dolby Enabled Speaker

天井にスピーカーを設置できない場合に、天井の反射音を利用して上方からのサラウンド感を創り出すドルビー社が開発したスピーカーです。独自のドライバーや信号処理システムを従来のスピーカーに組み込んだり、独立型のスピーカーとして設置したりすることで、従来のスピーカーの長所は生かしつつ、Dolby Atmos コンテンツの再生時に非常にリアルなサラウンド感を創り出すことを可能にしています。

Dolby Surround

2~7.1 チャンネルのコンテンツを、使用されるスピーカーシステムに合わせて拡張できる次世代のサラウンド技術です。インシーリング・スピーカー（埋め込みスピーカー）やドルビーイネーブルドスピーカーなど、Dolby Atmos の再生に適したシステムはもちろん、従来のスピーカーレイアウトでも Dolby Surround を楽しめます。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS ダイアログコントロール

中央に定位する音（セリフなど）の音量を高める機能です。雑音の多い環境で視聴する場合などに、セリフなどの音を聞き取りやすくします。また、聴力障害をもつ方にとっても便利な機能です。なお、コンテンツによっては DTS ダイアログコントロールを使用できない場合があります。ファームウェアの更新により、新たな機能が追加されたり、機能が拡張されたりする場合があります。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD などで採用されています。

DTS96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD などで採用されています。

DTS-ES

DTS-ES 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。サラウンドバックチャンネルの信号をサラウンドチャンネル信号に合成して収録するマトリックス方式と、独立した信号を収録するディスクリート方式があります。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD (ブルーレイディスク) のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD (ブルーレイディスク) などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス (可逆型) 高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル (192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル) のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD (ブルーレイディスク) で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

DTS:X

DTS:X は、DTS 社により開発された次世代オブジェクトベースのサラウンド技術です。チャンネルの枠を超えて音のオブジェクトが聴覚者を包み込む音場空間内を自由に動き、より正確な音場表現を実現します。この音場表現が、これまでにない音の豊かさやアリアリティ、没入感を生み出します。テレビ内蔵のスピーカーから、ホームシアターのスピーカー、さらには映画館に設置された多数のスピーカーに至るまで、多様なスピーカーの配置と視聴スペースに合わせて音声を自動調整し、最高の音響空間をつくり出します。さらに詳しい情報については、<http://www.dts.com/dtsx> をご覧ください。

DSD (ダイレクト・ストリーム・デジタル)

SACD (スーパーオーディオ CD) などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の 1 つです。最高 11.2Mbps の高ビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

FLAC (Free Lossless Audio Codec)

音声圧縮方式の 1 つで、ロスレス (可逆型) 圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るもの、音質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の 1 つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮できます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

Neural:X

Neural:X は、DTS 社による最新のダウンミックス/アップミックス技術であり、空間の再配置技術です。DTS:X に組み込まれており、Neural:X エンコードされた信号、通常の信号 (PCM) のどちらもアップミックスできます。DTS:X に対応した AV レシーバーでは、Neural:X が最大で 11.x チャンネルの信号をつくり出します。

PCM (パルス・コード・モジュレーション)

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとしてさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

WAV

Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ (非圧縮) が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA (Windows Media Audio)

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

■ 音声デコードフォーマット以外の音声に関する用語

本説明書で使用する音声に関する用語を解説します。

バイアンプ接続

スピーカーのウーファーとツイーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して駆動することにより、相互影響を排除した、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク (Lipsync)

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補正します。

LFE (低域効果音) 0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20~120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

HDMI/映像に関する用語

本説明書で使用する HDMI/映像に関する用語を解説します。

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号および Pr/Cr 信号の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたため、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDCP

HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) は、HDMI などのデジタルインターフェースを介したコンテンツの不正なコピーを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI (High-Definition Multimedia Interface Specification) 規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術 (HDCP : High-bandwidth Digital Content Protection System) に対応しています。より詳しい情報は、<http://www.hDMI.org> を参照ください。

x.v.Color

HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ネットワークに関する用語

本説明書で使用するネットワークに関する用語を解説します。

SSID (Service Set Identifier)

無線ネットワークのアクセスポイントを特定するための名前です。

Wi-Fi

無線電波を使用して、電子機器間でデータをやり取りしたり、インターネットに接続できるようにする技術です。無線接続のため、ネットワークケーブルを使った有線接続の煩雑さがないのが利点です。Wi-Fi Alliance の互換性テストをクリアした製品のみに「Wi-Fi Certified」ロゴが付与されます。

WPS (Wi-Fi Protected Setup)

Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。

ヤマハテクノロジーに関する用語

本説明書で使用するヤマハテクノロジーに関する用語、技術を解説します。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

本来映画館用に設計されたシステムをご家庭で再生すると、部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てします。シネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP 3D

高さ方向の情報も含めた 3 次元の実測音場データを応用し、立体的な 3D 音場を再現します。

バーチャルシネマ DSP

フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマフロント

サラウンドスピーカーを前方に配置したときに、後方の音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを前方に配置しても、サラウンド再生をお楽しみいただけます。

バーチャル・プレゼンス・スピーカー (VPS)

センタースピーカーとサラウンドスピーカーを使用し、仮想的にプレゼンススピーカーの音場を再現する技術です。プレゼンススピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の豊かな 3 次元音場空間をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット (MP3、AAC など) で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

バーチャル・サラウンドバック・スピーカー (VSBS)

サラウンドスピーカーを使用し、仮想的にサラウンドバックスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドバックスピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の後方奥行き感ある音場空間をお楽しみいただけます。

YPAO (Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整する技術です。

対応している機器とフォーマット

対応している Bluetooth 機器

- 本機が対応している Bluetooth 機器は、次をご確認ください。
- A2DP プロファイルに対応した Bluetooth 機器に対応しています。
 - すべての Bluetooth 機器に対する接続を保証するものではありません。

対応している USB 機器

- 本機が対応している USB 機器は、次をご確認ください。
- FAT16 または FAT32 でフォーマットされた USB メモリーに対応しています。
 - 他の USB 機器は接続しないでください。
 - 暗号化機能がある USB 機器は使用できません。
 - すべての USB 機器に対する接続を保証するものではありません。

対応している AirPlay 機器

この AV レシーバーは AirPlay 2 に対応しています。iOS 11.4 以降が必要です。

対応しているファイルフォーマット

本機が対応しているファイルフォーマットは、次をご確認ください。

ファイル	サンプリング周波数 (kHz)	量子化ビット数 (bit)	ビットレート (kbps)	チャンネル数	ギャップレス再生対応
WAV*	32/44.1/48/8 8.2/96/176.4 /192	16/24/32	-	2	✓
MP3	32/44.1/48	-	8 ~ 320	2	-
WMA	32/44.1/48	-	8 ~ 320	2	-
MPEG-4 AAC	32/44.1/48	-	8 ~ 320	2	-
FLAC	32/44.1/48/8 8.2/96/176.4 /192	16/24	-	2	✓
ALAC	32/44.1/48/8 8.2/96	16/24	-	2	✓
AIFF	32/44.1/48/8 8.2/96/176.4 /192	16/24/32	-	2	✓
DSD	2.8 MHz/5.6 MHz/11.2 MHz	1	-	2	-

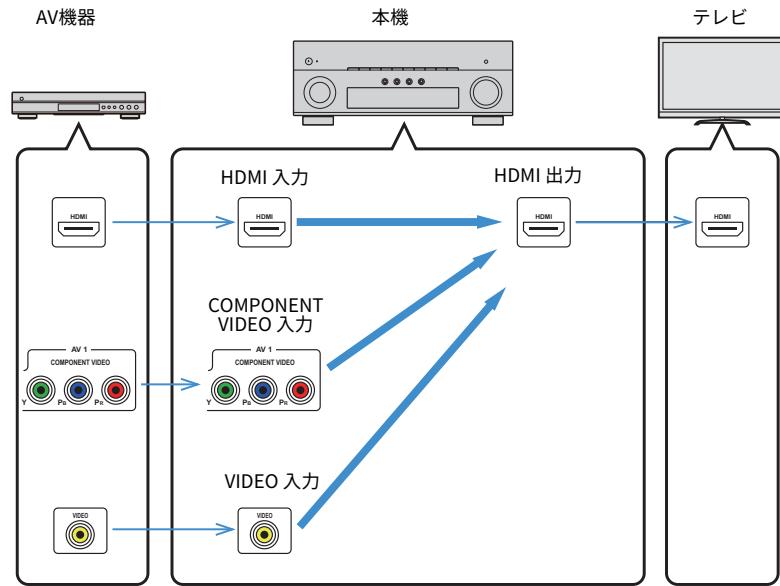
* リニア PCM フォーマットのみ。32bit-float ファイルは再生できません。

- メディアサーバー（パソコン/NAS）にインストールされているサーバーソフトにより、再生可能フォーマットが異なります。詳しくはサーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。
- DRM（デジタル著作権管理）により保護されたファイルは再生できません。

映像信号の流れ

映像信号の流れ

AV 機器から本機に入力された映像信号は、次のようにテレビに出力されます。



映像信号変換表

次に映像信号の変換表を示します。

お知らせ

設定メニューの「ビデオモード」で、出力する HDMI 映像信号の解像度やアスペクト比を設定できます。詳しくは次をご覧ください。

- 「HDMI 映像信号の出力解像度を設定する」(118 ページ)

	解像度	HDMI 出力					
		480i/ 576i	480p/ 576p	720p	1080i	1080p	4K
HDMI 入力	480i/576i	→	→	→	→	→	→
	480p/576p		→	→	→	→	→
	720p			→	→	→	→
	1080i			→	→	→	→
	1080p/50, 60 Hz			→	→	→	→
	1080p/24 Hz					→	→
	4K						→
COMPONENT VIDEO 入力	480i/576i	→	→	→	→	→	→
VIDEO 入力	480i/576i	→	→	→	→	→	→

→: 出力可

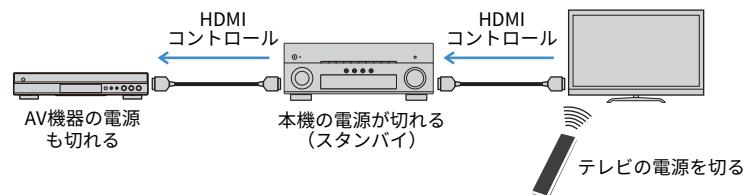
HDMIについて

HDMIコントロールと連動機能

HDMIケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMIコントロール）。またHDMIケーブルで接続したAV機器（HDMIコントロール対応のBD/DVDプレーヤーなど）も操作できます。

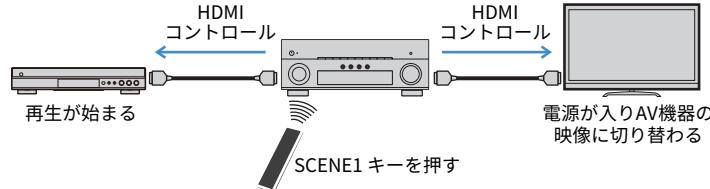
テレビのリモコン操作による連動機能

- ・電源スタンバイ
- ・音量調節および消音
- ・テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- ・テレビでAV機器を選択時に、本機の入力をAV機器に切り替え（映像をテレビに出力）
- ・音声出力機器の切り替え（本機またはテレビ）



本機のリモコン操作による連動機能

- ・シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入
- ・テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示（SETUPキー操作時）
- ・テレビに映像を表示しているAV機器（再生機能およびメニュー）を操作
- ・設定メニューの「TV音声入力」で設定された入力を選択時に、テレビを操作
- ・リモコンのカラーキー（RED、GREEN、YELLOW、BLUE）の機能に「TVコントロール」を割り当てた場合、カラーキーでテレビを操作



お知らせ

- ・HDMIコントロールは正しく機能しない場合があります。
- ・シーン選択との連動については、次をご覧ください。
-「SCENEキーに登録したシーンを呼び出す」（81ページ）
- ・設定メニューの「TV音声入力」については、次をご覧ください。
-「テレビからの音声を入力する端子を設定する」（119ページ）
- ・カラーキーの機能設定については、次をご覧ください。
-「リモコンのカラーキーの機能を設定する」（134ページ）

HDMIコントロールを使うには、テレビ、AV機器を接続後に次の連動設定が必要です。テレビ、AV機器の設定や操作については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

HDMIコントロール対応の機器を新しく追加するたびに、次の設定が必要になります。

- 1 本機、テレビ、AV機器の電源を入れる。

- 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の AV 機器（BD/DVD プレーヤーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。**

本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」を「オン」に設定してから、関連項目（TV 音声入力、スタンバイ連動、ARC）を設定します。詳しくは次をご覧ください。

 - 「HDMI コントロールを設定する」（119 ページ）
- 3 テレビの主電源を切ってから、本機と AV 機器の電源を切る。**
- 4 本機と AV 機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。**
- 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。**
- 6 本機の入力が AV 機器からの HDMI 入力（「HDMI1～7」のいずれか）に切り替わっていることを確認する。**

ほかの入力が選ばれている場合は、手動で AV 機器からの入力を選んでください。
- 7 テレビ画面に AV 機器の映像が表示されていることを確認する。**
- 8 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。**

お知らせ

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、AV 機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善される場合があります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されると正しく機能しない場合があります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- 電源 ON のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと AV 機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。

オーディオリターンチャンネル（ARC）

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。HDMI コントロールの設定後、次の手順で確認してください。

お知らせ

HDMI コントロールの設定については、次をご覧ください。

- 「HDMI コントロールと連動機能」（173 ページ）

1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。

2 本機の入力が自動的に「AUDIO1」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されることを確認する。

テレビの音声が出力されない場合は、次をご確認ください。

- 設定メニューの「ARC」が「オン」になっている。詳しくは次をご覧ください。
 - 「ARC を設定する」（120 ページ）
- HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。

テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」を「オフ」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください。詳しくは次をご覧ください。
 - 「ARC を設定する」（120 ページ）
 - 「OPTICAL 端子」（164 ページ）
- ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルでテレビと本機を接続してください。
- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能を使う場合は、SCENE (7) キーの入力設定もあわせて変更してください。詳しくは次をご覧ください。
 - 「テレビからの音声を入力する端子を設定する」（119 ページ）
 - 「SCENE キーの登録内容を変更する」（83 ページ）

対応している HDMI 信号

本機の HDMI 信号については、次をご確認ください。

- 一部の AV 機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像/音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、AV 機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、AV 機器で設定を変更してください。詳しくは、AV 機器の取扱説明書をご覧ください。
- AV 機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で本機に入力すれば、音声解説を楽しめます。詳しくは、AV 機器の取扱説明書をご覧ください。なお、BD などの音声解説（インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

商標

商標

本説明書で使用している商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Surround、Dolby Vision、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。

DTS とそのシンボルマーク、および DTS とそのシンボルマークの組み合わせ、DTS:X、DTS-X ロゴは米国及び他の国々における DTS, Inc. の登録商標または商標です。

©DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマーク（マーク）はドルビーラボラトリーズの商標です。



「サイレントシネマ™ SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。



この AV レシーバーは AirPlay 2 に対応しています。
iOS 11.4 以降が必要です。

Works with Apple バッジを表記したアクセサリーは、バッジが表す技術に適合するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定されたアクセサリーであることを示します。

Apple、AirPlay、Apple TV、Apple Watch、iPad、iPad Air、iPad Pro、iPhone、Lightning、iTunes は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

日本国内において、iPhone 商標はアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。



App Store は Apple Inc. のサービスマークです。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。



「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。



Windows は米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。

Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標、または商標です。



Android、Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴおよび Wi-Fi Protected Setup ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

Wi-Fi、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi Protected Setup および WPA2 は Wi-Fi Alliance の登録商標または商標です。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。



「ラジコ」、「radiko」 および radiko ロゴは株式会社 radiko の登録商標です。



Spotify および Spotify ロゴは Spotify Group の登録商標です。

Spotify のソフトウェアは、次に記載のサードパーティソフトウェアを利用しています。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses



Deezer および Deezer ロゴはフランスおよびその他の国に登録済みの Deezer S.A. の登録商標です。



MusicCast は、ヤマハ株式会社の商標または登録商標です。



ヤマハエコラベルは、優れた環境性能を備えた製品として、ヤマハグループが認定するマークです。

Google Noto Fonts

本製品は以下のフォントを使用しています。

Noto Sans Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/#sans-lgc>)

© June 2015, Google Noto Sans CJK Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/help/cjk/>)

© June 2015, Google

これらのフォントソフトウェアは、SIL Open Font License 1.1 のもとライセンスされています。ライセンスに関しては、<http://scripts.sil.org/OFL> の FAQ をご覧ください。

GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。

お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があります。

GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、次の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/>

ライセンス情報

本製品が使用するサードパーティソフトウェアについては、次で確認できます。

[http://\(本製品のIPアドレス*\)/licenses.html](http://(本製品のIPアドレス*)/licenses.html)

* 本製品の IP アドレスは MusicCast CONTROLLER で確認できます。

主な仕様

主な仕様

本機の主な仕様です。

入力端子

アナログ音声

- ステレオ×5 (AUX[3.5mm ミニ端子]、PHONO 含む)

デジタル音声 (対応 fs : 32kHz～96kHz)

- 光×2
- 同軸×2

映像

- コンポーネントビデオ×1
- コンポジットビデオ×1

HDMI 入力

- HDMI×7

その他

- USB×1 (USB2.0)
- NETWORK (有線) ×1 (100Base-TX/10Base-T)

出力端子

アナログ音声

- スピーカー出力×9 (フロント左/右、センター、サラウンド左/右、エクストラスピーカー1左/右^{*1}、エクストラスピーカー2左/右^{*2})

^{*1} 割り当て変更可能 [プレゼンス、ゾーン2]

^{*2} 割り当て変更可能 [サラウンドバック、ゾーン2、バイアンプ (フロント左/右)]

- プリアウト×7 (フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右)
- サブウーファー出力×2 (モノラル)
- ゾーン2出力×2 (左/右)
- ヘッドホン×1

HDMI 出力

- HDMI×2

その他の端子

- YPAO MIC×1
- REMOTE IN ×1
- REMOTE OUT ×1
- TRIGGER OUT ×1
- RS-232C ×1

HDMI

HDMI 機能

- 4K UltraHD Video (include 4K/60、50Hz 10/12bit)、3D Video、オーディオリターンチャンネル (ARC)、HDMI コントロール (CEC)、オートリップシンク、Deep Color、“x.v.Color”、HD オーディオ再生、HDMI スタンバイスルー時の入力切替機能、21:9 アスペクト比、BT.2020 対応、HDR 対応

映像フォーマット（リピーターモード）

- VGA
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

音声フォーマット

- Dolby Atmos
- Dolby TrueHD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS:X
- DTS-HD Master Audio
- DTS-HD High Resolution Audio
- DTS Express
- DTS
- DSD 2~6 チャンネル (2.8MHz)
- PCM 2~8 チャンネル (Max 192kHz/24bit)
- AAC

著作権保護：HDCP 2.2/2.3 準拠

リンク機能：CEC 対応

チューナー

アナログチューナー

- FM/AM×1 (TUNER)

USB

USB マスストレージクラス

最大供給電流：1.0A

Bluetooth

受信動作

- Bluetooth 機器（スマートフォン、タブレットなど）からの受信機能
- サポートプロファイル
 - A2DP、AVRCP
- 対応コーデック
 - SBC、AAC

送信動作

- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）への送信機能
- サポートプロファイル
 - A2DP、AVRCP
- 対応コーデック
 - SBC
- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）からの再生/停止操作が可能

Bluetooth バージョン

- Ver.4.2

ワイヤレス出力

- Bluetooth Class 2

最大通信距離

- 10m (障害物がないこと)

ネットワーク

PC クライアント機能

AirPlay 対応

インターネットラジオ

Spotify

radiko.jp

Deezer

無線ネットワーク

- 無線 LAN 規格：IEEE802.11a/b/g/n/ac*

* 20MHz チャンネル帯域幅のみ

- 無線周波数帯域：2.4GHz/5GHz

- WPS (Wi-Fi Protected Setup)

- ブッシュボタン式

- PIN コード式

- モバイル機器の直接接続対応

- 対応セキュリティー

- WEP

- WPA2-PSK (AES)

- Mixed Mode

対応デコードフォーマット

デコードフォーマット

- Dolby Atmos

- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus

- Dolby Digital

- DTS:X

- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express

- DTS、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1

- AAC

ポストデコードフォーマット

- Dolby Surround

- DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

- Neural:X

オーディオ部

定格出力 (2ch 駆動) (20Hz～20kHz、0.06%THD、6Ω)

- フロント左/右

100W+100W

定格出力 (2ch 駆動) (1kHz、0.9%THD、6Ω)

- フロント左/右

110W+110W

定格出力 (1ch 駆動) (1kHz、0.9%THD、6Ω)

- フロント左/右、センター、サラウンド左/右、
サラウンドバック左/右

130W/ch

実用最大出力 (JEITA、1kHz、10%THD、6Ω)

- フロント左/右、センター、サラウンド左/右、
サラウンドバック左/右

160W/ch

実用最大出力 (JEITA、1kHz、10%THD、8Ω)

- フロント左/右、センター、サラウンド左/右、
サラウンドバック左/右

160W/ch

ダイナミックパワー (IHF)

- フロント左/右 (8Ω/6Ω/4Ω/2Ω)

130/170/195/240W

ダンピングファクター

- フロント左/右 (20Hz～20kHz、8Ω)

100 以上

入力感度/入力インピーダンス

- PHONO (1kHz、100W/8Ω 換算)

3.5mV/47kΩ

- AV2 他 (1kHz、100W/8Ω 換算)

200mV/47kΩ

最大許容入力

- PHONO (1kHz、0.1%THD)

60mV

- AV2 他 (1kHz、0.5%THD、Effect On)

2.3V

出力電圧/出力インピーダンス	
• プリアウト	
- フロント左/右	1V/2.7 kΩ
- センター	1V/1.7 kΩ
- サラウンド左/右	1V/1.7 kΩ
- サラウンドバック左/右	1V/1.6 kΩ
• サブウーファー	1V/1.2 kΩ
• ゾーン2 アウト	470mV/1.7 kΩ
最大出力レベル	
• プリアウト	1.6V
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
• AV2 他 (1kHz、50mV、8Ω)	100mV/560Ω
周波数特性	
• AV2 他→フロント (10Hz~100kHz)	+0/-3dB
RIAA 偏差	
• PHONO	0±0.5dB
全高調波歪率	
• PHONO→フロント (20Hz~20kHz、10V)	0.02% 以下
• AV2 他→フロント (ピュアダイレクト) (20Hz~20kHz、50W、8Ω)	0.06% 以下
S/N 比 (IHF-A ネットワーク)	
• PHONO (入力ショート 35mV、フロント SP OUT)	96dB 以上
• AV2 他 (ピュアダイレクト) (入力 1kΩ ショート、SP OUT)	110dB 以上
残留ノイズ (IHF-A ネットワーク)	
• フロント左/右 (SP OUT)	150μV 以下

チャンネルセパレーション	
• PHONO (入力ショート、1kHz/10kHz)	60dB/55dB 以上
• AV2 他 (入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz)	70dB/50dB 以上
音量可変範囲	
• メインゾーン	MUTE、-80dB~+16.5dB (0.5dB ステップ)
• ゾーン2	MUTE、-80dB~+10.0dB (0.5dB ステップ)
トーンコントロール特性	
• BASS (可変幅)	±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
• BASS (ターンオーバー周波数)	350Hz
• TREBLE (可変幅)	±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
• TREBLE (ターンオーバー周波数)	3.5kHz
フィルター特性 (fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz)	
• H.P.F. (フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック)	12dB/oct.
• L.P.F. (サブウーファー)	24dB/oct.
ビデオ部	
ビデオ信号方式	
NTSC	
信号レベル	
• コンポジットビデオ	1Vp-p/75Ω
• コンポーネントビデオ	
- Y	1Vp-p/75Ω
- Pb/Pr	0.7Vp-p/75Ω
ビデオ最大許容入力	
1.5Vp-p 以上	
FM チューナー部	
受信周波数範囲	
76.0MHz~94.9MHz (FM 補完放送対応)	

50dB SN 感度 (IHF、1kHz、100% MOD.)	
• モノラル	3μV (20.8dBf)
S/N 比 (IHF)	
• モノラル/ステレオ	69dB/67dB
歪率 (1kHz)	
• モノラル/ステレオ	0.5%/0.6%
アンテナ入力	75Ω、アンバランス

参考寸法 (無線アンテナ直立時) (幅×高さ×奥行き)	435×248×382mm
--------------------------------	---------------

質量	11.0kg
----	--------

* この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

AM チューナー部

受信周波数範囲	531～1611kHz
---------	-------------

総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
------	----------------

消費電力	360W
------	------

待機時消費電力

• HDMI コントロールオフ、スタンバイスルーオフ	0.1W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン (HDMI 無信号時)	0.8W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン (HDMI 無信号、CEC 送受信なしが 8 時間継続後)	0.4W
• ネットワークスタンバイオン	
- 有線	1.3W
- 無線 (Wi-Fi)	1.4W
- Bluetooth	1.4W
• HDMI コントロールオン、スタンバイスルーオン、ネットワークスタンバイオン	
- 無線 (Wi-Fi)	2.0W

寸法 (幅×高さ×奥行き)	435×171×382mm (脚部、突起物を含む)
---------------	---------------------------

初期値一覧

オプションメニュー初期値一覧

本機のオプションメニューの初期値は、次をご確認ください。

トーンコントロール 高音 (Treble)、低音 (Bass)
とともにバイパス (0.0dB)

* 高音 (Treble) と低音 (Bass) の
両方が 0.0dB の場合は、「バイパ
ス」(Bypass) と表示されます。

YPAO ボリューム
• YPAO ボリューム オフ (Off)
• アダプティブ DRC オフ (Off)

ダイアローグ
• セリフ音量調整 0
• DTS ダイアローグ
コントロール 0
• セリフ位置調整 0

(プレゼンスピーカー使用時
で音場プログラム (2ch ステレ
オ、7ch ステレオ以外) が選択
されている場合、または、バー
チャル・プレゼンス・スピーカ
ー (VPS) が機能している場合に
のみ設定可)

リップシンク 0 ms

エンハンサー	オン (On)
- TUNER、Spotify、radiko.jp、 Deezer、AirPlay、MusicCast Link、 SERVER、NET RADIO、Bluetooth、 USB	
- その他	オフ (Off)
ボリュームレベル補正	
• 入力レベル補正	0.0 dB
• サブウーファーレベル補正	0.0 dB
エクストラベース	オフ (Off)
映像処理	
• ビデオモード	ダイレクト (Direct)
映像選択	オフ (Off)
多重モノラル音声	主音声 (Main)
シャッフル / リピート	
• シャッフル	オフ (Off)
• リピート	オフ (Off)
FM モード	ステレオ (Stereo)

設定メニュー初期値一覧

本機の設定メニューの初期値は、次をご確認くだ
さい。

スピーカー設定

パワーアンプ割り当て	Basic
構成	
• フロント	小
• センター	小
• サラウンド	小
- 配置	後方
• サラウンドバック	小
• フロントプレゼンス	小
- 配置	フロントハイト
• クロスオーバー	80 Hz
• サブウーファー	使用する
- 位相	正相
距離	3.00 m
音量	0.0 dB
パラメトリックイコライザー	使用しない
テストトーン	オフ
YPAO 測定結果	
• 測定結果	-

音声設定

情報	-
リップシンク	
・ディレイ有効設定	有効
・自動/手動選択	自動補正
・調整	0 ms
DSP パラメーター	-
サラウンドデコーダー	
・デコーダー選択	自動
・センタースプレッド	オフ
・センターイメージ	0.3
7ch ステレオ	
・レベル	0
・前後バランス	0
・左右バランス	0
・高さバランス	5
・モノラルミックス	オフ
ダイナミックレンジ	最大
ボリューム	
・音量の上限	+16.5 dB
・音量の初期値	オフ
アダプティブ DSP レベル	オン
バーチャルスピーカー	
・VSBS	オン

シーン設定

シーン設定	-
シーン名変更	-
ビデオ/HDMI 設定	
情報	-
ビデオモード	
・ビデオモード	ダイレクト
・解像度	自動判別
・アスペクト	変換しない
HDMI コントロール	
・HDMI コントロール	オン
・TV 音声入力	AUDIO1
・ARC	オン
・スタンバイ連動	自動
HDMI 音声出力	
・HDMI OUT1	オフ
・HDMI OUT2	オフ
HDCP バージョン	
・HDMI 1~7	自動
HDMI スタンバイスルー	オン

ネットワーク設定

情報	-
ネットワーク接続	有線
IP アドレス	
・DHCP	オン
ネットワークスタンバイ	自動
MAC アドレスフィルター	
・フィルター	オフ
DMC からの操作	有効
AirPlay 音量連動	制限あり
ネットワーク名	-
MusicCast Link 電源連動	オフ

Bluetooth 設定

Bluetooth	オン
音声受信	
• デバイス切断	-
• Bluetooth スタンバイ	
音声送信	
• 音声送信機能	オフ
• デバイス検索	-
マルチゾーン設定	
情報	
ゾーン 2 設定	
• 音量	可変
• 音量の上限	+10.0 dB
• 音量の初期値	オフ
• 音声の遅れ	0 ms
• モノラル再生	オフ
• エンハンサー	オン
• トーンコントロール	自動
• エクストラベース	オフ
• 左右バランス	0
ゾーン名変更	
• メインゾーン	-
• ゾーン 2	-
パーティーモード設定	
• 対象：ゾーン 2	有効

システム設定

情報	-
言語設定	日本語
音声入力	-
入力スキップ	オフ
入力名変更	
• HDMI 1~7	自動
• その他	手動 (AV2、AUX、AUDIO4~5、PHONO、 TUNER、MusicCast Link、SERVER、 NET RADIO、Bluetooth、USB は「手 動」のみ選択可)
自動再生	オン * 入力により初期値が異なる場合があ ります。
DSP スキップ	オフ
リモコンキー	
• PROGRAM キー	割り当て 1
• カラーキー	初期値
表示設定	
• デイマー（前面ディスプレイ）	0
• 音量	dB
• ショートメッセージ	オン
• 壁紙設定	ピアノ

トリガー出力

• トリガーモード	パワー
• 対象ゾーン	全ゾーン

エコ設定

• 自動スタンバイ	オフ
• エコモード	オフ

設定保護

ファームウェアアップデート	-
---------------	---

アドバンストセットアップメニュー

—初期値一覧

本機のアドバンストセットアップメニューの初期値は、次をご確認ください。

SP IMP.	8Ω MIN
REMOTE ID	ID1
TV FORMAT	NTSC
MON.CHK	YES
4K MODE	MODE 1
DTS MODE	MODE 1
BKUP/RSTR	BKUP
INIT	CANCEL
UPDATE	USB
VERSION	—

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

 0570-011-808
(全国共通)

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーティに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

 0570-012-808
(全国共通)

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

*品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

*このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コケぐさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Yamaha Global Site
<https://www.yamaha.com/>

Yamaha Downloads
<http://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2018 Yamaha Corporation

2019年7月発行 NV-D0

VCS7540